第二號樣式

用紙半紙版　全罫紙

第　號	種　別	商標形狀ノ大要	住　所	氏　名

備考　一　種別欄ニハ下駄、帽子、燐寸材木等ノ別記入ノコト

二　商標形狀ノ大要欄ニハ　印、㊐印、虎印、キング印、猫印等簡略記載ノコト

三　各物品別ニ口別ケスヘシ

●犯人逮捕内報ニ關スル件

（大正十五年三月二十六日　保刑第一四五〇號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

本月十五日附岐爲第二四三號ヲ以テ岐阜郵便局長ヨリ左記寫ノ通リ照會有之候ニ付テハ將來（申込）ノ通リ取計樣致度此段及通牒候也

左記寫

從來遞信事業ニ關スル犯罪者ニシテ警察官憲ノ手ニ逮捕セラレ又ハ犯人ノ自首シタル場合ニ於ケル連絡方不充分ノ爲メ往々被害金回收其ノ他ノ手配上行違ヲ生スル虞モ有之候ニ就テハ將來之カ連絡ヲ圓滑ナラシムル爲メ此種ノ事實アリタル場合ハ貴縣警察部又ハ貴管内警察官憲ヨリ最寄ノ郵便局長若クハ當局又ハ名古屋遞信局ノ何レカヘ御内報ヲ得度趣ヲ以テ其筋ヨリ照會越候ニ付テハ相當御取計ト共ニ御内報ノ方法等御回示ヲ得度及御依頼候也

第八章　微罪、起訴猶豫

●微罪不檢擧ニ關スル件

（明治三十八年七月十三日
通達警第二〇四五號）

一　告訴以外ノ原因ニ依リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル場合ニ於テ所犯輕微ニシテ之レヲ處罰スルモ毫モ實益ナキコト顯著ナルモノニ限リ關係書類ノ有無ニ拘ラス事件ヲ送致セス被告人ニ對シ嚴ニ將來ヲ戒メ速ニ被告事件ノ要領ヲ所轄檢事ニ報告セラルヘシ

但多少ノ疑義アルモノハ起訴猶豫ノ意見ヲ付シ檢事ニ事件ノミ送致スヘシ

二　前項戒諭方ハ父母親戚其他ノ尊族親雇主村吏等本人ノ尊敬スル人物ヲシテ將來ノ保障ヲ爲サシムル等改心ノ實ヲ擧ケシムルコトニ付キ夫々適當ノ方法ヲ執ラルヘシ

三　微罪不檢擧處分ニ付テハ其處分ノ爲一般人民ヲシテ微罪ハ當然處分ヲ免ルヘキモノトス誤信ヲ起サシメサル樣注意ヲ要ス

四　第一項ニ依リ取扱タルモノハ犯罪ニ關スル諸報告表等ノ各欄ヘハ檢擧若クハ逮捕ノ數ニ記入セラルヘシ

（明治三十九年四月十七日
岐阜地方裁判所檢事正ノ通牒）

●起訴中止取扱規定

第一條　警察官署ニ起訴中止人名簿ヲ備フ但シ捜査簿ヲ以テ之ニ流用ス

第二條　司法警察官ハ管轄檢事ノ通知ニ依リ犯人又ハ重要ナル關係人ノ所在不明ノ爲メ檢事ニ於テ一時起訴ヲ中止シタル犯人ノ氏名ヲ登錄スヘシ

第三條　前條ノ登錄ヲナシタル人名ハ其事件ノ時效ニ至ル迄絶ヘス犯人又ハ關係人ノ所在ヲ捜査スヘシ

第四條　犯人又ハ關係人ノ所在若クハ死亡ノ事實ヲ發見シタルトキハ速ニ管轄檢事ニ其旨ヲ報告シ名簿ヲ抹消スヘシ其抹

消ニ付テハ時效成就シタルトキモ亦同シ

捜査ノ狀況ハ毎年六月三十日迄ニ管轄檢事ニ報告スヘシ

罪名	犯罪ノ年月日	訓戒ノ年月日	檢事ニ報告 年月日	檢事ニ報告 檢事局名	視察終期	訓戒ニ立會人住所身分職業氏及名犯人ノ續柄	犯人住所身分職業氏名年齢
	年月日	年月日	年月日		年月日		

視察ノ經過	犯罪要領

微罪釋放人名簿

某警察署

微罪釋放報告書

犯人住所身分職業氏名年齢	犯罪事實ノ要領及ヒ釋放ノ理由	前科及ヒ素行	釋放年月日	訓戒ニ立會セシメタル者ノ住所身分職業氏名	行狀視察終期
			明治　年　月　日		明治　年　月　日

右及報告候也

明治　年　月　日

某署　官氏　名

某裁判所檢事氏　名殿

●微罪釋放年表ノ件

（大正七年三月六日
岐阜縣訓令乙第四四號）

警察處分ニ係ル微罪釋放事件ニ就テハ大正七年一月分ヨリ別紙樣式ニ依リ年表ヲ調製シ翌年二月十日限リ當廳ニ提出スヘシ但特別法犯ニ付テハ法定刑拘留科料ニ該當スルモノハ除外ス猶ホ微罪處分ハ有罪ニ對スルモノナルニ因リ處分ニ付テハ事實竝ニ法律關係ヲ嚴重調査セラルヘシ

右訓令ス

微罪釋放處分　第一表

各署

罪名	男 初犯者	男 前科者	女 初犯者	女 前科者	計
刑法犯					
計					
特別法犯					
計					
合計					

微罪釋放處分　第二表

各署

罪名	體性	犯罪時季 一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
刑法犯	男													
	女													
計	男													
	女													
特別法犯														
	男													
	女													
計	男													
	女													
合計														

微罪釋放處分　第三表

罪名	犯時年齢										各署
性	十六年未滿	十八年未滿	二十年未滿	二十五年未滿	三十年未滿	四十年未滿	五十年未滿	六十年未滿	七十年未滿	七十年以上	計
刑法犯											
男											
女											
計											
特別法犯											
男											
女											
計											
合計											

微罪釋放處分　第四表

罪名	犯時教育程度				各署
性	高等	中等	普通	文字ノ讀ミ書キ全ク教育ナキモノ 不詳	計
刑法犯					
男					
女					
計					
特別法犯					
男					
女					
計					
合計					

微罪釋放處分第四表附表（未成年者ノ教育程度）

罪名		高等中等普通文字ノ讀ミ書キ全ク教育ナキヲ爲シ得ルモノモノ	不詳	計
刑法犯何々罪	男			
	女			
何々罪	男			
	女			
計	男			
	女			
特別法犯何々法	男			
	女			
何々規則	男			
	女			
何々規程	男			
	女			
何廳府縣令	男			
	女			
計	男			
	女			
合計				

凡例第四表中ノ未成年者ノミニ就キ更ニ調査ス

署

●微罪釋放年表ニ關スル件

（大正九年四月十六日保第三九六六號通牒）

各警察署長

警察處分ニ係ル微罪釋放事件ニ付テハ大正七年三月六日岐阜縣訓令乙第四十四號ヲ以テ訓令相成居候處尚未成年者ノ教育程度ニ就テ特ニ調査ノ必要有之趣ヲ以テ司法省刑事局長ヨリ通牒ノ次第モ有之候條別紙微罪釋放處分第四表附表樣式ニヨリ本年一月分ヨリ調査可相成但處分後ニテ調査不能ナルモノハ不詳ト記入可相成又同上處分第二表第四表ニハ特別法犯ニ係ルモノヲ爾今掲載ヲ要セス候條依命此段及通牒候也

（別紙略ス）

●微罪取扱ニ關スル件

（大正十一年八月二十二日保第九一四二號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

告訴以外ノ原因ニ依リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル場合ニ於テ所犯輕微ニシテ之ヲ處罰スルモ毫モ實益ナキコト顯著ナルモノナルトキハ微罪不檢擧トスヘキハ勿論ニ有之候處之カ微罪不檢擧トスルヤ否ヤハ一ニ司法警察官直接ノ取扱ニシテ監督ノ便宜處分ヲ許サス若シ一遍ノ報告ヲモ爲サス之ヲ放任シ置クカ如キコトアラムカ世人ノ疑惑ヲ招キ警察ノ威信ニモ影響スル所頗ル大ナルモノ有之候條假令如何ナル輕微ノモノト雖モ一應署長ニ報告指揮ヲ受ケシメ世人ヲシテ徒ラニ疑念ヲ抱カシムルカ如キコトナキ樣特ニ御留意相成度及通牒候也

●犯罪豫防並檢擧上注意方ノ件

（大正三年十二月二十六日保視第九三號通牒）

警察部長ヨリ各警察署長宛

近來强窃盜其ノ他殺傷ニ關スル犯罪漸ク增加ノ傾向アリ眞ニ寒心ニ堪ヘス平素各署ニ於テモ之カ豫防檢擧ニ就テハ充分ニ

注意警戒相成居ルコトト信候得共昨今經濟界不振ノ歳末ニ際シテハ一層此憂有之候條此際特ニ適當ノ方法ヲ講シ豫防警戒方一層勵行相成度又若シ之等ノ被害アルニ當テハ迅速ニ活動ヲ開始シ眞ノ犯人ヲ檢擧シ以テ民心ヲ安セサルヘカラス然ルニ近來動モスレハ檢擧ノ際ニ於ケル取調粗漏ノ爲メ證據不充分トシテ重要犯人ノ無罪ヲ宣告セラルルモノアリ或ハ犯人ノ取調カ自白ニノミ重キヲ置キ物的證據ヲ缺キ又ハ關係人ノ取調組略ナリシニ乘シ被告人等ハ法廷ニ於テ警察ニ於ケル自白ハ其ノ甘言ニ欺カレ或ハ暴行威壓ノ結果止ヲ得ス虚僞ノ自白ヲナセリトカ又ハ多數ノ自白ヲナセハ係官甚タ喜色ヲ現ハスニ因リ多數虚僞ノ申立ヲナセリナト陳述シ或ハ警察官ニ不法ヲ誣ヒ或ハ警察官ヲ醜弄セントスルモノアリ爲メニ警察官署ノ取調ニ就キ判檢事ノ心證ヲ具シ遂ニ重罪犯人ヲシテ其ノ罪ヲ免レシムルノミナラス却テ人權問題ヲ惹起シ警察ノ威信ヲ失墜スル事アリ之レ畢竟スルニ自白ヲ過信シ物的證據ノ蒐集ノ足ラサルト關係人取調ノ粗略ナルトニ因ルモノト認メラレ候條一面ニ於テハ關係人ノ所置ニ付キ一層愼重ノ態度ニ出ツルト共ニ犯人ノ自白アルニ當テハ之ニ件フ物的證據ノ蒐集ト關係人ノ取調ニ細心ノ注意ヲナスハ勿論其ノ他捜査上ニ就キ敏速巧妙ノ手段ヲ講シ處理上萬遺算ナキヲ期セラルヘシ

●起訴猶豫及刑執行猶豫中ノ陸海軍々人軍屬ナルトキ通知方ノ件

（明治四十一年十二月二十一日）
（保第一八七八號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

起訴猶豫若ハ刑ノ執行猶豫中ノ者ニシテ陸海軍々人軍屬トナリタル場合ニハ左記事項ヲ其時ニ其所屬長官ニ通報相成度此段及通牒候也

記

一　住所氏名
二　猶豫ノ種類猶豫ノ年月日及裁判所名
三　犯罪事實
四　猶豫ノ始期及終期

●送致事件結果表ニ關スル件

（大正十年七月十一日）
（保第七二六五號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

爾今送致事件ノ結果ハ別表ニ依リ調査シ各半ケ年分ヲ七月十日、一月十日限リ進達セラルヘシ
追テ本年上半年分ハ此際調査ノ上本月二十日迄ニ進達セラルヘシ
尚從來月報トシテ進達セシ起訴猶豫成績表ハ爾今進達スルニ及ハス

送致事件結果表

何々警察(分)署

種別	送致件數	檢事ノ處決						
		處罰	起訴猶豫	證憑不充分	罪トナラス	其ノ他ノ不起訴	適用法條ノ差異	備考
送致官意見	處罰							
	起訴猶豫							
	證憑不充分							
	罪トナラス							
	其他不起訴意見							

一　本表ハ司法警察署ノ送致意見ト檢事ノ處決結果トヲ對比スルモノナリ

二　一送致事件中數個犯罪ノ爲メ若ハ被告多數ノ爲メ各種ニ渉ル意見又ハ處理結果ヲ得タル時ハ重キニ從テ掲記セラルヘシ

例令ハ一送致事件中窃盗ノ事實ニ對シテハ證憑不充分詐欺ノ事實ニ付徵役ニ處セラレタル場合ノ如キハ處罰欄ニ又賭博事件等ニテ五名送致シテ一名ハ證憑不充分他ノ四名處罰セラレシ場合ノ如キ何レモ處罰欄ニ掲記スルカ如シ

三　起訴中止告訴取下時郊被告死去等ハ其他ノ不起訴欄ニ掲記スヘシ

●起訴猶豫處分者ニ對スル訓戒取扱ノ件

（大正十年十一月九日
日記第三六九七號）

檢事正ヨリ各警察官署長宛

起訴猶豫者ニ對スル訓戒ハ最モ鄭重ナルヲ要スルト共ニ亦嚴正ナルヘキハ勿論ナルニ往々ニシテ監査ヲシテ取扱ハシムルモノアルヤニ聞及ヒ候モ斯クテハ訓戒ノ効力豫期ノ如クナル能ハサルニ付爾今司法警察官ニ於テ自ラ之ヲ取扱フ樣致度此段特ニ申進候

●起訴猶豫人取扱心得

沿革　明治四一年九月指示第一六號改正

（明治三十八年六月三十日
指示警第二二號）

第一條　警察官署ニ於テ檢事局ヨリ起訴猶豫ノ通知ヲ受ケタルトキハ署長ハ速カニ本人ニ對シ將來ノ心得方ニ付キ嚴重戒諭ヲ加フヘシ

前項戒諭ニハ父兄其他本人ノ尊敬セル親屬故舊又ハ區長組長若ハ教師、雇主ノ如キ者ヲシテ立會セシムルヲ要ス

第二條　警察官署ハ第一號書式ノ起訴猶豫人名簿ヲ調製シ檢事局ヨリ通知ヲ受ケル毎ニ之ニ登錄シ且其ノ謄本ヲ受持巡査ニ交付スヘシ

第三條　謄本ノ交付ヲ受ケタル受持巡査ハ之ヲ注意簿ニ綴リ置キ常ニ其ノ行動ヲ視察シ必要アル場合ニハ懇篤戒諭ヲ加フヘシ

視察ハ可成裏面ヨリ之ヲ行ヒ苟クモ本人ノ改悛ノ妨トナルカ如キコトナキヲ要ス

第四條　受持巡査ニ於テ視察ノ結果全ク悔悛ノ情顯著ナリト認ムルトキハ其狀況ヲ所屬署長ニ報告スヘシ

署長ニ於テ視察ノ必要ナシト認メタルトキハ名簿ヲ刪除シ其旨受持巡査ニ通知スヘシ

第五條　悔悛ノ情ナク再犯ノ虞アリト認メタルトキハ受持巡査ハ其情狀ヲ所屬署長ニ署長ハ之ヲ檢事局ニ報告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ署長ハ速ニ第一條ノ手續ヲ盡シ再犯ノ豫防ヲ期スヘシ

第六條　住所ヲ移轉シ又ハ逃走死亡シタル者アルトキハ受持巡査ハ速ニ其ノ旨ヲ所屬署長ニ報告スヘシ

署長ハ前項ノ移轉地他ノ部内ニ係ルトキハ所轄警察官署ニ通知シ其ノ部内ナルトキハ受持巡査ニ名簿ノ謄本ヲ交付スヘシ

第七條　署長ハ毎年一月十日限リ前年分ノ狀況ヲ第二號書式ニ依リ檢事正及警務長ニ報告スヘシ

○第一號書式（用紙半紙定刻）

住所 職業 生年月日	族稱 氏名		送致 年月日	檢事局名
罪名				

犯罪事實	前科	起訴猶豫年月日事由

視察事項

備考

視察事項欄ニハ犯罪嫌疑者視察名簿ノ記載ニヨリ視察シタル事實ヲ記載スヘシ

○第二號書式（用紙半紙）

明治何年分起訴猶豫人視察報告表

何警察（分）署

種別	前期末現在人員	本期間起訴猶豫人員	計	上欄ノ内 再犯	死亡	時效	逃走	移轉	悔悛ノ情アリ解除	現在人員
竊盜										
賭博										
何々										
計										

●刑ノ執行猶豫者取扱方ノ件

（大正元年八月八日保第二〇三號）

明治四十一年六月内務省訓第五五一號刑ノ執行猶豫者取扱方ニ關スル訓令中本月五日同省訓第七號ヲ以テ左ノ一項追加訓令相成候處右ハ陸海軍両省ニ於テ刑ノ執行猶豫中入營スル者等往々有之候モ之レヲ知ルノ途ナク司法省ニ對シ交渉相成候處同省ニ於テモ之レヲ知ルニ由ナキ爲メ内務省ニ交渉アリシ結果ニ有之軍事當局者ニ於テ之レカ認知ノ必要アルニ職由ス義ニ付相當措置方其ノ筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條遺漏ナク通知候樣御取計相成度依命此旨及通牒候也

左記

一　犯人猶豫期間内ニ陸海軍軍人屬ト爲リタルトキハ其旨所轄地方裁判所檢事局ニ通知スルコト

第九章　檢視

●變死者檢視ノ際解剖方

（明治十年二月二十一日太政官布告第二十二號）

變死ニ係ル屍ヲ警察官吏檢査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事（檢事派出ナキ地方ハ其地方長官）ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖檢査セシムルコトヲ得

右布告候事

（實例）檢事犯罪事件ノ檢證ヲ爲スニ當リ事故アリテ其職務ヲ警察官ニ代理セシメタルニ檢證上醫師ヲシテ鑑定セシムルノ必要アリタル場合ノ鑑定料ハ何レノ費途ヨリ支辨スヘキヤハ實際アリ得ヘキコトタルナリ若シ斯カル場合アリタリトセハ如何スヘキヤト云フニ余ヲ以テ考フルトキハ縱令檢事ノ職務ヲ代理シタリトハ云ヘ既ニ警察官ニ於テ現實ニ執行ノ任ニ當リタル上ハ費用ノ如キモ警察費ヨリ支辨スヘキモノナルヘシ

●變死傷檢視規程

（明治三十一年十二月二十八日岐阜縣訓令第五十三號）

沿革　明治三五年五月縣訓令第三五號、三九年四月第一七號、大正三年八月縣訓甲第三三號

第一條　變死人アリタルトキハ速ニ檢視ヲ爲スヘシ

變傷者ニシテ重傷死ニ瀕シ若ハ必要ト認メタルトキ亦同シ

第二條　變死ニアラサルモ死亡者ノ本籍分明ナラス且其ノ何人タルコトヲ認識スルコト能ハサルモノモ亦此ノ規程ニ依ル

第三條　檢視ノ主要ハ屍體又ハ創傷ノ現狀及其ノ場ノ狀況ヲ精査シ死傷ノ原因及事實ヲ判明ナラシムルヲ以テ目的トス

第四條　檢視ハ警察署長分署長之ヲ爲スヘシ署長事故アルトキハ署僚警部又ハ巡査部長ヲシテ檢視セシムヘシ

署長、署僚警部、巡査部長トモ事故アルカ又ハ土地遠隔ナルトキハ變死傷ノ原因明瞭ニシテ疑ナキ場合ニ限リ巡査ヲシ

テ檢視セシムルコトヲ得

第五條　檢視ノ際ハ醫師ヲ招致スヘシ但署長及署僚警部檢視ノ場合ニ於テ原因判明セルモノト認ルトキハ招致セサルコトヲ得

第六條　變死傷者アリタルトキハ檢視ノ終了ニ至ルマテ其ノ屍體創傷及場所ノ原狀ヲ保存セシムルニ注意スヘシ

第七條　檢視ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ變死傷者ノ家族鄰佑發見人又ハ其ノ他ノ關係人ヲシテ立會セシムヘシ

第八條　變死傷者ノ家族鄰佑發見人又ハ其他ノ關係人アルトキハ死傷ノ顚末若ハ發見ノ手續ヲ尋問シ其ノ口述ヲ錄取スヘシ

事實簡單ナルトキハ適宜檢視調書ニ記載スルコトヲ得

第九條　自殺者檢視ノ場合ニ於テハ教唆者下手者其ノ他幫助者ノ有無ニ注意スヘシ

遺書アリタルトキハ其ノ眞僞ヲ鑑査シ謄本ヲ作リ檢視調書ニ添付スヘシ

第十條　病中又ハ病後ニ於テ自殺シタル者ニシテ必要アリト認ムルトキハ主治醫ニ疾病ノ名稱經過豫後ノ狀況ヲ尋問シ又ハ始末書ヲ徵スヘシ

第十一條　死傷ノ狀況其ノ他關係ニ因リ犯罪ニ係ルモノト思料シタルトキハ檢視ヲ中止シ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第十二條　巡査前條ノ場合ニ遭遇シ又ハ死傷ノ原因判明ナラスト認ムルトキハ檢視ヲ中止シ署長ニ急報シ指揮ヲ受クヘシ

第十三條　檢視ニ招致シタル醫師ニハ死傷ノ現狀其ノ原因及加養休業ノ日數ヲ檢案セシメ檢案書ヲ徵スヘシ

死傷ノ原因事實ニ疑アルトキハ他ノ醫師產婆又ハ技術者ヲシテ檢案セシメ檢案書ヲ徵スヘシ

第十四條　醫師屍體ノ解剖ヲ爲スニアラサレハ致命ノ原因判明セサル旨申立之ヲ必要ト認メタルトキハ檢事ノ許可ヲ受クヘシ

第十五條　檢視ヲ終了シタルトキハ檢視調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ概ネ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　死傷者ノ本籍居所族稱職業氏名年齡若シ分明セサルモノナルトキハ其體相著衣及所持金品

二　死傷者及檢視シタル場所ノ地名

三　死傷ノ年月日時

四　發見ノ月日時及發見人ノ氏名

五　死傷及其ノ場所ノ狀況

六　死傷ノ種類方法及其ノ顚末竝ニ之ニ對スル檢視官ノ認定

七　自殺者又ハ自殺死ニ至ラサル者ニ係ルトキハ死傷ノ用ニ供シタル物件及用法

八　醫師及立會人アリタルトキハ其ノ氏名

九　檢視ノ著手及終了ノ年月日時

十　檢視官ノ官氏名

以上ノ外必要ノ事項

第十六條　檢視ニ關スル書類ハ每葉契印シ文字ハ之ヲ塗抹改竄スヘカラス若シ挿入削除シタルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ附記シ之ニ認印スヘシ

第十七條　檢視濟ノ屍體及所持金品ハ引受人ニ交付シ若シ引受人ナキトキハ市町村役場ニ交付シ受取書ヲ徵スヘシ

第十八條　死亡者ノ本籍分明ナラス又ハ死亡者ヲ認識スルコト能ハサル場合ニ於テハ戶籍法第百二十二條第一項及第二項ニ依ルヘシ

第十九條　死亡屆出義務者ヨリ檢視調書謄本ノ下付ヲ請フトキハ之ヲ調製シ下付スヘシ

第二十條　左ノ場合ニ於テハ事實ヲ詳具シ警部長ニ報告スヘシ

一　死傷ノ原因判明セス又ハ其ノ原因判明スルニ至リタルトキ

二　同時ニ數人ノ死傷者アリタルトキ

三　特殊ノ事實ニ因ル死傷者アリタルトキハ以上ノ外必要ト認メタルトキ

第二十一條　檢視調書竝其ノ謄本ハ別記樣式ニ依ルヘシ

○樣式

檢視調書

變死ノ名稱	
變死及死體ノ場所	
變死ノ年月日時	
醫師又ハ立會人ノ氏名	
死體ノ處置	
屍體ノ現況	
檢認シタル事實及其ノ理由	
以上外必要ノ事項	

變死者ノ本籍居所族稱職業氏名年齢	
體相著衣所持金品	

岐阜縣警察署

大正　年　月　日　ニ於テ檢視ヲ了シ此調書ヲ作ルモノ也

何警察(分)署長(代理)　官　氏　名

大正　年　月　日

右正本ニ依リ此謄本ヲ作ルモノ也

何警察(分)署　官　氏　名

年　月　日

記載例

一　變死ノ月日時不分明ナルトキハ死後凡何日間經過ト記載スヘシ

一　變死者ノ本籍氏名不分明ナルトキハ體相著衣所持金品欄ニ記載スヘシ但シ其ノ體相ヲ除ク外ハ本籍分明ノモノニ對シテモ亦記載スヘシ

一　死體ノ現況欄ニハ其ノ形狀又ハ特有徵候等ヲ記載スヘシ

一　檢認シタル事實及其ノ事由欄ニハ變死ノ事由方法又ハ其ノ顚末及理由ヲ記載スヘシ

●變死者檢視調査ニ關スル件

（大正十三年五月三十一日　保刑第一六〇六號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

變死者ノ檢視ハ從來檢事ノ指揮ヲ受クルコトナク警察官署長ニ於テ之ヲ爲シ來リタルモ本年一月改正刑事訴訟法實施ニ伴ヒ右檢死ハ原則トシテ檢事ノ爲ス所トナリ警察官署長ニ於テ之ヲ爲スハ唯檢事ノ命令アリタル場合ニ限リ從テ關係書類等モ全部檢事局ニ送致シ後チニ至リ何等見ルヘキモノナキニ付今後警察官署ニ於テ檢視ヲ爲シタル場合其ノ調書ノ寫ヲ作リ

一定ノ簿册ニ編綴シ置カルヘク此ノ旨及通牒候也

●海軍軍人軍屬變死ノ場合ニ於ケル檢視方ノ件

（明治四十四年九月三十日　内務省警第四〇九號）

海軍刑法第八條第九條第十條ニ定メタル海軍軍人軍屬變死ノ場合ニ於ケル檢視方ニ付テハ左ノ區別ニ依リ取扱フヘキコトニ海軍省ト協定候條可然御措置相成度依命此段及通牒候也

一　艦船部隊内又ハ海軍營造物内ニ於ケル變死ノ場合ハ海軍官憲ニ於テ檢視ヲ爲スヿヲ以テ警察官ニ於テハ之ニ與ラサルコト

二　前號ノ艦船部隊外又ハ營造物外ニ在リテハ憲兵屯在地ニ限リ憲兵ニ於テ其ノ他ノ場合ハ總テ警察官ニ於テ檢視ヲ行フコト

追而右協定ハ刑事訴訟法及海軍治罪法ニ定ムル司法警察官ノ權限ニハ何等影響無之義ニ付御了知相成度爲念此段申添候也

●官廳内工場等ニテ變死傷ノ者檢視處分ノ件

（明治十三年二月二十五日　太政官達第十四號）

明治十二年三月第十二號達左ノ通改正候條此旨相達候事

官廳内並ニ官有ノ工場及ヒ船艦等ニテ變死ニ係ル者及重傷死ニ至ル者ハ近傍ノ警察署ヘ報知シ檢視ヲ受クヘシ

但軍人軍屬ニシテ陸海軍官限リ處分ヲ了シ警察官ノ檢視ヲ要セサル分及ヒ遠洋航海中ニ係ルモノハ此限ニアラス

●檢視取扱方

（明治三十二年一月　保安課長通牒）

明治三十二年一月七日竹鼻警察分署長問合

一　檢視調書ニハ立會人家族等即チ檢視ニ立會セシメタル者ノ署名捺印ヲ要セス檢視官ノミ署名捺印スヘキモノト心得可然哉

一　規定第八條口述ヲ錄取セシ書類ニハ司法警察搜査處分ノ聽取書同樣本人ノ署名捺印ヲ要セサルコトト心得可然哉

一　戸主又ハ親戚等ノ屆出ニ依リ檢視ヲ爲セシ場合ニハ規定第十七條ノ屍體所持品等ノ受取書ヲ徵スルニ及ハサルコトト心得可然哉

一　一モ傷所ナキ溺死人檢視ノ場合ニハ規定第十五條末項ノ人體圖添付セサルモ差支無之モノト心得可然哉

一　規定第二十條ニ依リ報告方規定相成タルニ付テハ警察報告例第四條第九ハ自然消滅セシモノト心得可然哉

（保安課長通牒）

一　總テ意見ノ通リ

●失火ニ對スル檢視ノ件

（明治二十六年二月　指示第七十五號）

從來失火ニ對スル取扱ハ刑法〔第四百九條〕延燒ノ場合ヲ除ク外之カ檢視ヲ爲スコト慣例ノ如クナリシカ單ニ自宅ノミ燒失シ自ラ失火ト稱スルモノニ付テハ其間何等ノ疑點ヲ容レス又何等ノ證左ヲ要セサルハ勿論ナルヲ以テ右等ノ場合ニ於テハ爾今檢視セサル儀ト心得ヘシ

第十章　豫審、公判

●檢證上囚人召連出張ノ節巡査護送ノ件

（明治十五年六月五日　内務省達乙第三十三號）

裁判所ニ於テ檢證ノ爲メ囚人ヲ召連レ他所出張ノ節ハ巡査ヲシテ護送セシムヘシ此旨相達候事

但護送巡査ノ旅費其他囚人ニ屬スル費用共渾テ警察署ヨリ支辨スヘシ

●司法官吏ヨリ巡査及兵員要求使用手續

（明治十四年九月二十日　太政官達第八十二號）

第一條　裁判官檢察官及司法警察官治罪法ニ從ヒ檢證及物件差押其他職務ヲ行フニ當リ必要ナル時ハ警察署又ハ憲兵屯營ニ照會シテ巡査又ハ憲兵卒ヲ使用スルコトヲ得

但事機緊急ナル時ハ直チニ之ヲ使用スルコトヲ得

第二條　前條ノ場合ニ於テ事緊急重要ニ渉ル時ハ直チニ「鎮臺」又ハ「分營」ニ照會シテ兵力ヲ要求スルコトヲ得

●豫審判事檢事檢證其他急速ヲ要スル節直ニ巡査ヲ使用ス

（明治十四年十二月五日　司法省達丙第十五號）

警視廳　府縣　東京府ヲ除ク

〔治罪法〕實施ノ上ハ豫審判事檢證及ヒ物件差押ノ事件ニ付急速ヲ要スル場合直ニ巡査ヲ同行シ又ハ所在ノ巡査ヲ使用スル

儀モ可有之候條條豫テ可達置此旨相達候事

●公庭取締被告人看護ノ爲メ巡査〔押丁〕使用ノ件

（明治十四年十月十四日太政官達第八十六號）

警視總監　府縣東京府沖繩縣ヲ除ク

〔治罪法〕實施ニ付テハ大審院其他各裁判所公庭取締ノ使用ニ供スルタメ其院長所長ノ照會ニ應シ一名又ハ數名ノ巡査爲相詰又拘留被告人審問中ハ其護送ノ巡査或ハ〔押丁〕ヲシテ守卒トシテ公庭ニ入リ看護セシムヘシ此旨相達候事

●私訴ハ公訴提起後ニ於テ受理スル件

（明治二十五年十一月指示第七一號）

從來人民ヨリ告訴提起ノ際私訴モ同時ニ提起候處爾今私訴ハ公訴提起ノ後ナラテハ受理セサルコトニ相成タル旨岐阜地方裁判所鈴木檢事正ヨリ通知有之候條此旨心得ラルヘシ

第十一章　令狀

●岐阜地方裁判所檢事局管内令狀執行手續

（明治二十七年三月警報第四四二號）

第一條　本局ヨリ管内各警察署ニ拘引狀拘留狀ヲ送致スルニハ別段ノ事由アルモノノ外執行指揮書ヲ添付セス各警察署ニ於テハ其拘引狀拘留狀ニ押捺シタル本局檢事ノ印影ヲ檢閲シテ之ヲ執行セシムヘシ

第二條　本局檢事ノ印影ナキ拘引狀拘留狀ハ之ヲ執行セシムヘカラス但判事ノ出張先其他急速ヲ要スル場合ニ於テ判事ヨリ直接ニ交付シタルモノハ此限ニアラス

第三條　拘引狀拘留狀ヲ受クヘキ者ノ所在知レサルトキト雖モ其拘引狀拘留狀ヲ留メ置キ仍ホ搜査ヲ爲サシメ速ニ其旨ヲ本局ニ報告スヘシ但一週日以内ニ執行スルコト能ハス又ハ到底執行スルコト能ハスト思料シタルトキハ其旨ヲ報告シ其拘引狀拘留狀ヲ返戻スヘシ

第四條　拘引狀拘留狀ヲ受クヘキモノ病氣其他ノ故障ニ因リ執行スルコト能ハサルトキハ速ニ其旨ヲ本局ニ報告シ其拘引狀拘留狀ヲ返戻スヘシ但二週日以内ニ執行スルコトヲ得ヘキモノト思料シタルトキハ其旨ヲ本局ニ報告シテ其拘引狀拘留狀ヲ留メ置クコトヲ得

第五條　拘引狀拘留狀ヲ受クヘキ者本局ノ管轄地外ニ在ルトキハ速ニ其旨ヲ報告シテ其拘引狀拘留狀ヲ返戻スヘシ但時宜ニ依リ其所在地ノ警察署ニ通知シテ逃走ヲ防クノ手續ヲ爲シ若クハ巡査ヲ派遣シテ執行ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第六條　前三條ノ場合ニ於テ拘引狀拘留狀ヲ返戻シタル後其者ノ所在知レタルトキ又ハ病氣其他ノ故障止ミタルトキ若クハ管轄地内ニ復歸シタルトキハ速ニ其旨ヲ本局ニ報告スヘシ但其被告人免訴無罪ノ判決ヲ受ケタルコトヲ知リタルトキ

ハ此限リニアラス

第七條　逮捕狀ハ執行スルコト能ハサルトキト雖モ之ヲ返戻スルニ及ハス刑ノ期滿免除ニ至ルマテ若クハ公訴ノ時效ニ罹ルマテ其警察署ニ留メ置キ精精搜査セシムヘシ但別段ノ事由アルモノハ此限リニアラス

第五條ノ但書ハ本條ニモ之ヲ適用ス

第八條　本局ノ指揮ニ依リ岐阜地方裁判所ヨリ發シタル拘引狀拘留狀ヲ執行シタルトキハ其拘引狀拘留狀ヲ受ケタル者及其執行ニ關スル書類ヲ本局ニ差出サシムヘシ

第九條　本局ノ指揮ニ依リ岐阜地方裁判所以外ノ官署ヨリ發シタル拘引狀拘留狀ヲ執行シタルトキハ其拘引狀拘留狀ヲ受ケタル者ヲ直接ニ其官署ニ送致シ其執行シタル年月日場所ヲ記載シテ本局ニ報告スヘシ

第十條　檢事長ノ命令ニ依リ本局ヨリ發シタル逮捕狀ヲ執行シタルトキハ其逮捕狀ヲ受タル者ヲ直接ニ其逮捕ヲ請求シタル官署ニ送致シ其執行シタル年月日場所ヲ記載シテ本局ニ報告スヘシ

第十一條　岐阜地方裁判所以外ノ裁判所ノ囑託ニ依リ刑ノ執行ヲ遞レタル者ニ對シ本局ヨリ發シタル逮捕狀ヲ執行シタルトキハ速ニ電信ヲ以テ其囑託ヲ爲シタル裁判所ニ報告シ其逮捕狀ヲ受ケタル者ヲ本局ニ送致スヘキヤ否ヲ問合セ其問答ヲ待テ處分スヘシ但電信通セサルトキハ郵便其他成ルヘク速カナル方法ニ從フヘシ

第十二條　刑ノ執行ヲ遞レタル者ニ對シ本局ヨリ發シタル逮捕狀ニ依リ逮捕シタルモノニシテ監獄則第一條五號ニ從ヒ警察署ノ留置場ニ於テ其刑ヲ執行スヘキモノハ其文字ヲ刻シタル朱印ヲ其逮捕狀ノ欄外ニ押捺ス

第十三條　令狀アルモ急速ヲ要シ之ヲ送致スルノ暇ナキ場合ニ於テハ特ニ電信ヲ以テ令狀アル旨ヲ報知シテ執行セシムルコトアルヘシ此場合ニ於テハ其電信文ヲ令狀ニ代用セシムヘシ

第十四條　令狀ヲ執行シタル巡査ハ上官ノ許可アルニアラサレハ其令狀ヲ受ケタル者ヲシテ訴訟手續ニ關スル事項ノ外被告事件ニ付他人ト通信談話セシムヘカラス若シ上官ニ於テ通信談話ヲ許可シタルトキハ直ニ其要領ヲ本局ニ報告スヘシ

第十五條　重大ナル事件ノ令狀ニハ紅紙ヲ貼付ス此令狀ハ豫テ他ノ令狀ト區別シ特ニ注意シ搜査執行セシムヘシ又此令狀ヲ受ケタル者ニハ如何ナル事由アルモ訴訟手續ニ關スル事項ノ外事被告件ニ付他人ト通信談話セシムヘカラス

第十六條　此手續ニ定メタルモノノ外法律規則ニ依リ便宜ヲ慮リ實務ノ支障ヲ來ササルコトニ注意スルハ當該官ノ責任トス

●豫審判事拘引ノ被告人留置方

（明治十四年十月八日太政官布告第五十九號）

〔治罪法〕中豫審判事拘引狀ヲ發シ拘引セシメタル被告人ハ時宜ニ依リ其訊問期限十八時間ニ在ル夜間ニ限リ裁判所又ハ最寄警察署留置場ニ入置クヘシ此旨布告候事

●府會縣議員犯罪アリタルトキ捕縛ニ關スル件

（明治十二年四月十六日内務省達乙第十八號）

府縣會議員犯罪ノ廉有之拘引ヲ要スルトモ其會場内ニアルトキハ議長ノ承諾ヲ得タル上拘引可致此旨相達候事

●既決囚ノ逃走者ニ對スル令狀警部ニ於テ發付ノ件

（明治十五年四月十七日司法省達丙第十四號）

既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル令狀ノ儀ニ付テハ昨明治十四年丙第二十號ヲ以テ相達置候處〔始審裁判所〕所在ノ地ヲ除クノ外ハ現ニ其ノ刑ノ執行ヲ爲ス地ノ警部ニ於テ令狀ヲ發スル儀ト可心得此旨更ニ相達候事

●既決囚ノ逃走者ニ對シ逮捕狀發付手續

（明治十五年二月十四日）
（司法省達丙第六號）

〔始審裁判所〕檢事ヨリ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ逮捕狀ヲ發スル手續ハ左ノ通心得可シ此旨相達候事

第一條　逮捕狀ニハ典獄ノ報知書ニ依リ第二號書式ニ準シ逃走シタル囚徒ノ本籍身分氏名人相等ヲ詳記ス可シ但管轄地ノ內外ニ拘ハラス急速ノ際巡查ヲシテ令狀ヲ帶行セシムル時ハ人相ヲ記載セサルモ妨ナシ

第二條　管轄地內ハ令狀ヲ警察署又ハ警察分署ニ送致シテ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ

第三條　管轄地外ハ第一號書式ニ準シ人相書ヲ作リ之ヲ〔始審裁判所〕檢事ニ送致シテ逮捕ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

囑託ヲ受ケタル檢事ハ該人相書ニ依リ自己ノ氏名ヲ以テ更ニ逮捕狀ヲ作リ之ヲ管轄地內ノ警察署又ハ警察分署ニ配付シテ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ

第四條　司法警察官ニ於テ逮捕シタル囚徒ヲ受取タル時ハ之ヲ管轄檢事ニ送致シ檢事ハ其旨ヲ囑託ヲ爲シタル檢事ニ照會シ別段ノ事由アルニ非サレハ逮捕ノ地ニ於テ刑ノ執行ヲ爲スヘシ

（第一號）　（「　」中ハ朱書）

人相書

「本籍身分」
「氏　　名」
「年　　齡」

丈

顏	
色	
頭髮	
眼	
眉	
鼻	
口	
耳	
齒	
音聲	
痘痕	
疵所	
鬚髯ノ有無	

其他特徴	
長所	
父母妻子	
逃走ノ際著用衣服	
同上ノ際持去物品	
罪名	
刑法及ヒ其期限	

右者「何方」ニ於テ處刑中明治「何」年「何」月「何」日第「何」時「何」分逃走候ニ付逮捕ノ御處分有之度候也

「何」裁判所
檢事「氏　　名　印」

明治　年　月　日
「何　裁判
所之印」

「何」裁判所
檢事「氏　名」殿

（表）（第二號）

逮捕狀

「本籍身分」
「罪名竝ニ刑名及其期間氏名」
「年齡」

右者「何方」ニ於テ處刑中明治「何」年「何」月「何」日第「何」時「何」分逃走「（管内ニ發スル逮捕狀ニハ「シタル以下有之」迄ノ二十二字ヲ除ク）」シタル趣ヲ以テ「何」裁判所檢事ヨリ逮捕囑託有之候ニ付嚴密搜索ヲ遂ケ見當リ次第逮捕ス可キ者也

但本人潛匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治　年　月　日時
「何　裁判
所之印」

「何」裁判所
檢事「氏　　名　印」

執行シタル月日時	
執行シタル場所	
家宅搜索ヲ爲シタル時ハ其事由	
拘引スルコト能ハサル時ハ其事由	

右之通取扱候也

明治　年　月　日

「巡査又ハ憲兵　氏　　名　印」

（裏）

人相書	
丈	
顏	
色	
頭髮	
眼	
眉	
鼻	
口	
耳	
齒	
音聲	
痘痕	
疵所	
鬚髯ノ有無	
其他特徵	
長所	
父母妻子	
逃走ノ際著用衣類	
同上ノ際持去物品	

第十二章　護送

●囚人及刑事被告人押送規則

（明治三十年十一月二十六日　勅令第四百十五號）

第一條　囚人及刑事被告人ノ押送ハ警察署又ハ警察分署ノ遞傳ニ付スルモノトス但十里以内ノ押送汽車汽船ノ便アル地方間ノ押送又ハ一時多數ノ囚人若ハ刑事被告人ノ押送其ノ他特別ノ事情アル場合ハ本項ニ依ラサルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ看守長看守又ハ憲兵下士卒ヲシテ押送セシムルコトヲ得

第二條　同一廳府縣内ニ在ル監獄間囚人ノ押送ハ看守長看守ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ但十里以外押送ハ前條ニ依リ遞傳ニ付スルコトヲ得

第三條　被押送者ノ所持スル貨幣物品ニシテ本人ト同時ニ押送スルモノハ左ノ例ニ依リ取扱フヘシ

一　物品ハ押送者ニ託シテ之ヲ押送ス但危險ノ虞アル物品及押送者ノ携帶ニ堪ヘサル物品ハ此ノ限ニ在ラス

二　貨幣ハ押送者ニ託セス保管金寄託替ノ手續ニ依リ之ヲ送致ス但五圓未滿ノ金額若ハ押送期間一日以上ニ亙ラサル場合及刑事被告人ニ屬スル貨幣ニシテ本人ノ請求アル場合ハ押送者ニ託スルコトヲ得

第四條　前條ニ依リ送致中ノ貨幣物品ハ押送者ニ託スル場合ニ於テハ押送ヲ爲ス各官署ノ保管ニ屬シ押送者ニ託セサル場合ニ於テハ發送官署ノ保管ニ屬ス

第五條　押送者ノ旅費並ニ囚人及刑事被告人ノ押送費用ハ押送ヲ爲ス各官署ノ區別ニ從ヒ各其ノ經費ヲ以テ支辨ス但他廳府縣ヨリ囚人ノ送還ヲ求メタル場合ニ於テハ其ノ押送費用ハ送還ヲ求メタル廳府縣ノ經費ヨリ支辨ス

集治監ニ於テ執行スヘキ刑ノ確定判決ヲ受ケタル囚人ニ係ル押送費用ハ在府縣獄囚徒費ヲ以テ之ニ充ツ

第六條　被押送者ノ宿泊費額ハ警察署又ハ警察分署ニ於テハ留置人ノ例ニ依リ其ノ他ニ宿泊セシムル場合ニ於テハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第七條　刑事被告人護傳押送ノ場合ニ於テ警察署長若ハ警察分署長ハ監獄ノ規程ニ從ヒ押送途中ニ必要ナル物品又ハ飲食ニ限リ自費ヲ以テ之ヲ購求スルコトヲ許シ又親屬故舊ニ之カ差入ヲ許スコトヲ得

第八條　押送途中被押送者死亡シ二十四時間内ニ遺骸ノ引取人ナキトキハ警察署長若ハ警察分署長ニ於テ假埋葬ヲ爲スヘシ

假埋葬ノ費用ハ第五條ノ區別ニ從ヒ支辨スヘシ

第九條　本則ハ軍衙間ニ於ケル囚人及刑事被告人ノ押送ニ適用セス

附　則

第十條　本則ヲ施行スル爲必要ナル細則ハ内務大臣之ヲ定ム

前項ノ細則ニ規定シタルモノノ外押送ニ關シ必要ナル指揮ハ廳府縣長官（東京府ニ於テハ警視總監）之ヲ爲スヘシ

第十一條　本則ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

第十二條　明治十五年太政官達第十號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

●囚人及刑事被告人押送細則

（明治三十年十二月二十七日　内務省令第三十七號）

沿革　昭和二年一月内令第一號改正

第一條　囚人及刑事被告人ヲ押送スルトキハ發送官署ニ於テ別記雛形ノ樣式ニ從ヒ押送狀ヲ作リ被押送者ノ身上ニ關スル書類其他必要ノ書類ヲ添ヘ被押送者ト共ニ押送官吏ニ交付スヘシ

前項押送ノ場合ニ於テハ押送前若クハ押送ト同時ニ最後ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第二條　疾病者姙娠者又ハ分娩後一ケ月ヲ經過セサル婦女ハ醫師ニ於テ差支ナシト認ムルニ非レハ押送スルコトヲ得ス

刑事被告人ニシテ醫師ニ於テ押送ニ堪ヘサル者ト認ムルトキハ當該裁判官ニ通知スヘシ

第三條　押送ハ汽車汽船ニ依ルモノ若クハ特別ノ事由アルトキノ外日出日沒後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　押送ヲ爲ス警察署又ハ警察分署ニ於テハ別記雛形ノ押送帳簿ヲ備ヘ押送ニ關スル要項ヲ記載スヘシ

第五條　被押送者ハ汽車又ハ汽船中ニ在ル場合ノ外警察署又ハ警察分署ニ宿泊セシムヘシ

囚人及勾留狀ニ依リ勾留スヘキ刑事被告人ハ監獄署所在地ニ於テハ監獄署ニ宿泊セシムルコトヲ得

前二項ノ場所ニ宿泊セシメ難キ事由アルトキハ其ノ地ノ警察官又ハ市町村長ニ協議シ宿所ヲ定ムルコトヲ得

第六條　被押送者ヲ警察署又ハ警察分署以外ニ宿泊セシメ又ハ飲食セシムル場合ニ於テハ其ノ費用ハ總ヲ實費額ニ依ル但臥具點燈料等宿泊ノ費用ハ一夜金五拾錢食費ハ一回金參拾錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條　刑事被告人押送途中ニ於テ自費ヲ以テ物品又ハ飲食物ノ購求ヲ請フトキハ警察署長警察分署長ハ必要ノ有無及其ノ他ノ關係ヲ取糺シ之ヲ許否スヘシ

勾留狀ニ依リ勾留スヘキ刑事被告人ニ對シ前項ノ購求ヲ必要ト認ムルトキハ發送官署ハ豫メ領置金支出方ニ付當該裁判官ノ允許ヲ受ケ其ノ旨ヲ押送狀ニ記入スヘシ

第八條　前條ニ依リ購求シタル物品又ハ飲食物ノ代價ハ其ノ保管ノ金錢ヲ以テ之ヲ支辨シ本人ノ承認書ヲ徵スヘシ

第九條　押送中ノ刑事被告人ニ對シ物品又ハ飲食物ノ差入ヲ請フ者アルトキハ第七條ニ準シ之ヲ許否スヘシ

第十條　押送中被押送者發病シタルトキハ速ニ相當ノ手當ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ押送官吏ハ最寄警察官憲兵又ハ市町村吏員ノ助力ヲ求ムルコトヲ得又已ムヲ得サル事由アルトキハ被押送者ヲ最寄警察署又ハ警察分署ニ交付スルコトヲ得

第十一條　押送中被押送者死亡シタルトキハ最寄警察署又ハ警察分署ニ交付スヘシ

汽車汽船中ニ在テ死亡シタルトキハ最初ノ著船地又ハ停車地ノ警察署又ハ警察分署ニ交付スヘシ但已ムヲ得サル場合ニ於テハ其ノ他ノ著船地又ハ停車地ノ警察署警察分署ニ交付スルコトヲ得

交付ヲ受ケタル警察署又ハ警察分署ハ醫師ノ死亡證書ヲ徵シ死亡ノ年月日時場所及病名ヲ本籍市町村長（外國人ナラハ領事）發送官署及最後ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ通知シ尚遺骸ノ下附又ハ假埋葬ノ手續ヲ爲シ第一條記載ノ書類ヲ發送官

署ニ返付スヘシ

第十二條　押送中逃走者アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ其ノ地ノ警察官憲兵及附近ノ各警察署又ハ警察分署ニ通報シ押送官署ハ尚發送官署及最後ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ之ヲ通知シ第一條記載ノ書類ヲ發送官署ニ返付スヘシ

第十三條　被押送者ニシテ傳染病流行地ヲ經由シタルトキハ隔離消毒法ヲ行フヘシ

附　則

第十四條　本則ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

（別記）　押送狀雛形

番號

組番號　押送狀

人相

丈
體格
髮眉
目
鼻
口
齒
耳
髭鬚
額
顏色
言訛
異徵

原籍、族籍
寄留地
身分及職業（藝名綽名アルトキハ記入）
氏名
年齡
罪質、刑名刑期
（刑事被告人ナルトキハ被告事件）

本人ハ、、、、、、、、（事由ヲ記ス）ニ依リ、、、、、、、、（地名、官署名）ニ交付スルカ爲押送セシメ候條可然御取計相成度候也

年　月　日

發送官署

發送押送官署名及主任官吏認印	發送到著日時	押送ノ方法及注意ス可キ事項	被押送者ノ身體ノ狀況	押送中ノ行狀	備考
	發、、、、、				
	到、、、、、 發、、、、、				

本欄ニハ當該裁判官ノ物品購求ニ關ル允許其他逃走死亡等アルニ際シ其旨ヲ記載ス可シ

番號	

組番號	送致金品目錄		
貨幣	物品		各發送押送官署ノ印
	攜有物品	保管スル物品	
一金額、、、 出 一、、、、何何購求 一、、、、何何ニ使用 入 一、、、、差入金 計金、、、	一何何 何个 一何何 何个 計 何點	一何何 何个 一何何 何个 計 何點	

記載例

一 數人同時ニ押送ヲ爲ストキハ被押送者ノ員數ト等シキ組番號ヲ付シ其ノ内順次ニ數ヲ付スルモノトス例ヘハ八人ノ被押送者ニ對シテハ八號ノ一八號ノ二トナスカ如シ押送帳簿ニ於ケル組番號モ亦此例ニ依ル

一 發送押送官署名及主任官吏員認印ノ欄ニ於テハ典獄支署長警察署長署分長及憲兵隊長屯所長之カ認印ヲ押捺スルモノトス

押送帳簿雛形（被押送者一人ニ付半葉トス）

番號	
押送狀番號	
組番號	
押送狀作製ノ年月日	明治 年 月 日
發送官署名	
押送シ來リタル官署名	
送付官署名	
最後ニ送付ヲ受クヘキ官署名	
押送シ來リタル首席官吏氏名及押送官吏員數	
發送及到著日時	到著明治 年 月 日午前午後 時 發送明治 年 月 日午前午後 時
罪質、刑名刑期（刑事被告人ナルトキハ被告事件）	族籍 氏名 年齡
送致金品 金額	本欄ニハ金額竝ニ會計ニ關スル帳簿ノ頁數又ハ番號ヲ掲記スヘシ
送致金品 點數	本欄ニハ點數竝ニ物品帳簿ノ頁數又ハ番號ヲ掲記スヘシ
押送方法 到著前	
押送方法 到著後	
食糧給與ノ度數及其代價	
備考	本欄ニハ被押送者ニシテ發病死亡逃走其他ノ事故アルニ際シ詳細ニ其旨ヲ明記シ且所持金品ノ處分方等ヲ掲クルモノトス

●囚人及刑事被告人押送手續

（明治三十一年三月二十三日、岐阜縣訓令第二十九號）

沿革　明治三一年一〇月縣訓第一三四號、一一月第一四六號、三三年一〇月第一〇二號、三四年四月第一五號、三五年一二月第八〇號、三六年一月第四號改正

囚人及刑事被告人押送手續左ノ通之ヲ定ム但之ニ抵觸スル從前ノ令達ハ總テ廢止ス

第一條　遞傳ニ依リ囚人及刑事被告人ヲ押送スルトキハ裁判所ノ書類及證據物件ハ押送細則規定ノ送致金品目錄ノ外別ニ其ノ目錄ヲ作リ押送巡査ニ交付スヘシ

第二條　遞傳ニ依ラスシス囚人及刑事被告人ヲ押送スルトキハ左ノ各號ニ記載シタル書類ヲ押送巡査ニ交付スヘシ

一　被押送者ノ原籍族籍寄留地身分職業（姦名綽名アルトキハ記入）罪質刑名刑期（刑事被告人ナルトキハ被告事件）氏名年齢

二　被押送者ノ行動

三　所持金品

第三條　第一條ノ目錄ハ最終ノ警察官署ニ於テ保存シ第二條ノ書類及押送狀ハ監獄署ニ引渡スヘシ

第四條　被押送者ヲ授受スルトキハ身體衣服及書類物件ヲ精査シ引繼ヲ爲シタルトキハ受領證ヲ收受スヘシ

第五條　甲乙兩署間同時ニ押送スヘキ囚人及刑事被告人アルトキハ歸署ノ巡査ニ託シ押送セシムルコトヲ得

第六條　押送ハ可成速ニ之ヲ爲シ一時ニ數人ヲ淹留シテ押送ニ附スヘカラス

第七條　甲乙送者ノ員數ハ一時ニ十名以内トシ被送巡査一人ニ付被押送者五名ヲ超ヘシムヘカラス但被押送者ニシテ逃走暴行又ハ劫奪セラルル虞アルモノナルトキハ特ニ巡査ノ人員ヲ增シ警戒ヲ嚴ニスヘシ

第八條　押送巡査ハ署長之ヲ指名スヘシ

署長ニ於テ必要ト認メタルトキハ繩取人ヲ附スルコトヲ得

第九條　遞傳押送ノ場合ニ於テハ押送官署ハ可成前以テ次ニ交付ヲ受クヘキ官署ニ其人員ヲ通知スヘシ被押送者ニシテ逃走暴行其ノ他危險ノ虞アルモノアルトキハ其旨併テ通知スヘシ

第十條　共犯ノ刑事被告人ハ各別ニ押送スヘシ若シ止ムヲ得ス同時ニ押送スルトキハ通牒ノ虞ナキ樣注意スヘシ留置場ニ宿泊セムトスル場合ニ依テモ可成共犯者ヲ同房セシムヘカラス

第十一條　押送途中ハ被押送者ノ逃走ヲ防ク爲メ相當戒具ヲ施スヘシ

同時ニ二名以上押送スルトキハ聯繫シテ押送スヘシ

第十二條　押送途中ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一　押送巡査ハ被告人ノ左側一歩背後ニ尾シ控繩スルコト

二　途中戒具ニ異狀ナキヤ否ヤニ注意シ乘車セシメタルトキ及防寒具雨具等ヲ用ヰシメタルトキハ時々戒具ヲ點檢スルコト

三　押送者ヲ厠圊ニ上ラシメタルトキハ特ニ逃走セサル樣注意スルコト

四　常食ノ外飲食物ヲ給與スヘカラサルコト

五　刑事被告人自辨ヲ以テ物品又ハ飲食物ノ購求ヲ請フモ署長ノ命令アリタル場合ノ外許可スヘカラサルコト

六　署長ノ命令アリタル場合ノ外猥リニ乘車乘船セシムヘカラサルコト

七　猥リニ休息又ハ談話セシメサルコト

八　橋梁ヲ通過シ若クハ河川谿谷ニ臨ミタル道路ヲ通行スルトキハ危害ナキ樣特ニ注意スルコト

九　汽車ニテ護送スルトキハ公衆ノ雜沓セサル場合ニ於テ昇降シ又車室内ニアリテハ窓ニ立寄ラシムヘカラス若シ止ムヲ得スシテ窓ニ近接セシムルトキハ其ノ傍ニアリテ控繩スルコト

第十三條　勾留狀ニヨリ押送スル被押送者ハ該勾留狀ニ左ノ附箋アルモノニ限リ押送細則第七條第二項ノ免許ヲ受ケタルモノトシテ取扱フヘシ

本被告人押送途中ニ於テ自費ヲ以テ物品又ハ飲食物ノ購求ヲ請フトキハ警察署長警察分署長ニ於テ必要ト思量シタルモノニ限リ之ヲ允許ス

第十四條　汽車ニ依リ押送スルトキハ左ノ例ニ依ルヘシ

一　愛知縣ニ押送スヘキモノハ名古屋警察署ニ直送スルコト

二　滋賀縣ニ押送スヘキモノハ入江分署ニ直送スルコト

三　岐阜ニ押送スヘキモノハ送致官署ニ直送スルコト但シ裁判所ニ直送シタルトキハ第十五條ニヨリ引繼クヘシ

四　長野縣ニ押送スヘキモノハ中津警察署ニ直送スルコト

第十五條　岐阜ニ押送スヘキモノニシテ裁判所ニ送致シタルトキハ護送巡査ハ書類物件ヲ檢事ヘ引渡シ身柄ハ裁判所開廷中ハ公廷取締巡査ニ休日又ハ退廷後ハ所在地警察署ニ引繼クヘシ

第十六條　前條ニ依リ引繼ヲ受ケタルトキハ左ノ各號ニヨリ取扱フヘシ

一　引繼ヲ受ケタル公廷取締巡査ハ檢事ノ指揮ニ依リ令狀ヲ執行シ監獄署ニ引渡スヘシ且ツ護送巡査ニ對シテハ第四條ニ準シ假受領證ヲ交付スヘシ

二　引繼ヲ受ケタル所在地警察署ハ第四條ノ手續ヲナシ身柄ニ付テハ前項ニ依リ取扱ヒ假受領書ハ本受領證ト引替ノ手續ヲナスヘシ

●囚人及刑事被告人遞傳護送ニ關スル件

（明治三十一年二月二十五日）
（司法省訓令第一號）

檢事局

檢事ニ於テ囚人又ハ刑事被告人ノ遞傳護送セシムルトキハ遞傳狀ヲ作リ護送人ニ交付シ來リタル處明治三十年（十一月）勅令第四百十五號囚人及刑事被告人押送規則竝同年（十二月）內務省令第三十七號囚人及刑事被告人押送細則ノ發布アリタルニ付キ爾今檢事ハ遞傳狀ヲ作ラス囚人又ハ刑事被告人ヲ發送スヘキ官署ニ對シ必要ナル書類ヲ添付シテ其押送方ヲ指揮スル儀ト心得可シ

●各署間相互ニ傳遞者アリタルトキノ件

（明治二十六年一月）
（指示第一三號）

各署間傳遞護送ノ儀同日ニ甲乙兩署間相互ニ傳遞者アリタルトキハ歸署ノ巡査ニ託シ護送セシメ特ニ出張セシメサル樣取扱フヘシ

●夜間囚徒送附ニ關スル件

（明治二十五年一月）
（指示第六號）

夜間囚徒送附ノ儀ニ付鈴樹檢事正ヨリ別紙ノ通照會有之候條夜間ニ渉ラサル樣注意スヘシ

（別紙）檢第一八號

近來各警察署分署ヨリ刑事被告人當局ヘ送附ノ節往往夜間ニ於テ交付候向有支候得共右ハ自然逃走ノ虞有之ニ付爾今緊急ノ場合ヲ除クノ外ハ夜間送附無之樣夫夫ヘ御通達相成度此段及御照會候也

●取調ノ結果ニヨリ押送人押送方ノ件

（明治三十二年三月十八日）
（指示第七號）

囚人及刑事被告人押送途中警察署分署ニ宿泊セシメタルトキ竝刑事被告人取調結了スルモ即日押送シ難キモノニシテ翌日

押送スル場合ハ日出ヲ待テ速ニ押送スル樣取扱フヘシ

●囚人及刑事被告人押送途中金品取扱方ノ件

（明治三十一年二月一日　保第四五三號）

保安課長竝警務課長ヨリ各警署長同分署長ヘ

囚人及刑事被告人押送ノ儀ニ付御問合ノ向モ有之候處右ハ追テ何分ノ決定アル迄左ノ通御取扱相成度依命此旨及通知候也

一　拘留狀ニ依リ押送スルモノハ該拘留狀ニ左ノ附箋アルモノニ限リ當該裁判官ノ許可ヲ得タルモノトシテ御取扱相成度然ラサルモノハ許可ナキモノトシテ取扱ハレタシ

本被告人押送途中ニ於テ自費ヲ以テ物品又ハ飲食物ノ購求ヲ請フトキハ警察署長警察分署長ニ於テ必要ト思料スルモノニ限リ之ヲ允許ス

二　送致金品目錄ハ單ニ被押送者ニ屬スル分ノミヲ記入シ裁判所ニ宛テタル書類數及證憑物件ノ如キハ別ニ目錄樣ノモノヲ調製添付セラレタシ

三　押送帳簿雛形中送致金品ノ欄内ニアル記載スヘキ帳簿ハ出納官吏現金出納簿ノ員數又ハ保管及没收物品受拂簿ノ員數ヲ記入セラレタシ

●囚人及刑事被告人押送ニ關スル取扱方

（明治三十四年四月五日　保第二九一號保安課長通牒）

今回囚人及刑事被告人押送手續中直接裁判所ニ押送スル場合ノ手續改正相成候ニ付テハ授受ノ便利ヲ圖ル爲メ左ノ各項ニ

依リ御取扱相成度依命此段及御通牒候也

一　送致官署ハ囚人及刑事被告人押送手續第十五條第一號假受領證ニ代ユル爲押送者ヲシテ別ニ被押送者ノ所持金品目錄ヲ作リ押送者ニ帶行セシムヘシ

二　受送致官署又ハ公廷取締巡査ハ押送者帶行ノ所持金品目錄ニ認印ノ上返戻シ追テ監獄署ヨリ收受シタル本領收證書ト引替ヲ爲スヘシ

●囚人及刑事被告人押送ノ際ニ於ケル注意方

（明治三十四年一月十日　内務大臣訓第一二號）

警察官吏ノ囚人及刑事被告人ヲ押送スルニ當リ押送ノ途次往往被押送者ニ逃走セラレ甚キニ至リテハ押送官吏ノ殺害セラレタルコトアリ就テハ向後押送官吏ヲ付スルニ方リ被押送者ノ性行罪質腕力及行路ノ難易等ヲ參酌シ之ニ適應セル人員及人物ヲシテ押送ノ任ニ當ラシメ押送上不都合之レナキ樣一層注意セラルヘシ

●囚人及刑事被告人送致上ノ件

（明治三十三年四月二十日　太田警察署指示第一〇號）

從來囚人及刑事被告人ハ其ノ署ヨリ關警察署ヲ經テ岐阜法衙ヘ押送スヘキ筈ノ處爾今其ノ署ヨリ直送セル樣取計ラハルヘシ

●囚人及刑事被告人押送ニ關スル件

（明治三十六年六月　指示保第一五號）

去月二十五日司法令第十五號ヲ以テ大垣支部ニ於テ當分裁判事務取扱ハサル旨令達相成候就テハ是迄同部ヘ送致シ來リタル囚人及刑事被告人ハ左ノ手續ニ依リ押送スヘシ

一　垂井警察署ハ囚人及刑事被告人押送手續第十四條第三號ニ據リ取扱フヘシ
二　池田、高田、高須、大藪ハ大垣ニ揖斐ハ北方ニ押送スヘシ

●囚人及刑事被告人押送ノ件

（明治四十一年五月二十九日　指示警第八號）

八幡、關警察署長ヘ

爾今八幡警察署ヨリ岐阜地方裁判所檢事局及岐阜監獄ヘ押送スル囚人及刑事被告人ハ關警察署ヲ經テ遞傳押送スヘシ

●拘留ノ刑事被告人ニ對シ判決言渡アリタルトキ押送方ノ件

（明治三十八年八月二十五日　岐阜地方裁判所檢事正通牒）

拘留ノ刑事被告人ニ對シ判決言渡アリタル時ハ確定ヲ待タス直ニ執行指揮書ニ抄本ヲ添ヘ岐阜監獄ニ押送方取計ノ件大垣御嵩八幡各區裁判所檢事ニ通達致候條此段及御通知候也

●囚人及刑事被告人押送ニ關スル件

（大正二年八月十一日　指示第八號）

今回大垣區裁判所廢止相成候ニ付テハ從來同區裁判所ヘ押送シ來リタル囚人及刑事被告人ハ爾今左ノ手續ニ依リ押送セラルヘシ

一　垂井、高田、大垣ノ三警察署ハ囚人及刑事被告人押送手續第十四條第三號ニ依リ取扱フヘシ
二　高須警察署ハ大垣警察署ニ揖斐警察署ハ北方警察署ニ押送スヘシ

●囚人及刑事被告人傳染病ニ罹リタルモノ送致ノ件

（明治二十七年十月　指示警發第四六七號）

囚人及刑事被告人ニシテ傳染病ニ罹リタルモノアルトキハ充分豫防消毒ノ手當ヲナシ嚴ニ病毒ノ散逸ヲ防キタル後送致スルハ當然ノ儀ニシテ今更喋々ヲ要セサル次第ニ有之候然ルニ屋外竊盜等微罪ノモノカ又ハ輕罪犯人ニシテ親屬故舊等ニ責付ノ處分ヲ爲スモ敢テ罪證湮滅ノ患ナシト確認スルモノニ限リ一件書類ニ其旨ヲ附記シテ先送付シ其被告人ハ全治ノ後送致スルノ手續ヲ爲ス等臨機ノ處置ヲ施ササルヘカラス否ラサレハ輕易ノ犯罪タル傳染病者ヲ其儘送致シタル結果籌途中及裁判所監獄署內等ニ於テ該病毒傳播シ遂ニ救フヘカラサル大害ヲ釀成セシ事ハ往々其例ニ乏シカラサル儀ニ有之候條遺策ナキ樣深ク注意ヲ加フヘシ

●刑事被告人ニ冠物ヲ使用セシムルノ件

（大正十一年四月二十日　保親第九〇號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

警察署附屬留置場ニ拘禁スル刑事被告人ニ對シ裁判所其ノ他ノ出入ニ冠物ヲ使用セシメサル向有之哉ニ候處監獄ニ於テハ從來裁判所ニ押送スル場合ハ勿論監房外ニ出ス場合ニ於テモ他人ニ接觸スル機會ヲ防キ且本人ヲ保護スル爲メ冠物ヲ使用セシメ居候ニ付各署附屬留置場ニ拘禁スル刑事被告人ニ對シテモ右趣旨ニ據リ取扱ハレ度及通牒候也

●傳染病ニ罹リタル囚人及刑事被告人取扱方ニ關スル件

（大正四年四月二日　保第二三五五號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

警察署留置場ニ拘禁又ハ留置中ノ在監者ニシテ傳染病ニ罹リ病院ヘ移送ノ際ニ於ケル取扱方ニ關シテハ監獄法施行規則第百十四條ニ準據スヘキハ勿論ノ儀ニ候處其ノ疾病ニ依リ防疫上寸時モ猶豫シ難キ場合ニ於テハ電報ヲ以テ指揮ヲ仰キ又ハ事後承認ヲ認メラルルモ支障無之旨其ノ筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條取扱上相當御注意相成度依命此段及通牒候也

追テ本件處分ノ結果ハ警察部長及典獄ニ即報可相成尚令狀又ハ逮捕狀ノ執行者若ハ檢事ノ指揮ニ依リ勞役場留置執行ノ爲メ拘留セラレタル者ニ係ルトキハ當該檢事ニモ即報可有之此旨申添候

●囚人及刑事被告人縣外押送ノ件

（明治三十一年十一月八日　監獄局長監甲第一八號）

囚人及刑事被告人押送ノ件ニ就テハ客年十二月監甲第十五號ヲ以テ及通牒候處汽車汽船ノ便アル地方間ハ可成直送セシムル趣旨ニ出タルモノニシテ若シ戒護者若クハ費用等ノ都合ニ依リ漏傳ニ付シタル場合ニ在テハ沿道地方ニ於テ之カ受繼ヲ拒絶スルヲ得サルハ勿論之儀ニ有之爲念此段依命及通牒候也

●受刑者及刑事被告人護送ニ關スル件

（明治四十五年五月七日　內務省訓第一七五號）

明治四十四年勅令第二百六十八號ニ依リ受刑者及刑事被告人ヲ內地ヨリ臺灣、朝鮮、關東州ニ護送スヘキ者ハ門司又ハ長崎ニ送致シ福岡縣又ハ長崎縣ニ於テハ海路直ニ之ヲ基隆、釜山又ハ大連ニ押送シ樺太ニ護送スヘキ者ハ函館ニ送致シ北海道廳ハ小樽ヨリ海路之ヲ大泊ニ若シ結氷ノ爲メ交通不能ノ場合ハ眞岡ニ之ヲ押送スヘシ

●軍衙間囚人及刑事被告人押送規則

（明治三十二年十月十六日　勅令第四百五號）

第一條　囚人及刑事被告人ノ押送ハ陸軍ニ於テハ陸軍兵員海軍ニ於テハ海軍兵員憲兵若ハ海軍警査ヲシテ之ヲ爲サシム但シ被押送者在監人ナルトキハ陸軍監獄若ハ海軍監獄看守長看守ヲシテ押送セシムルコトヲ得

第二條　囚人及刑事被告人ヲ押送セントスルトキハ發送官衙ニ於テ押送狀ヲ作リ被押送者ニ關スル必要ナル書類ヲ添ヘ被押送者ト共ニ押送者ニ交付スヘシ

押送狀ニハ被押送者ノ本籍住所所屬身分氏名年齡、刑名刑期又ハ被告事件人相竝著用被服所持品送致貨幣物品書類ノ目錄等ヲ記載スヘシ

第三條　傷痍ヲ受ケ若ハ症病ニ罹リタル者ハ醫師ニ於テ差支ナシト認ムルニ非サレハ之ヲ押送スルコトヲ得ス

第四條　被押送者ノ所持スル貨幣物品ヲ被押送者ト同時ニ送致スルトキハ左ノ手續ニ依ルヘシ

一　物品ハ押送者ニ託シテ送致ス但シ危險ノ虞アル物品及押送者ノ携帶ニ堪ヘサル物品ハ此ノ限ニ在ラス

二　貨幣ハ押送者ニ託セス保管金寄託替ノ手續ニ依リ送致ス但シ五圓未滿ノ金額若ハ押送期間一日以上ニ亘ラサル場合及刑事被告人ニ屬スル貨幣ニシテ本人ノ請求アル場合ハ押送者ニ託スルコトヲ得

前項ニ依リ送致スル貨幣物品ハ押送者ニ託スル場合ニ於テハ押送官衙ノ保管ニ屬シ押送者ニ託セサル場合ニ於テハ發送官衙ノ保管ニ屬ス

第五條　押送ハ汽車汽船ニ依ルモノ若ハ特別ノ事由アルトキノ外日出前日沒後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　押送中宿泊ヲ要スルトキハ被押送者ヲ陸軍監獄若ハ海軍監獄ニ付託シテ宿泊セシメ陸軍監獄若ハ海軍監獄ナキ地

ニ於テハ警察署若ハ警察分署ニ付託シテ宿泊セシムヘシ

前項ノ官署ナキ地ニ於テハ適宜被押送者ノ宿泊ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ憲兵警察官吏及市町村吏員ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第七條　押送中被押送者傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ押送者ハ速ニ相當ノ手當ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ憲兵警察官吏及市町村吏員ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第八條　押送中被押送者逃走ヲ謀リ又ハ暴行ヲ爲サムトシ其ノ他押送ヲ全クスルコトヲ得サル虞アルトキハ押送者ハ憲兵及警察官吏ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第九條　押送中被押送者ノ傷痍疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ押送ノ停止ヲ要スルトキハ押送者ハ一時被押送者ヲ陸軍監獄若ハ海軍監獄ニ付託シ陸軍監獄若ハ海軍監獄ナキ地ニ於テハ警察署若ハ警察分署ニ付託スルコトヲ得

押送ヲ停止シタルトキハ其ノ旨ヲ押送官衙ニ通知シ指揮ヲ待ツヘシ

第十條　押送中被押送者死亡シタルトキハ押送者ハ速ニ其ノ旨ヲ本人所屬ノ官衙發送押送受送ノ各官衙本籍市町村長及近地所在ノ親族ニ通知シ醫師ヨリ死亡證書ヲ徵シ死亡後二十四時ヲ經死體引取人ナキトキハ其ノ地ニ於テ假埋葬ヲ爲スヘシ但シ死體引渡及埋葬ニ付本人所屬ノ官衙若ハ押送官衙ヨリ別段ノ指示アリタルトキハ其ノ指示ニ從フヘシ

前項ノ處分ヲ爲スニ付テハ憲兵警察官吏及市町村吏員ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

死體ニ關スル處分ハ之ヲ本人所屬ノ官衙押送官衙及本籍市町村長ニ通知スヘシ此ノ通知ニハ死亡證書ヲ添付スルコトヲ要ス

第十一條　被押送者ニ屬スル食料其ノ他ノ費用ハ押送官衙ノ負擔トス

第十二條　押送中被押送者逃走シタルトキハ押送者ハ直ニ其ノ旨ヲ最寄ノ憲兵屯所憲兵分屯所警察署警察分署巡査派出所若ハ巡査駐在所ニ急報シ且速ニ發送押送受送ノ各官衙ニ通知シ第二條及第四條ニ記載シタル書類貨幣及物品ヲ押送官衙ニ返付スヘシ

第十三條　被押送者傳染病流行地ヲ經過シタルトキハ離隔消毒法ヲ行フヘシ

第十四條　本令ニ於テ押送官衙ト稱スルハ押送者ノ屬スル官衙ヲ謂フ

●陸軍法衙ニ送致ノ囚人、刑事被告人交付方

（明治三十一年四月十二日）
（檢事局訓令第五號）

吉江檢事正ヨリ檢事、司法警察官ヘ

陸軍法衙ニ送致スヘキ囚人又ハ刑事被告人ハ最近ノ憲兵屯所ニ交付セシムヘシ

第十三章　監獄、留置場

●監獄法

（明治四十一年三月二十八日法律第二十八號）

第一章　總則

第一條　監獄ハ之ヲ左ノ四種トス

一　懲役監　懲役ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

二　禁錮監　禁錮ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

三　拘留場　拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

四　拘置監　刑事被告人及ヒ死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ拘留スル所トス

拘置監ニハ懲役、禁錮又ハ拘留ニ處セラレタル者ヲ一時拘禁スルコトヲ得

警察官署ニ附屬スル留置場ハ之ヲ監獄ニ代用スルコトヲ得但懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ヲ一月以上繼續シテ拘禁スルコトヲ得

第二條　二月以上ノ懲役ニ處セラレタル十八歲未滿ノ者ハ特ニ設ケタル監獄又ハ監獄內ニ於テ特ニ分界ヲ設ケタル場所ニ之ヲ拘禁ス

前項ノ規定ニ依ル者ハ滿二十歲ニ至ルマテ又滿二十歲ニ至リタル後三月內ニ刑期終了ス可キ者ハ其殘刑期間乃ホ繼續シテ之ヲ拘禁スルコトヲ得

心身發育ノ狀況ニ因リ必要ト認ムル者ハ前二項ノ適用ニ付キ年齡ニ拘ハサルコトヲ得

第三條　監獄ニ男監及ヒ女監ヲ設ケ之ヲ分隔ス

懲役監、禁錮監、拘留場及ヒ拘置監ノ同一區劃內ニ在ルモノハ之ヲ分界ス

第四條　主務大臣ハ少クトモ二年毎ニ一回官吏ヲシテ監獄ヲ巡閲セシムル可シ

判事及ヒ檢事ハ監獄ヲ巡視スルコトヲ得

第五條　監獄ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ學術ノ研究其他正當ノ理由アリト認ムル場合ニ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ許スコトヲ得

第六條　本法ニ依リ没入シ又ハ國庫ニ歸屬シタル物ハ之ヲ監獄慈惠ノ用ニ充ツ

第七條　在監者監獄ノ處置ニ對シ不服アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣又ハ巡閲官吏ニ情願ヲ爲スコトヲ得

第八條　勞役場ハ之ヲ監獄ニ附設ス

前五條ノ規定ハ之ヲ勞役場ニ準用ス

第九條　本法中別設ノ規定アルモノヲ除ク外刑事被告人ニ適用ス可キ規定ハ死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用シ懲役囚ニ適用ス可キ規定ハ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第十條　本法ハ陸海軍ニ屬スル監獄ニ之ヲ適用セス

第二章　收監

第十一條　新ニ入監スル者アルトキハ令狀又ハ判決書及ヒ執行指揮書其他適法ノ文書ヲ査閲シタル後入監セシム可シ

第十二條　新ニ入監スル婦女其子ヲ携帶センコトヲ請フトキハ必要ト認ムル場合ニ限リ滿一歳ニ至ルマテ之ヲ許スコトヲ得

監獄ニ於テ分娩シタル子ニ付テモ亦前項ノ例ニ倣ル

第十三條　新ニ入監スル者傳染病豫防法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病ニ罹リタルモノナルトキハ之ヲ入監セシメサルコトヲ得

第十四條　新ニ入監スル者アルトキハ其身體及ヒ衣類ノ檢査ヲ爲ス可シ在監中ノ者ニ付キ必要ト認ムルトキ亦同シ

第三章　拘禁

第十五條　在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモノヲ除ク外之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得

第十六條　雜居拘禁ニ在テハ在監者ノ罪質、性格、犯數、年齡等ヲ斟酌シテ其監房ヲ別異ス

第一條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ在監者ノ種類ニ依リ其監房ヲ別異ス

十八歳未滿ノ者ハ第二條第二項ノ場合ヲ除ク外十八歳以上ノ者ト其監房ヲ別異ス但心身發育ノ狀況ニ因リ其必要ナシト認ムルトキハ此限ニ在ラス

前三項ノ規定ハ工場ニ於ケル就業ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條　刑事被告人ニシテ被告事件ノ相關連スルモノハ互ニ其監房ヲ別異シ監房外ニ於テモ其交通ヲ遮斷ス

第十八條　懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監及ヒ勞役場ノ同一區劃內ニ在ル場合ニ於テハ同性者ニ付キ同一ノ病監又ハ教誨堂ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ在監者ノ種類ニ因リ監房若クハ座席又ハ診察若クハ教誨ノ時間ヲ異ニス

病監ニ在テハ第二條及ヒ第十六條ヲ適用セサルコトヲ得

第四章　戒護

第十九條　在監者逃走、暴行若クハ自殺ノ虞アルトキ又ハ監外ニ在ルトキハ戒具ヲ使用スルコトヲ得

戒具ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　法令ニ依リ監獄官吏ノ携帶スル劒又ハ銃ハ左ノ各號ノ一ニ該ル場合ニ限リ在監者ニ對シ之ヲ使用スルコトヲ得

一　人ノ身體ニ對シテ危險ナル暴行ヲ爲シ又ハ爲ス可キ脅迫ヲ加フルトキ

二　危險ナル暴行ノ用ニ供シ得可キ物ヲ所持シ其放棄ヲ肯セサルトキ

三　逃走ノ目的ヲ以テ多衆騷擾スルトキ

四　逃走ヲ企テタル者暴行ヲ爲シテ捕拿ヲ免カレントシ又ハ制止ニ從ハスシテ逃走セントスルトキ

第二十一條　天災事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ在監者ヲシテ應急ノ用務ニ就カシムルコトヲ得

前項ノ用務ニ就キタル者ニハ第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條　天災事變ニ際シ監獄内ニ於テ避難ノ手段ナシト認ムルトキハ在監者ヲ他所ニ護送ス可シ若シ護送スルノ遑ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

解放セラレタル者ハ監獄又ハ警察官署ニ出頭ス可シ解放後二十四時間内ニ出頭セサルトキハ刑法第九十七條ニ依リ處斷ス

第二十三條　在監者逃走シタルトキハ監獄官吏ハ逃走後四十八時間内ニ限リ之ヲ逮捕スルコトヲ得

前項ノ規定ハ刑事訴訟法第六十條ノ適用ヲ妨ケス

第五章　作業

第二十四條　作業ハ衛生、經濟及ヒ在監者ノ刑期、健康、技能、職業、將來ノ生計等ヲ斟酌シテ之ヲ課ス

十八歳未滿ノ者ニ課ス可キ作業ニ付テハ前項ノ外特ニ教養ニ關スル事項ヲ斟酌ス

第二十五條　大祭祝日、一月一日二日及ヒ十二月三十一日ニハ就業ヲ免ス

父母ノ訃ニ接シタル者ハ三日間其就業ヲ免ス

主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時就業ヲ免スルコトヲ得」

炊事、洒掃、看護其他監獄ノ經理ニ關シ必要ナル作業ニ就ク者ニ付テハ就業ヲ免セサルコトヲ得

第二十六條　刑事被告人、拘留囚又ハ禁錮囚作業ニ就カンコトヲ請フトキハ其選擇スルモノニ就キ之ヲ許スコトヲ得

第二十七條　作業ノ收入ハ總テ國庫ノ所得トス

在監者ニシテ作業ニ就クモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

作業賞與金ハ行狀、作業ノ成績等ヲ斟酌シテ其額ヲ定ム

第二十八條　在監者就業ニ因リ創傷ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲メニ死亡シ又ハ業務ヲ營ミ難キニ至リタルトキハ情狀ニ因リ手當金ヲ給スルコトヲ得

前項ノ手當金ハ釋放ノ際本人ニ之ヲ給シ死亡ノ場合ニ於テハ死亡者ノ父、母、配偶者又ハ子ニ之ヲ給ス

第六章　教誨及ヒ教育

第二十九條　受刑者ニハ教誨ヲ施ス可シ其他ノ在監者教誨ヲ請フトキハ之ヲ許スコトヲ得

第三十條　十八歳未滿ノ受刑者ニハ教育ヲ施ス可シ其他ノ受刑者ニシテ特ニ必要アリト認ムルモノニハ年齡ニ拘ハラス教育ヲ施スコトヲ得

第三十一條　在監者文書、圖畫ノ閲讀ヲ請フトキハ之ヲ許ス

文書、圖畫ノ閲讀ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章　給養

第三十二條　受刑者ニハ一定ノ衣類臥具ヲ著用セシム但拘留囚ニハ自衣ノ著用ヲ許シ其他ノ者ニハ襯衣ノ自辨ヲ許スコトヲ得

第三十三條　刑事被告人及ヒ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ノ衣類臥具ハ自辨トシ其自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

自辨ノ衣類臥具ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　在監者ニハ其體質、健康、年齡、作業等ヲ斟酌シテ必要ナル糧食及ヒ飲料ヲ給ス

第三十五條　刑事被告人ニハ糧食ノ自辨ヲ許スコトヲ得

第八章　衛生及ヒ醫療

第三十六條　在監者ノ頭髮鬚髯ハ之ヲ翦剃セシムルコトヲ得但刑事被告人ノ頭髮鬚髯ハ衛生上特ニ必要アリト認ムル場合ヲ除ク外其意思ニ反シテ之ヲ翦剃セシムルコトヲ得ス

第三十七條　在監者ハ其拘禁セラルル監房ノ清潔ヲ保ツニ必要ナル用務ニ服ス可シ

第三十八條　在監者ニハ其健康ヲ保ツニ必要ナル運動ヲ爲サシム

第三十九條　在監者ニハ種痘其他傳染病豫防ニ必要ト認ムル醫術ヲ行フコトヲ得

第四十條　在監者疾病ニ罹リタルトキハ醫師ヲシテ治療セシメ必要アルトキハ病監ニ收容ス

第四十一條　傳染病者ハ嚴ニ之ヲ離隔シ健康者及ヒ他ノ病者ニ接近セシムルコトヲ得ス但懲役囚ヲシテ看護セシムルハ此限ニ在ラス

第四十二條　病者醫師ヲ指定シ自費ヲ以テ治療ヲ補助セシメンコトヲ請フトキハ情狀ニ因リ之ヲ許スコトヲ得

第四十三條　精神病、傳染病其他ノ疾病ニ罹リ監獄ニ在テ適當ノ治療ヲ施スコト能ハスト認ムル病者ハ情狀ニ因リ假ニ之ヲ病院ニ移送スルコトヲ得

前項ニ依リ病院ニ移送シタル者ハ之ヲ在監者ト看做ス

第四十四條　姙婦、産婦、老衰者及ヒ不具者ハ之ヲ病者ニ準スルコトヲ得

第九章　接見及ヒ信書

第四十五條　在監者ニ接見センコトヲ請フ者アルトキハ之ヲ許ス

受刑者ニハ其親族ニ非サル者ト接見ヲ爲サシムルコトヲ得ス但特ニ必要アリト認ムル場合ハ此限ニ在ラス

第四十六條　在監者ニハ信書ヲ發シ又ハ之ヲ受クルコトヲ許ス

受刑者ニハ其親族ニ非サル者ト信書ノ發受ヲ爲サシムルコトヲ得ス但特ニ必要アリト認ムル場合ハ此限ニ在ラス

第四十七條　受刑者ニ係ル信書ニシテ不適當ト認ムルモノハ其發受ヲ許サス

前項ニ依リ發受ヲ許ササル信書ハ二年ヲ經過シタル後之ヲ廢棄スルコトヲ得

第四十八條　裁判所其他ノ公務所ヨリ在監者ニ宛テタル文書ハ披閲シテ之ヲ本人ニ交付ス

第四十九條　在監者ニ交付シタル信書及ヒ前條ノ文書ハ本人閲讀ノ後之ヲ領置ス

第五十條　接見ノ立會、信書ノ檢閲其他接見及ヒ信書ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十章　領置

第五十一條　在監者ノ携有スル物ハ點檢シテ之ヲ領置ス

保存ノ價値ナク又ハ保存ニ不適當ト認ムル物ハ其領置ヲ爲サス又ハ之ヲ解クコトヲ得

領置ヲ爲サス又ハ之ヲ解キタル物ニ付キ在監者相當ノ處分ヲ爲ササルトキハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第五十二條　在監者領置物ヲ以テ其父、母、配偶者又ハ子ノ扶助其他正當ノ用途ニ充テンコトヲ請フトキハ情狀ニ因リ之ヲ許スコトヲ得

第五十三條　在監者ニ差入ヲ爲サンコトヲ請フ者アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ許スコトヲ得

在監者ニ宛テ送致シ來リタル物ニシテ其差出人ノ氏名若クハ居所不明ナルトキ、其差入ヲ許ス可カラスト認ムルトキ又ハ在監者ニ於テ其受領ヲ拒ミタルトキハ之ヲ沒入又ハ廢棄スルコトヲ得

第五十四條　在監者ノ私ニ所持スル物ハ之ヲ沒入又ハ廢棄スルコトヲ得

第五十五條　領置物ハ釋放ノ際之ヲ交付ス

第五十六條　死亡者ノ遺留物ハ請求ニ因リ相續人、家族又ハ親族ニ之ヲ交付ス

第五十七條　死亡者ノ遺留物ハ死亡ノ日ヨリ一年內ニ前條ニ揭ケタル者ノ請求ナキトキハ國庫ニ屬歸ス

逃走者ノ遺留物ニシテ逃走ノ日ヨリ一年內ニ居所分明セサルトキ亦同シ

第十一條　賞罰

第五十八條　受刑者改悛ノ狀アルトキハ賞遇ヲ爲スニトヲ得」

賞遇ノ種類及ヒ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條　在監者紀律ニ違ヒタルトキハ懲罰ニ處ス

第六十條　懲罰ハ左ノ如シ

一　叱責

二　賞遇ノ三月以内ノ停止
三　賞遇ノ廢止
四　文書、圖書閲讀ノ三月以内ノ禁止
五　請願作業ノ十日以内ノ停止
六　身辨ニ係ル衣類臥具著用ノ十五日以内ノ停止
七　糧食自辨ノ十五日以内ノ停止
八　運動ノ五日以内ノ停止
九　作業賞與金計算高ノ一部又ハ全部減削
十　七日以内ノ減食
十一　二月以内ノ輕屏禁
十二　七日以内ノ重屏禁

屏禁ハ受罰者ヲ罰室内ニ晝夜屏居セシメ情狀ニ因リ就業セシメサルコトヲ得重屏禁ニ在テハ仍ホ罰室ヲ暗クシ臥具ヲ禁ス

第一項各號ノ懲罰ハ之ヲ併科スルコトヲ得

第六十一條　前條第一項第十號ノ懲罰ハ刑事被告人及ヒ十八歲未滿ノ在監者ニ之ヲ科セス

第六十二條　懲罰ニ處セラレタル者疾病其他特別ノ事由アルトキハ其懲罰ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

懲罰ニ處セラレタル者改悛ノ狀著シキトキハ其懲罰ヲ免除スルコトヲ得

第十二章　釋放

第六十三條　在監者ノ釋放ハ恩赦、職權アル者ノ命令又ハ刑期ノ終了ニ因リ關係文書ヲ査閲シテ其ノ手續ヲ爲ス可シ

第六十四條　恩赦ヲ受ケ又ハ假出獄若クハ假出場ヲ許サレタル者ハ其裁可狀又ハ裁可書ノ監獄ニ達シタル後二十四時間内ニ之ヲ釋放ス

第六十五條　前條ノ場合ヲ除ク外命令ニ因リ釋放ヲ爲ス可キ者ハ命令書ノ監獄ニ達シタル後十時間内ニ之ヲ釋放ス

第六十六條　假出獄又ハ假出場ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ之ニ證票ヲ交付ス

第六十七條　假出獄ヲ許サレタル者ハ其期間左ノ規定ヲ遵守ス可シ

一　正業ニ就キ善行ヲ保ツコト
二　警察官署ノ監督ヲ受クルコト但警察官署ハ監獄ノ意見ヲ聽キ他ニ其監督ヲ委任スルコトヲ得
三　住居ヲ轉移シ又ハ十日以上旅行ヲ爲サントスルトキハ監督者ノ許可ヲ請フコト

主務大臣ハ假出獄ヲ許サレタル者ノ帝國外ニ旅行ヲ爲スヲ許スコトヲ得

第六十八條　滿期ノ者ハ其刑期終了ノ翌日午後六時マテニ之ヲ釋放ス

第六十九條　釋放セラル可キ者重キ疾病ニ罹リ監獄ニ於テ醫療中ナルトキハ其請求ニ因リ仍ホ在監セシムルコトヲ得

第七十條　釋放セラル可キ者歸住旅費若クハ相當ノ衣類ヲ有セサルトキ又ハ監獄行政ノ便宜ニ因リ移監セシメタルカ爲メ歸住旅費ノ增加ヲ要スルニ至リタルトキハ衣類又ハ旅費ヲ給與スルコトヲ得

第十三章　死亡

第七十一條　死刑ノ執行ハ監獄内ノ刑場ニ於テ之ヲ爲ス

大祭祝日、一月一日二日及ヒ十二月三十一日ニハ死刑ヲ執行セス

第七十二條　死刑ヲ執行スルトキハ絞首ノ後死相ヲ檢シ仍ホ五分時ヲ經ルニ非サレハ絞繩ヲ解クコトヲ得ス

第七十三條　在監者死亡シタルトキハ之ヲ埋葬ス

死體ハ必要ト認ムルトキハ之ヲ火葬スルコトヲ得

死體又ハ遺骨ハ假葬後二年ヲ經テ之ヲ合葬スルコトヲ得

第七十四條　死亡者ノ親族故舊ニシテ死體又ハ遺骨ヲ請フ者アルトキハ何時ニテモ之ヲ交付スルコトヲ得但合葬後ハ此限

ニ在ラス

第七十五條　受刑者ノ死體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ解剖ノ爲メ病院、學校又ハ其他ノ公務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得

附　則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

監獄則ハ之ヲ廢止ス但懲治人ニ關スル規定ハ當分ノ内仍ホ其效力ヲ有ス

●監獄法施行規則

（明治四十一年六月十六日　司法省令第十八號）

沿革　大正一〇年九月司令第一九號、一一年一月第一號、六月第一三號、一〇月第二四號、一三年三月第四號改正

第一章　總則

第一條　逃亡犯罪人引渡條例ニ依リ拘禁ス可キ者ハ之ヲ拘置監ニ拘禁ス

外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法ニ依リ監獄ニ拘禁シタル者ハ刑事被告人ニ準ス

第二條　監獄ノ參觀ハ男子ニハ男監、女子ニハ女監ニ限リ之ヲ許ス但司法大臣ヨリ特別ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

未成年者ニハ監獄ノ參觀ヲ許サス

外國人監獄ヲ參觀スルニハ司法大臣ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第三條　監獄ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ典獄ハ其氏名、身分、職業、住所、年齡及ヒ參觀ノ目的ヲ調査シ許可ヲ與ヘタル者ニハ參觀者心得事項ヲ告知ス可シ

第四條　司法大臣ニ情願ヲ爲スニハ其旨趣ヲ記載シタル書面ヲ差出スコトヲ要ス

情願書ハ本人ヲシテ之ヲ封緘セシメ監獄官吏ハ之ヲ披閲スルコトヲ得ス

情願書ヲ差出シタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ司法大臣ニ進達ス可シ

第五條　巡閲官吏ニハ書面又ハ口頭ヲ以テ情願ヲ爲スコトヲ得

巡閲官吏ニ情願ヲ爲サンコトヲ豫告スル者アルトキハ典獄ハ其者ノ氏名ヲ情願簿ニ記載シ置ク可シ

前條第二項ノ規定ハ本條ノ情願書ニ之ヲ適用ス

第六條　巡閲官吏情願ヲ聽クニハ必要アル場合ヲ除ク外監獄官吏ヲシテ之ニ立會ハシム可カラス

第七條　巡閲官吏情願ヲ審査シタルトキハ自ラ裁決ヲ爲シ又ハ司法大臣ノ裁決ヲ乞フコトヲ得

巡閲官吏自ラ裁決ヲ爲シタルトキハ情願簿ニ其要旨ヲ記載ス可シ

第八條　情願ニ對スル裁決ハ典獄速ニ之ヲ本人ニ告知ス可シ

第九條　典獄ハ毎週一回以上面接日ヲ定メ監獄ノ處置又ハ一身ノ事情ニ付キ申立ヲ爲サンコトヲ請フ在監者ニ面接ス可シ

前項ノ申立ヲ爲サンコトヲ豫告スル者アルトキハ其氏名ヲ面會簿ニ記載シ置キ其順序ニ從ヒ面接シタル後本人ニ開示シタル意見ノ要旨ヲ面會簿ニ記載ス可シ

第十條　本則中別段ノ規定アルモノヲ除ク外懲役囚ニ適用ス可キ規定ハ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第二章　收監

第十一條　新ニ入監スル者ヲ領收シタルトキハ入監者ノ氏名、領收ノ年月日時及ヒ領收官吏ノ氏名ヲ記載シタル領收書ヲ護送者ニ交付ス可シ

第十二條　新ニ入監スル婦女ニ子ノ携帶ヲ許ササル場合ニ於テ相當ノ引取人ナキトキハ其子ヲ監獄所在地ノ市區町村役場ニ引渡ス可シ

携帶ヲ許シタル子カ滿一歲ニ達シ又ハ他ニ在監ヲ許ス可カラサル事情アル場合ニ於テ相當ノ引取人ナキトキ亦同シ

第十三條　新ニ入監スル者アルトキハ監獄醫其健康ヲ診査ハ可シ

第十四條　監獄ニ於テ避病監其他傳染病者ノ收容ニ適當ノ設備アルトキハ傳染病豫防法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病ニ罹ル者ト雖モ之ヲ入監セシム可シ

第十五條　監獄法第十三條ニ依リ入監セシメサル場合ニ於テハ直ニ其旨ヲ入監ヲ指揮シタル官廳及ヒ監獄所在地ノ警察官署ニ通報シ仍ホ其事情ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第十六條　新ニ入監スル者刑事訴訟法第三百十九條第二項各號ニ該當スルモノト認ムルトキハ之ヲ入監セシメタル上監獄醫ノ診斷書ヲ添ヘ直ニ其旨ヲ檢事ニ通報ス可シ

前項ノ規定ハ在監中ノ者ニ之ヲ準用ス

第十七條　新ニ入監スル者アルトキハ疾病其他已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外入浴ヲ爲サシム可シ

婦女ノ入浴ニハ女監取締之ニ立會ヒ婦女ノ身體及ヒ衣類ノ檢査ハ女監取締之ヲ爲ス可シ

前項ノ規定ハ在監中ノ婦女ノ入浴及ヒ身體衣類ノ檢査ニ之ヲ準用ス

第十八條　入監者ニハ番號ヲ付シ在監中其番號票ヲ上衣ノ襟又ハ胸部ニ附著セシム可シ但本人監外ニ在ル間ハ番號票ヲ除去セシムルコトヲ得

第十九條　典獄ハ在監者ノ遵守スヘキ事項竝ニ刑期ノ起算及ヒ終了ノ日ヲ入監者ニ告知ス可シ

典獄ハ入監者ノ身上ニ關スル事情ヲ調査シ其結果ヲ身上票ニ記載ス可シ

前項ノ調査ヲ爲スニ付キ必要アリト認ムルトキハ裁判所、警察官署、市區町村役場又ハ本人ニ緣故アル者ニ照會ヲ爲ス可シ

第二十條　典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ入監者ノ撮影ヲ爲ス可シ在監中ノ者ニ付キ亦同シ

第二十一條　新ニ入監シタル者ハ疾病其他已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外三日以内之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

前項ノ受刑者ニハ文書圖畫ノ閲讀ヲ許サス懲役囚ニハ作業ヲ課セサルコトヲ得

第二十二條　入監者ノ身分帳簿、名籍原籍、在監人人名簿及放免曆簿ハ收監後三日以内ニ整理シ必要ナル事項ヲ記載ス可シ

在監者遵守事項ハ册子トシテ之ヲ監房内ニ備ヘ置ク可シ

第三章　拘禁

第二十三條　獨居拘禁ニ付セラレタル者ハ他ノ在監者ト交通ヲ遮斷シ召喚、運動、入浴、接見、教誨、診療又ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外常ニ一房ノ内ニ獨居セシム可シ

第二十四條　刑事被告人ハ成ル可ク之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

第二十五條　受刑者ハ本則ニ於テ特ニ規定アル場合ヲ除ク外左ノ順序ニ從ヒ之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

一　刑期二月未滿ノ者

二　二十五歲未滿ノ者

三　初犯ノ者

四　入監後二月ヲ經過セサル者

餘罪又ハ刑期限内ノ犯罪ニ因リ審問中ニ在ル受刑者ハ成ル可ク之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

獨居監房ニ殘餘アルトキハ前二項ニ該當セサル受刑者ト雖モ之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得

第二十六條　在監者ノ精神又ハ身體ニ害アリト認ムルトキハ在監者ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得ス

第二十七條　獨居拘禁ノ期間ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ス但特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ爾後六月毎ニ其期間ヲ更新スルコトヲ妨ケス

十八歲未滿ノ者ハ特ニ必要アリト認メタル場合ヲ除ク外六月以上繼續シテ之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得ス

第二十八條　典獄及ヒ監獄醫ハ少クトモ三十日毎ニ一回、其他ノ監獄官吏ハ毎日數次獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ヲ巡視ス可シ

第二十九條　典獄、監獄醫、教誨師及ヒ女監取締ヲ除ク外監獄官吏ハ單獨ニテ獨居拘禁ニ付セラレタル婦女ヲ巡視スルコトヲ得ス夜間獨居監房ニ拘禁セラレタル婦女ノ巡視ニ付キ亦同シ

第三十條　獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ヲ巡視シタル監獄官吏ハ其視察シタル事項ヲ典獄ニ報告ス可シ

第四十一條　第二十五條第一項及ヒ第二項ニ掲ケタル受刑者ニシテ監房不足ノ爲メ獨居拘禁ニ付スルコト能ハサルモノ及ヒ獨居拘禁ノ期間滿了後必要アリト認ムルモノハ之ヲ夜間獨居監房ニ拘禁ス可シ

第二十五條第三項ノ規定ハ夜間獨居監房ニ之ヲ準用ス

第三十二條　夜間獨居監房ニ拘禁セラレタル者作業ニ就カサルトキハ晝間ト雖モ仍ホ在房セシム可シ

第三十三條　勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ト受刑者トハ之ヲ同一ノ監房又ハ工場ニ雜居セシムルコトヲ得ス

第三十四條　病者又ハ不具者ト健康者トハ之ヲ同一監房ニ拘禁スルコトヲ得ス但看護ニ從事スルモノハ此限ニ在ラス

第三十五條　雜居監房ニハ三人以上ヲ拘禁ス可シ但療養其他已ムコトヲ得サル場合ハ此限ニ在ラス

第三十六條　雜居監房、工場、教場及ヒ教誨堂ニ於テハ在監者ノ席次ヲ定メ交談ヲ禁止ス可シ

第三十七條　監房ニハ疊ヲ敷クコトヲ得ス但拘置監、女監及病監ハ此限ニ在ラス

第三十八條　雜居監房ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外之ヲ工場ニ代用スルコトヲ得ス

第三十九條　居房ノ前ニハ小札ヲ掲ケ在房者ノ番號ヲ記載ス可シ

第四十條　雜居監房ニハ其容積、定員及ヒ現在人員ヲ記載シタル小札ヲ掲ク可シ

第四章　戒護

第四十一條　監獄ニ於テハ出入ノ警戒ヲ嚴ニシ必要アリト認ムルトキハ出入者ノ携帶品ヲ檢査ス可シ

開監前閉監後ハ典獄ノ許可アルニ非サレハ監獄官吏以外ノ者ヲ出入セシムルコトヲ得ス

第四十二條　監獄ノ外門、各出入口、監房、工場及ヒ現ニ在監者ヲ拘禁スル場所ハ之ヲ閉鎖シ置ク可シ若シ必要ニ因リ一時開放スルトキハ其要所ヲ守衛ス可シ

鑰匙ハ一定ノ監獄官吏之ヲ保管シ必要アル場合ニ非サレハ其授受ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條　監獄官吏ハ典獄ノ命令アルニ非サレハ他ノ監獄官吏ノ立會ナクシテ監房ヲ開扉シ又ハ在監者ヲ出房セシムルコトヲ得ス但病監ニ在リテハ此限ニ在ラス

第四十四條　監獄ノ構內ニ於テハ常ニ視察ノ便ヲ計リ觀望ヲ妨ケ其他戒護ノ障礙ト爲ル可キ物ヲ置ク可カラス

已ムコトヲ得サル場合ニ於テ梯子其ノ他攀越ノ用ニ供シ得可キ物ヲ構內ニ置クトキハ之ニ鎖鑰ヲ施ス可シ

第四十五條　典獄ハ監獄官吏ヲシテ少クトモ毎日一回監房ノ檢査ヲ爲サシム可シ

第四十六條　典獄ハ監獄官吏ヲシテ工場又ハ監外ヨリ還房スル在監者ノ身體及ヒ衣類ノ檢査ヲ爲サシム可シ

第四十七條　在監者ニシテ戒護ノ爲メ離隔ノ必要アルモノハ之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

第四十八條　戒具ハ左ノ五種トス

一　窄衣
二　釬
三　手錠
四　聯鎖
五　捕繩

釬ヲ使用スルニハ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ之ニ貫キ腰間ニ繚帶セシメ繚帶ノ所ニ下鍵ス

聯鎖ヲ使用スルニハ之ヲ腰間ニ繚帶セシメ繚帶ノ所ニ下鍵シ二人毎ニ連絆ス

第四十九條　戒具ハ典獄ノ命令アルニ非ラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十條　窄衣ハ危險ナル暴行ヲ爲ス懲役囚、釬ハ逃走又ハ暴行ノ虞アル在監者又ハ護送中ノ在監者、聯鎖ハ監外ノ作業ニ就ク懲役囚ニシテ必要アリト認ムル者ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得

窄衣ハ六時間以上、兩脚施釬ハ六ケ月以上、一脚施釬ハ一年以上繼續シテ之ヲ使用スルコトヲ得ス

護送中ノ者ニハ窄衣及ヒ釬ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十一條　監獄官吏在監者ニ對シテ釬又ハ銃ヲ使用シタルトキハ典獄ハ直ニ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第五十二條　典獄ハ刑期一年以上ノ懲役囚ニシテ刑期ノ半ヲ經過シタル者ノ中ニ就キ臨メ消防ノ用務ニ就カシム可キモノヲ指定スルコトヲ得

第五十三條　監獄法第二十二條ニ依リ在監ヲ解放スルトキハ出頭ス可キ期間及ヒ場所ヲ告知ス可シ

第五十四條　在監者ヲ他所ニ護送ス可キ場合ニ於テハ監獄醫ヲシテ之ヲ診斷セシメ健康ニ害アリト認ムルトキハ其護送ヲ停止ス可シ

第五十五條　護送中ハ男女ヲ同行セシム可カラス刑事被告人ニシテ被告事件ノ相關連スルモノ亦同シ

第五十六條　在監者逃走シタルトキハ典獄ハ速ニ監獄所在地及ヒ其附近並ニ逃走者ノ立寄ル可キ見込アル地方ノ警察官署ニ逃走者ノ人相書ヲ添ヘ逃走ノ事實ヲ通報ス可シ

第五十七條　前條ノ場合ニ於テハ典獄ハ其事實ヲ司法大臣ニ申報ス可シ逃走者ヲ逮捕シタルトキハ亦同シ

逃走者刑事被告人ナルトキハ前項ノ報告ヲ爲ス外逃走及ヒ逮捕ノ事實ヲ檢事ニ通報ス可シ

第五章　作業

第五十八條　在監者ノ作業時間ハ司法大臣之ヲ定ム

典獄ハ地方ノ狀況、監獄ノ構造又ハ作業ノ種類ニ因リ司法大臣ノ認可ヲ受ケ作業時間ヲ伸縮スルコトヲ得

請求ニ因リ作業ニ就ク者ノ作業時間ハ二時間以内短縮スルコトヲ得

教育、教誨及ヒ運動ニ要スル時間ハ之ヲ作業時間ニ通算スルコトヲ得

第五十九條　作業ノ種類ハ司法大臣ノ認可ヲ受ク可シ

第六十條　在監者ニ課スル作業ハ其種類及ヒ一日ノ科程ヲ指定シ之ヲ本人ニ告知ス可シ

第六十一條　作業科程ハ普通一人ノ仕上高及ヒ第五十八條第一項ノ作業時間ヲ標準トシテ等一ニ之ヲ定ム可シ

仕上高ヲ標準トスルコト能ハサル作業ニ付テハ第五十八條第一項ノ作業時間ヲ以テ作業科程トス

十八歲未滿ノ受刑者、老者、病弱者及ヒ不具者ハ前二項ニ倣ラス各就業者ニ付キ相當ノ作業科程ヲ定ムルコトヲ得

第六十二條　作業時間ノ全部ヲ通シテ就業セシムルコト能ハサル作業ハ之ヲ他ノ作業ト併課スルコトヲ得

第六十三條　一日ノ作業科程ヲ終了シタル者ト雖モ作業時間内ハ繼續シテ作業ニ就カシム可シ

第六十四條　請求ニ因リ作業ニ就ク者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其作業ヲ中止シ若クハ之ヲ廢止シ又ハ作業ノ種類ヲ變更スルコトヲ得ス

第六十五條　典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ在監者ヲ受負作業ニ就カシムルコトヲ得ス

第六十六條　刑事被告人ハ之ヲ監外ノ作業ニ就カシムルコトヲ得ス

刑期六月ニ滿タス又ハ受刑後三月ヲ經過セサル受刑者ハ特別ノ事情アル場合ノ外監外ノ作業ニ就カシムルコトヲ得ス但十八歲未滿ノ受刑者ヲ監外ノ農業ニ就カシムルハ此限ニ在ラス

第六十七條　典獄ハ監獄官吏ヲシテ毎日一回各就業者ニ就キ作業ノ成績ヲ檢査セシム可シ

第六十八條　仕上高ハ毎月末日ニ其月分ヲ積算シ一日ノ平均高ト一日ノ科程トヲ對照シ作業科程ノ了否ヲ定ム可シ

第六十九條　前條ニ依リ作業科程ノ了否ヲ定メタルトキハ作業賞與金ノ計算ヲ爲サス

第七十條　左ニ揭クル者ニハ作業賞與金ノ計算ヲ爲ス可シ

一　入監シタル翌月ヨリ五月ヲ經過セサルモノ

二　釋放ノ月ニ該ルモノ

三　行狀不良ニシテ作業成績劣等ナルモノ

就業日數十五日ニ滿タサル者ニハ作業賞與金ノ計算ヲ爲ササルコトヲ得

第七十一條　作業賞與金ハ行狀、性向、作業ノ種類、成績、科程ノ了否ヲ斟酌シ司法大臣ノ定ムル所ニ依リ計算ス可シ

第七十二條　監獄法第二十五條第四項ニ依リ作業ニ就キタル者ニハ前條ニ依リ計算シタル額ヲ增加スルコトヲ得

第七十三條　在監者惡意又ハ重過失ニ因リ器具、製品、素品其他ノ物ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其賠償ニ相當スル金額ヲ作業賞與金計算高ノ內ヨリ控除スルコトヲ得

第七十四條　就業者ニハ毎月十五日マテニ前月分ノ作業賞與金計算高ヲ告知ス可シ

第七十五條　作業賞與金ハ其計算高ヲ有スル者生計上必要ナキトキハ全部又ハ一部ヲ給與セサルコトヲ得

作業賞與金ハ釋放ノ際之ヲ給與ス

作業賞與金ヲ給與スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ條件ヲ指定スルコトヲ得

第七十六條　十圓以上ノ作業賞與金計算高ヲ有スル受刑者其父、母、妻若クハ子ノ扶助、犯罪被害者ニ對スル賠償又ハ書籍ノ購求其他必要アル場合ニ於テハ情狀ニ因リ在監中ト雖モ作業賞與金計算高ノ三分ノ一ヲ越エサル金額ヲ給スルコトヲ得

受刑者ノ爲メ特ニ必要アリト認ムル可キ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ラス之ニ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

第七十七條　作業賞與金計算高ヲ有スル刑事被告人其父、母、妻又ハ子ノ扶助其他正當ノ費用ヲ要スル場合ニ於テハ情狀ニ因リ在監中ト雖モ之ニ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

第七十八條　作業賞與金計算高ヲ有スル在監者逃走後六月內ニ其居所分明セサルトキハ其計算高ヲ抹消ス可シ

第七十九條　監獄法第二十一條及ヒ第二十八條ニ依ル手當金ハ司法大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ給與ス可シ

第六章　教誨及ヒ教育

第八十條　教誨ハ休業日又ハ日曜日ニ於テ之ヲ爲ス可シ

必要アリト認ムルトキハ典獄ハ休業日又ハ日曜日以外ノ日ニ於テモ教誨ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十一條　病監又ハ獨居監房ニ拘禁スル受刑者及ヒ刑事被告人ニハ其居所ニ就キ教誨ヲ爲ス可シ

第八十二條　受刑者父母ノ訃ニ接シ就業ヲ免セラレタルトキハ之ヲ獨居拘禁ニ付シ毎日教誨ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ本人ノ希望ニ因リ其亡父母ノ爲メ讀經ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十三條　恩赦、假出獄若クハ假出場ノ申渡ヲ爲シ又ハ賞表ヲ付與スルトキハ其式場ニ受刑者ノ全部又ハ一部ヲ集メテ教誨ヲ爲ス可シ

第八十四條　受刑者死亡シタルトキハ本人ト緣故アル受刑者ヲ集メ棺前ニ於テ教誨ヲ爲ス可シ

第八十五條　監獄法第三十條ニ依リ教育ヲ施ス受刑者ニハ毎日四時間以內小學程度ニ依リ修身、讀書、算術、習字其他必要ノ學科ヲ教授ス可シ

前項ノ受刑者ニシテ小學科程ヲ卒業シタルモノ又ハ之ト同等ノ學力アルモノニハ其教育ノ程度ニ應シ毎日二時間以內相當ノ補習學科ヲ教授ス可シ

第八十六條　文書圖畫ノ閲讀ハ監獄ノ紀律ニ害ナキモノニ限リ之ヲ許ス

新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記載スルモノハ其閲讀ヲ許サス

第八十七條　雜居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ同時ニ三箇以上ノ文書圖畫ヲ閲讀セシムルコトヲ得ス但字書ハ必要ニ因リ其册數ヲ增加スルコトヲ得

第八十八條　獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ情狀ニ因リ其監房內ニ於テ自辨ニ係ル筆墨紙ノ使用ヲ許スコトヲ得

第七章　給養

第八十九條　在監者ノ使用ニ供スル衣類臥具及ヒ雜具ノ品目ハ左ノ如シ

衣類

一　單衣

二　袷

三　綿入

四　襯衣

五　帶
六　褌
七　股引
婦女ニハ股引ニ代ヘ前掛ヲ用ヰシム

臥具
一　蒲團又ハ毛布
二　敷布
三　枕
四　蚊帳

雜具
一　手巾
二　雨具
三　冠物
四　履物
五　齒磨楊枝
股引又ハ前掛ハ作業ニ就ク者ニ限リ之ヲ交付ス
用紙及ヒ齒磨粉又ハ齒磨用食鹽ハ之ヲ給與ス
典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ雜具ノ品目ヲ增加スルコトヲ得

第九十條　在監者ノ使用ニ供スル衣類臥具及ヒ雜具ノ數ハ一人ニ付キ一箇トス但蚊帳ハ此限ニ在ラス
作業ニ就ク者ニハ別ニ作業衣一組ヲ交付ス

用紙及ヒ齒磨粉又ハ齒磨用食鹽ノ數量ハ典獄ニ於テ適宜之ヲ定ム
病者ノ使用ニ供スル衣類臥具及ヒ雜具ノ數ハ必要ニ因リ之ヲ增減スルコトヲ得
已ムコトヲ得サル事情アルトキハ典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ第一項及ヒ第二項ニ定メタル箇數ヲ增減スルコトヲ得

第九十一條　受刑者ニ著用セシムル衣類ハ赭色トス
左ニ掲クル衣類臥具ハ淺葱色トス
一　刑事被告人ニ貸與スル衣類
二　勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ貸與スル衣類
三　十八歲未滿ノ受刑者ニ著用セシムル衣類
四　處遇上必要アリト認メタル受刑者ニ著用セシムル衣類
五　蒲團

第九十二條　自辨ノ衣類臥具ハ時季ニ適シ且ツ監獄ノ紀律及ヒ衞生ニ害ナキ物ニ限ル
自辨ノ衣類臥具ノ品目及ヒ箇數ハ典獄之ヲ定ム

第九十三條　自辨ノ衣類臥具ハ時々之ヲ交換、補綴又ハ澣濯セシム可シ
監獄ニ於テ自辨ノ衣類臥具ヲ補綴又ハ澣濯シタルトキハ其費用ハ本人ノ負擔トス

第九十四條　在監者ニ給與スル糧食ノ種類及ヒ分量ハ左ノ如シ
一　飯　下白米十分ノ四　參十分ノ六　一人一回三合以下
二　菜　一人一回五錢以下
地方ノ狀況若クハ物價ノ高低ニ因リ又ハ在監者ノ健康保全ノ爲メ必要アルトキハ典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ糧食ノ種類ヲ變更スルコトヲ得
作業ノ種類ニ因リ必要アルトキハ典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ飯ノ分量ヲ增加スルコトヲ得

第九十五條　在監者ニ給與スル飲料ハ白湯ヲ用ウ但必要アルトキハ麥湯又ハ茶ヲ用ウルコトヲ得

第九十六條　在監者ニハ酒類又ハ煙草ヲ用ウルコトヲ許サス

第九十七條　病者ノ糧食及ヒ飲料ハ典獄ニ於テ適宜之ヲ定ムルコトヲ得

第九十八條　自辨糧食ノ種類及ヒ分量ハ典獄之ヲ定ム

第九十九條　自辨糧食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者不正ノ行爲アリト認ムルトキハ典獄ハ其者ノ出入ヲ禁止ス可シ

典獄ハ必要ニ因リ自辨糧食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者ヲ指名スルコトヲ得

第百條　自辨糧食ハ監獄官吏立會ノ上監獄醫其檢査ヲ爲ス可シ

第百一條　雜居拘禁ニ付セラレタル者ノ自辨糧食ハ成ル可ク一定ノ場所ニ於テ之ヲ用ヰシム可シ

第八章　衞生及ヒ醫療

第百二條　監獄ニ於テハ清潔ヲ旨トシ衣類臥具及ヒ雜具ハ期限ヲ定メ蒸汽其他適當ノ方法ヲ用ヰテ之ヲ清淨ナラシム可シ

第百三條　受刑者ノ頭髮ハ少クトモ一月毎ニ一回、鬚髯ハ少クトモ十日毎ニ一回之ヲ翦剃セシム可シ但特別ノ事情アル者ニ付テハ此限ニ在ラス

婦女ノ頭髮ハ必要アル場合ヲ除ク外之ヲ翦剃セシムルコトヲ得ス

第百四條　頭髮鬚髯ヲ翦剃セシメサル場合ニ於テハ常ニ之ヲ梳理セシム可シ

婦女ニハ膏油ノ使用ヲ許スコトヲ得

第百五條　在監者ノ入浴ノ度數ハ作業ノ種類及ヒ其他ノ事情ヲ斟酌シテ典獄之ヲ定ム但六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一回、十月ヨリ五月マテハ七日毎ニ一回ヲ下ルコトヲ得ス

第百六條　在監者ニハ雨天ノ外毎日三十分以内戶外ニ於テ運動ヲ爲サシム可シ但作業ノ種類ニ因リ運動ノ必要ナシト認ムル者ニ付テハ此限ニ在ラス

前項ノ運動時間ハ獨居拘禁ニ付セラレタル者ニ限リ一時間以内ニ伸長スルコトヲ得

受刑者ニハ戶外運動トシテ體操ヲ爲サシムルコトヲ得

第百七條　獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニシテ十八歲未滿ノモノハ少クトモ三十日毎ニ一回、其他ノモノハ少クトモ三月毎ニ一回、雜居拘禁ニ付セラレタル受刑者ニシテ刑期一年以上ノモノハ少クトモ六月毎ニ一回監獄醫ヲシテ健康診斷ヲ爲サシム可シ

第百八條　十八歲未滿ノ者ハ其他ノ者ト治療ノ時間及ヒ病監ニ於ケル居室ヲ異ニス可シ

第百九條　獨居拘禁ニ付セラレタル者疾病ニ罹リタルトキハ病監ニ移ス必要アル場合ヲ除ク外其監房ニ於テ治療セシメ病監ニ移シタルトキハ成ル可ク病監內ノ獨居監房ニ拘禁ス可シ

第百十條　傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防ヲ嚴ニシ流行地ヲ發シ又其地方ヲ經過シタル入監者ハ一週日以上他ノ者ト離隔シ其携帶物ニハ消毒方法ヲ行フ可シ

第百十一條　傳染病豫防ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ在監者ニ種痘又ハ血精注射ヲ施スコトヲ得

第百十二條　傳染病流行ノ際ニハ飲食物ノ差入及ヒ購求ヲ停止スルコトヲ得

第百十三條　在監者傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ嚴ニ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ監獄所在地ノ市區町村役場及ヒ警察官署ニ其事實ヲ通報ス可シ

第百十四條　監獄法第四十三條ニ依リ在監者ヲ病院ニ移送ス可キトキハ典獄ハ監獄醫ノ診斷書及ヒ移送ス可キ病院トノ協議書ヲ添ヘ司法大臣ノ認可ヲ受ク可シ

第百十五條　在監者ヲ病院ニ移送シタルトキハ典獄ハ監獄官吏ヲシテ毎日其狀況ヲ視察セシム可シ

第百十六條　病院ニ移送シタル者在院ノ必要ナキニ至リタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ還送セシメ司法大臣ニ其旨ヲ申報ス可シ

第百十七條　治療ノ爲ニ特ニ必要アリト認ムルトキハ典獄ハ監獄醫ニ非サル醫師ヲシテ治療ヲ補助セシムルコトヲ得

分娩ノ際必要アリト認ムルトキハ典獄ハ產婆ヲ付スルコトヲ得

第百十八條　在監者ノ疾病危篤ナルトキハ其旨ヲ本人ノ家族又ハ親族ニ通知シ刑事被告人ナルトキハ仍ホ檢事ニ通報ス可シ

第百十九條　産婦ハ受胎後七月以上ノ者産婦ハ分娩後一月ヲ經過セサル者ニ限リ之ヲ病者ニ準スルコトヲ得

第九章　接見及ヒ信書

第百二十條　十四歳未滿ノ者ニハ在監者ト接見ヲ爲スコトヲ許サス

第百二十一條　接見ノ時間ハ三十分以内トス但辯護人トノ接見ハ此限ニ在ラス

第百二十二條　接見ハ執務時間内ニ非サレハ之ヲ許サス

第百二十三條　接見ノ度數ハ拘留囚ニ付テハ十日毎ニ一回、禁錮囚ニ付テハ一月毎ニ一回懲役囚ニ付テハ二月毎ニ一回トス

第百二十四條　典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ前四條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百二十五條　在監者ニ接見センコトヲ請フ者アルトキハ其氏名、身分、職業、住所、年齢、在監者トノ續柄及ヒ面談ノ要旨ヲ聞取リ許可ヲ與ヘタル者ニハ接見者心得事項ヲ告知ス可シ

接見センコトヲ請フ者辯護人ナルトキハ其氏名、職業及ヒ住所ノミヲ聞取リ裁判所ノ允許ヲ得テ辯護人ト爲リタル者ニハ仍ホ其旨ヲ證明セシム可シ

第百二十六條　接見ハ接見室ニ於テ之ヲ爲サシム可シ

在監者疾病ノ爲メ接見室ニ赴クコト能ハサルトキハ其居所ニ於テ接見ヲ爲サシムルコトヲ得

第百二十七條　接見ニハ監獄官吏之ニ立會フ可シ

第百二十八條　外國語ハ典獄ノ許可アルニ非サレハ接見ノ際之ヲ使用スルコトヲ得ス

第百二十九條　受刑者ノ發受スル信書ノ數ハ拘留囚ニ付テハ十日毎ニ各一通、禁錮囚ニ付テハ一月毎ニ各一通、懲役囚ニ付テハ二月毎ニ各一通ヲ超ユルコトヲ得ス

典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百三十條　在監者ノ發受スル信書ハ典獄之ヲ開披シ檢印ヲ押捺ス可シ

發信ハ封緘ヲ爲サスシテ之ヲ典獄ニ差出サシメ受信ハ典獄之ヲ開披シ檢印ヲ押捺ス可シ

第百三十一條　外國文ヲ用ヰタル信書ハ檢閲ノ爲メ在監者ノ費用ヲ以テ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

在監者前項ノ費用ヲ負擔スル資力ナク又ハ其負擔ヲ肯セサルトキハ信書ノ發受ヲ許ササルコトヲ得

第百三十二條　受刑者ノ發送スル信書ハ急速ヲ要スル場合ヲ除ク外日曜日、休業日又ハ休憩時間内ニ非サレハ之ヲ作成セシムルコトヲ得ス

第百三十三條　在監者信書ヲ自書スルコト能ハサルトキハ本人ノ求ニ因リ監獄官吏之ヲ代書ス可シ

第百三十四條　在監者ノ發送スル信書ノ郵便税ハ自辯トス裁判所其他公務所ニ對シ返信ヲ要スル場合ニ於テ郵便税ヲ自辯スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ支辨ス可シ

第百三十五條　在監者ニ交付シタル信書及ヒ其他ノ文書ハ必要ニ因リ十日以内本人ノ手ニ留置セシムルコトヲ得

第百三十六條　信書ノ檢閲、發送及ヒ交付ノ手續ハ成ル可ク速ニ之ヲ爲ス可シ

第百三十七條　信書ノ發送、交付及ヒ廢棄ノ年月日ハ之ヲ本人ノ身分帳簿ニ記載ス可シ

第百三十八條　第百二十九條ニ定メタル度數ヲ超エタル信書ニシテ發信ニ係ルモノハ直ニ之ヲ本人ニ返付シ其受信ニ係ルモノハ假リニ身分帳簿ニ添附シ置キ次ノ期間ニ於テ順次之ヲ本人ニ交付スヘシ

監獄法第四十七條第一項ニ依リ發受ヲ許ササル信書ハ身分帳簿ニ添附シ置キ廢棄ス可キモノヲ除ク外釋放ノ際之ヲ本人ニ交付ス可シ

第百三十九條　接見ノ立會及ヒ信書ノ檢閲ノ際行刑上參考ト爲ル可キ事項ヲ發見シタルトキハ其要旨ヲ本人ノ身分帳簿ニ記載ス可シ

第十章　領置

第百四十條　領置物ハ其品目及ヒ數量ヲ領置金品基帳ニ記載シ領置品基帳ニハ典獄之ニ證印ス可シ

第百四十一條　金錢ニ非サル領置物ハ本人ノ請求ニ因リ之ヲ賣却シテ其代金ヲ領置スルコトヲ得

領置ヲ爲サス又ハ領置ヲ解キタル物ニ付キ本人相當ノ處分ヲ爲ササルトキハ請求ナキトキト雖モ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第百四十二條　在監者ニハ新聞紙、時事ノ論說ヲ記載シタル文書及ヒ監獄ノ紀律ヲ害ス可キ物ノ差入ヲ爲スコトヲ得ス

第百四十三條　受刑者ニハ法令其他典獄ニ於テ有益ト認ムル文書、筆墨紙、印紙、郵便切手、郵便葉書、金錢及ヒ司法大臣ニ於テ認可シタル物ヲ除ク外差入ヲ爲スコトヲ得ス自辨ヲ許シタル物ハ此限ニ在ラス

第百四十四條　刑事被告人ニハ前條ニ揭ケタル物ノ外衣類臥具、飲食物、手巾及ヒ履物ニ限リ差入ヲ爲スコトヲ得

第百四十五條　衣類臥具ノ差入ニ付テハ第九十二條、飲食物ノ差入ニ付テハ第九十八條ノ規定ヲ準用ス

第百四十六條　在監者ニ差入ヲ爲サンコトヲ請フ者アルトキハ其氏名、身分、職業及ヒ住所ヲ調査ス可シ

第百四十七條　在監者ニ宛テ送致シ來リタル物及ヒ差入ヲ爲シタル物ハ看守長立會ノ上看守之ヲ檢査ス可シ

飲食物ノ檢査ニハ監獄醫ヲシテ立會ハシム可シ

第百四十八條　自辨又ハ差入ヲ許シタル物ハ本人ニ交付セサルトキト雖モ携有物ノ例ニ依リ領置ノ手續ヲ爲ス可シ

第百四十九條　飲食物ニ付テハ領置ニ關スル規定ヲ適用セス

第百五十條　沒入又ハ廢棄ノ處分ヲ爲シタルトキハ沒入廢棄簿ニ品目、數量竝ニ處分ヲ爲シタル理由及ヒ年月日ヲ記載シ典獄之ニ證印ス可シ

第百五十一條　死亡者ノ遺留物ノ交付ヲ受ク可キ者遠地ニ在ルトキハ其ノ請求ニ因リ遺留物ヲ賣却シテ代金ヲ送付スルコトヲ得但遞送費ハ請求者ノ負擔トス

第十一章　賞罰

第百五十二條　賞遇ヲ爲ス可キ者ニハ賞表ヲ付與ス可シ

賞表ハ加ヘテ三箇ヲ超ユルコトヲ得ス

第百五十三條　賞表ハ曲尺長二寸幅一寸ノ白色ノ布ヲ用ヰ上衣ノ左袖肩臂間ノ表面ニ縫著セシム可シ

第百五十四條　賞遇ハ左ノ如シ

一　第百二十三條ニ定メタル接見ノ度數及ヒ第百二十九條ニ定メタル信書發受ノ度數ヲ一回宛增加スルコト

二　襯衣ノ自辨ヲ許スコト

三　作業ノ變更ヲ許スコト

四　第七十一條ニ依ル作業賞與金計算高ヲ賞表一箇每ニ十分ノ二宛增加スルコト

五　特別ノ糧食及飲料ヲ給與スルコト

第百五十五條　賞遇ヲ廢止セラレタル者ニハ賞表ヲ褫奪シ賞遇ヲ停止セラレタル者ニハ其期間賞表ヲ除去ス可シ

第百五十六條　在監者左ノ各號ニ該ル行爲アルトキハ五十錢以下ノ賞金ヲ給スルコトヲ得

一　在監者ノ逃走セントスルヲ密告シタルトキ

二　人命ヲ救護シ又ハ在監者ノ逃走セシトスル者ヲ捕拿シタルトキ

三　天災事變又ハ傳染病流行ノ際監獄ノ用務ニ服シ功勞アリタルトキ

第百五十七條　減食ハ本人ニ給與スル糧食ノ一回ノ分量ヲ二分ノ一乃至三分ノ一ニ減ス

第百五十八條　懲罰事犯ニ付キ取調中ノ者ハ之ヲ獨居禁ニ付シ又ハ夜間獨居監房ニ拘禁ス可シ

第百五十九條　懲罰ノ言渡ハ典獄之ヲ爲ス可シ

第百六十條　懲罰ハ言渡ノ後直ニ之ヲ執行ス可シ

戸外運動ノ停止、減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者ニ付テハ監獄醫ヲシテ本人ヲ診斷セシメ其健康ニ害ナシト認メタルトキニ非サレハ懲罰ヲ執行スルコトヲ得ス

第百六十一條　減食又ハ屏禁ノ執行中ニ在ル者ハ監獄醫ナシテ時時其健康ヲ診斷セシム可シ

第百六十二條　減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者裁判所ノ呼出ニ因リ出頭スルトキハ當日ニ限リ懲罰ノ執行ヲ停止ス可シ

前項ニ揭ケタル者ヲ移監ノ爲メ他所ニ護送スルトキハ護送ノ前日、其當日及ヒ護送中懲罰ノ執行ヲ停止ス可シ

停止ノ日數ハ之ヲ處罰期間ニ算入セス

第百六十三條　戶外運動ノ停止、減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者ハ懲罰ノ執行ヲ終リタル後速ニ監獄醫ナシヲ其健康ヲ診斷セシム可シ

第百六十四條　懲罰ニ處セラレタル者ヲ移監ニ因リ受領シタル監獄ノ典獄ハ收監後三日以內ニ懲罰ノ執行ヲ開始ス可シ

收監後執行開始ニ至ル迄ノ日數ハ之ヲ處罰期間ニ算入セス

第百六十五條　在監者護送ノ途中ニ於テ紀律違反ノ行爲アリタルトキハ本人ヲ受領シタル監獄ノ典獄ニ於テ之ヲ懲罰ニ處スルコトヲ得

第百六十五條　在監者ノ賞罰ニ關スル事項ハ身分帳簿及ヒ懲罰簿ニ記載ス可シ

第十二章　釋放

第百六十七條　刑期ノ終了ニ因リ釋放セラル可キ受刑者ハ釋放前三日以內獨居拘禁ニ付シ典獄自ラ釋放後ノ心得ニ付キ諭告ヲ爲ス可シ

第百六十八條　刑期ノ終了ニ因リ釋放セラル可キ受刑者ニ付テハ釋放ノ十日前迄ニ釋放後ノ保護ニ關スル事項ヲ調査ス可シ

第百六十九條　典獄ニ於テ必要アリト認メタルトキハ釋放セラル可キ者ノ性格及ヒ行狀竝ニ保護ニ關スル意見ヲ本人居住地ノ警察官署、市區町村役場又ハ本人ノ保護ヲ引受ク可キ者ニ通報ス可シ

第百七十條　釋放セラル可キ者ノ領置物及ヒ作業賞與金ハ豫メ交付ノ準備ヲ爲シ置ク可シ

第百七十一條　釋放ノ際著用ス可キ衣類ヲ有セサル者ニハ豫メ本人ノ領置金若ハ作業賞與金又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ調達セシメ若シ調達スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ給與ス可シ

第百七十二條　受刑者ヲ釋放シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ典獄ハ監獄官吏ヲシテ停車場又ハ乘船所迄同行セシメ本人ニ代リ其歸住地又ハ歸住地ニ最近ノ場所ニ至ル迄ノ乘車券又ハ乘船切符ヲ購求シ之ヲ本人ニ交付セシム可シ

第百七十三條　受刑者ニ付假出獄ヲ許ス可キ事情アリト認ムルトキハ典獄ハ判決書及ヒ執行指揮書ノ謄本竝ニ行狀錄及ヒ身上調査書類ヲ添ヘ司法大臣ニ具申ス可シ

受刑者軍法會議ニ於テ處斷セラレタルモノナルトキハ前項ノ具申ハ司法大臣及ヒ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ之ヲ爲ス可シ

第百七十四條　假出獄ニ因リ釋放ス可キ場合ニ於テハ一定ノ式ニ依リ典獄釋放ノ申渡ヲ爲シ本人ニ證票ヲ交付ス可シ

第百七十五條　假出獄ニ因リ釋放セラレタル者刑法第二十九條第一號乃至第三號ニ該ルコトヲ知リタルトキハ典獄ハ速ニ意見ヲ具シ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第百七十六條　第百七十三條及ヒ第百七十四條ノ規定ハ刑法第三十條ニ依ル假出場ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三章　死亡

第百七十七條　在監者死亡シタルトキハ典獄ハ其死體ヲ檢視ス可シ

病死ノ場合ニ於テハ監獄醫ハ其病名、病歷、死因及ヒ死亡ノ年月日時ヲ死亡帳ニ記載シ之ニ署名ス可シ

自殺其他變死ノ場合ニ於テハ其旨ヲ警察官署ニ通報シテ檢規ヲ受ケ檢視者及ヒ立會者ノ官氏名竝ニ檢視ノ結果ヲ死亡帳ニ記載ス可シ

第百七十八條　死亡者ノ病名、死因及ヒ死亡ノ年月日時ハ速ニ之ヲ死亡者ノ家族又ハ親族ニ通報ス可シ死亡者刑事被告人ナルトキハ仍ホ檢事ニ通報ス可シ

第百七十九條　受刑者ノ死體ハ死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ニ限リ解剖ノ爲メ司法大臣ニ於テ指定シタル病院、學校又ハ公務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得

死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ト雖モ其後ニ至リ交付ヲ請フ者アリト思料ス可キトキ又ハ本人カ生前ニ

於テ解剖ヲ肯セサル意思ヲ表示シタルトキハ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第百八十條　死體ヲ請求者ニ交付シ又ハ解剖ノ爲メ送付シタルトキハ其旨ヲ死亡帳ニ記載スヘシ

第百八十一條　死亡後二十四時間ヲ經テ死體ノ交付ヲ請フ者ナキトキハ第百七十九條ノ場合ヲ除ク外之ヲ監獄ノ墓地ニ假葬ス可シ

火葬ニ付シタル場合ニ於テハ其遺骨ニ付キ亦同シ

假葬ノ場所ニハ死亡者ノ氏名及ヒ死亡ノ年月日ヲ記シタル木標ヲ立ツ可シ

第百八十二條　死體又ハ遺骨ヲ合葬シタルトキハ合葬者ノ氏名及ヒ死亡ノ年月日ヲ合葬簿ニ記載シ合葬ノ場所ニハ墓標ヲ立ツ可シ

墓標ニハ石ヲ用ウ可シ

附　則

本則ハ監獄法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

監獄則施行細則ハ之ヲ廢止ス但懲治人ニ關スル規定ハ當分ノ内仍ホ其效力ヲ有ス

●罪囚名籍原簿其他諸帳簿調製ノ件（明治二十七年三月警發第一二六號）

客年十二月二十五日内務省訓令第二十九號ヲ以テ名籍原簿其他諸帳簿ノ規定相成候處該名籍原簿ハ監獄支署ノ設ケナキ區裁判所在地ノ警察官ニ於テモ亦之ヲ調整スヘキモノニ有之候條此段及通達候也

追テ別紙名籍原簿記載例調製及取扱心得樣式共相添及送付候也

記載例

名籍原簿

一　收監番號ハ一年毎ニ改メ干支ヲ冠シテ年所ヲ區別スヘシ

二　本籍ハ府縣郡市町村ヲ記スヘシ

三　最終居住地ハ府縣郡市町村番地ヲ記スヘシ若シ同居寄留ノ者ハ某方ト記スヘシ

四　出生地本籍記載方ニ同シ

五　出生別ハ公生私生ノ別ヲ記スヘシ若シ棄兒ニシテ其別ノ不明ナルモノハ私生トシテ記入スヘシ

六　婚姻ハ未婚既婚ノ別、既婚者ナレハ配偶者ノ名配偶者死亡シ又ハ離別シタルトキハ其旨ヲ記スヘシ

七　子孫ハ男女ノ別竝ニ其人員ヲ揭クヘシ但養子女、繼子女ナルトキハ其旨ヲ記スヘシ

八　兩親其他親屬ハ兩親ノ姓名、存亡、兄弟姉妹ノ員數存亡、若シ養父母繼父母ナレハ其旨ヲ記スヘシ

九　財産ハ資産アリ、稍資産アリ、資産ナシ、赤貧、ノ四種ニ區別シ資産アルトハ中等以上ノ生活ヲ爲シ得ルニ足ルヘキ動産不動産又ハ其一ヲ有スル者、資産ナシトハ動産不動産ノ幾部ヲ有スルモ生計ノ資ニ足ラス下等ノ生活ヲ爲スモノヲ云フ赤貧トハ全ク動産不動産ヲ有セサルモノヲ云フ

十　兵役ハ其ノ從事ノ有無若シ後備豫備中ノ者ナルトキハ其旨ヲ設スヘシ

十一　教育ハ教育アリ、稍教育アリ、教育ナシ、ノ三種ニ分チ教育アリトハ學校其他ニ於テ教育ヲ受ケ文字ヲ解シ得ル者稍教育アリトハ學校其他ニ於テ教育ヲ受ケ普通ノ文字ヲ解シ得ル者教育ナシトハ文字ヲ解セス又ハ書キ得サル者ヲ云フ

十二　宗教ハ宗派ヲ揭クヘシ

十三　人相中體格ハ肥、中肉、瘠ノ三種ニ分チ其別ヲ記スヘシ

文身ハ其形狀及場所ヲ記スヘシ

異徵ハ天黥、創瘢等其種類、形狀及場所ヲ記スヘシ

十四　被告事件ハ令狀ニ揭ケタル事件ヲ記スヘシ

共犯ハ其人員ヲ記スヘシ

十五　主刑ハ刑名刑期、附加刑ハ監視罰金ノ期限及金額ヲ記スヘシ若シ數刑ヲ有スルモノナルトキハ重キ刑ヨリ順次掲記スヘシ

十六　罪名ハ前項ニ依リ主刑ニ該當スル罪名ヲ掲クヘシ

十七　裁判所ハ宣告裁判所名ヲ掲クヘシ若シ數刑ヲ有スルモノナルトキハ重キ刑ヨリ順次ニ各其宣告裁判所名ヲ掲クヘシ

十八　宣告年月日ハ若シ數刑ヲ有スルモノナルトキハ重キ刑ヨリ順次ニ各其宣告シタル年月日ヲ記スヘシ

十九　交付官署ハ囚人ニシテ他ノ監房ヨリ送付ヲ受タルトキニ限リ其監獄名ヲ記スヘシ

二十　前科ハ刑名、刑期、宣告、年月日及執行監獄名ヲ記スヘシ若シ數刑ナルトキハ其最近ノモノニ付キ宣告年月日及執行監獄名ヲ記シ其他ノ前科ニ付テハ刑名刑期ノミヲ記スヘシ

二十一　拘置ノ日ヲ記載スヘシ

拘置日數中、始ハ拘置シタル初日ヲ掲クヘシ若シ他監獄又ハ警察留置所ニ於テ拘置シタル者アルトキハ其最初滯獄ハ他監獄又ハ警察留置所ニ於テ拘置セラレタルモノナルトキハ他監本監ノ二種ニ分チ他監ニ於テ拘置セラレタル日數ハ朱書シ本監ノ分ニ墨書スヘシ終ハ他監ヘ移シタルモノニ付テハ其送付日ヲ以テ最終日トスヘシ

二十二　刑期中ノ滿期ハ數刑ヲ有スルモノニ付テハ其最終ノ滿期日ヲ記スヘシ

二十三　出監及終結事由年月日ハ滿期放免特典放免假出獄他監移送逃走死亡免訴又ハ無罪釋放等ニテ終結及別房留置ノ出房事由年月日ヲ記スヘシ但同一監獄中ニテ拘置監ヨリ囚人監ニ移ル場合ハ記載スルニ及ハス

二十四　出監後居住地ハ最終居住地記載例ニ同シ

二十五　職業ハ現職名若シ特殊ノ技能ヲ有スルモノハ其業名ヲモ記スヘシ

二十六　氏名ハ現氏名、藝名、綽名ヲ墨書スヘシ若シ舊氏名、舊藝名、舊綽名アル者ハ之ヲ朱書スヘシ

二十七　備考ハ上訴、保釋、責付、特赦、換刑及假出獄又ハ假出場ノ停止其他他ヨリ交付若クハ他ヘ送付等一身上ノ異動ニ關スル事由年月日ヲ記スヘシ若シ乳兒ヲ携帶スル者アルトキハ其氏名生年月日入監後數罪俱發、餘罪發覺又ハ犯罪等ニ依リ刑ニ異動ヲ生シタルトキハ其宣告年月日、刑名刑期、滿期ノ月日執行ノ順序等ヲ詳記スヘシ又身分ニ關スル書類等ヲ他ノ官署ニ送致シタルトキハ其旨ヲ記シ其他參考トナルヘキ事柄ハ成ルヘク掲載スヘシ

調製及取扱心得

名籍原簿

一　永久保存スヘキモノナレハ堅牢ナル帳簿ヲ用ユヘシ

二　男女ノ各冊ト爲シ收監及出監番號モ又各別ニ付スルモノトス

三　收監番號ヲ以テ直チニ稱呼番號トナスモ妨ナシ

名籍原簿雛形用紙

收監番號	刑	干支　第　號	干支　第　號	ク
	囚	干支　第　號	干支　第　號	ク
	懲	干支　第　號	干支　第　號	ク
	別	干支　第　號	干支　第　號	ク
年月日監入	拘置	明治　年　月　日	明治　年　月　日	ク
	囚人	明治　年　月　日	明治　年　月　日	ク
	懲治	明治　年　月　日	明治　年　月　日	ク
	別房	明治　年　月　日	明治　年　月　日	ク
本籍				
最終居住地				
出生地				
出生別				
婚姻				
子孫				
兩親其他親屬				
財産				
兵役				
教育				
宗教				
人相	丈體及格	尺　寸　分	尺　寸　分	ク
	髪眉及髭鬚	髪　眉　髭　鬚	髪　眉　髭　鬚	ク
	額腮及齒	額　腮　齒	額　腮　齒	ク
	眼鼻口耳	眼　鼻　口　耳	眼　鼻　口　耳	ク
	面色容貌	面　色　容　貌	面　色　容　貌	ク
	痣			
	文身			
	異徴			
被告事件及共犯				
主刑附加刑及懲治期				
罪名犯數				
裁判所				
宣告年月日				
交付官署				
前科				
拘置數日	始	明治　年　月　日	明治　年　月　日	ク
	滯獄			
	終	明治　年　月　日	明治　年　月　日	ク
刑期	起算	明治　年　月　日	明治　年　月　日	ク
	期滿	明治　年　月　日	明治　年　月　日	ク
懲治期	起算	明治　年　月　日	明治　年　月　日	ク
	期滿	明治　年　月　日	明治　年　月　日	ク
留置期	始	明治　年　月　日	明治　年　月　日	ク
	終	明治　年　月　日	明治　年　月　日	ク
出監及終結事由年月日				
出監後居住地				
身分職業				
生年月日				
氏名				
備考				

明治二十六年(十二月)内務省訓令第二十九號ヲ以テ規定セラレタル名籍原簿記載例ハ明治二十七年三月警發第一二六號ヲ以テ及通達置候處該記載例中左記ノ通改正記入候樣其ノ筋ヨリ通牒有之候條此旨通達候也

(明治三十二年一月十八日　通達保第二六六號)

名籍原簿記載例

一　生年月日ノ欄ニハ年齡何歲ト朱書附記スヘシ

一　出生別ノ欄ニハ公生私生ヲ別チ尙公生ノ內嫡出庶子ヲ區別シテ記入シ又其別ノ不明ナルモノハ不詳トシテ記入シ棄兒ナルトキハ其旨ヲ揭クヘシ生育モ亦實父母ノ手ニテ、實繼父母ノ手ニテ、養父母又ハ繼父母ノ手ニテ、親屬ノ手ニテ、他人ノ手ニテ、救育所等ニテトニ別チ本欄ニ附記スヘシ

一　教育ハ中學卒業以上及之ト同等ノ教育アル者、小學全科卒業及之ト同等ノ教育アル者、文字ノ讀ミ書キヲ爲シ得ル者、全ク無學ノ者ニ別チテ記入スヘシ

●精神病者タル在監人放免ニ關スル取扱手續

(明治三十四年六月三日　內務省訓令第七號)

(廳府縣　東京府ヲ除ク　ク　集治監)

精神病者タル在監人放免ニ關スル取扱手續左ノ通心得ヘシ

監置ノ必要アル精神病者タル在監人ニ關シテハ監獄ノ首長ハ其ノ放免前相當ノ時期ニ於テ監護義務者ニ通知シ監護義務者ナキカ又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行スルコト能ハサル事由アルトキハ精神病者住所地(住所地ナキカ若クハ不明ナルトキハ監獄所在地)ノ市區町村長ニ通知シ之ヲ引取ラシムルノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ手續ヲ爲スモ放免ノ際現ニ之ヲ引取ル者ナキ場合ニ於テハ監獄ノ首長ハ其ノ所在ノ警察官署ニ通知シ之ヲ引渡シ警察官署ハ監護義務者又ハ市區町村長等ニ之ヲ引取ラシムルノ手續ヲ爲スヘシ

監獄ノ首長前各項ノ通知ヲ爲ストキハ醫師ノ診斷書其ノ他必要ナル書類ヲ添付スヘシ

●囚人身分帳ニ對スル注意方

（明治二十九年九月十八日指示第三一號）

本年（八月）内務省訓令第七號ヲ以テ囚人身分帳樣式改正ニ付監獄署ヨリ身上票取調方ノ照會アリタルトキ戸籍登錄ノ事項ハ兵役、前科等ハ一應市役所又ハ町村役場ニ就テ正確ナル取調ヲ爲シタル上回答スヘシ

●乳兒携帶入監者ノ件

（明治三十二年七月二十五日保第二七二七號保安課長通牒）

今般勅令第三百四十四號ヲ以テ監獄則中改正相成其第七條ニ於テ携帶乳兒ハ滿一歲迄之ヲ許スコトヲ得ト改正サレタル趣旨ハ單ニ年齡ノ短縮ニ止マラス万止ムヲ得サル者ニ限リ携帶ヲ許スコトヲ得ルノ途ヲ存セラレタルモノト思料セラレ候付テハ當初引致シタル警察官署ニ於テハ右ノ趣旨ヲ以テ苟モ親戚アリテ一家ヲ有スル者ノ如キハ可成携帶セシメサル樣御取扱相成度經伺ノ上此旨爲念及通牒候也

●在監人ヨリ被告事件ニ付證明願出タルトキノ取扱方

（明治二十四年四月二十九日指示）

明治二十四年四月二十七日古川警察署長ヨリ申請

拘留讞審中ノ刑事被告人ヨリ該事件ニ關スル或ル事實ヲ證明ノ爲メ取調方ヲ在監先ヨリ直接警察署ヘ宛テ往復はがきヲ以テ照會越スモノアリ右ハ掛リ判事ニ於テモ許用セシモノトハ被考候得共如斯ハ其時々取調ヘ回答スヘキ義務アルモノトシテ取扱可然哉

（警察部指示）明治二十四年四月二十九日

回答ノ義務ナキモノト心得ラルヘシ（明治二十四年五月二十三日正誤）

●在監人逃走ノ場合ニ於ケル報告方

（明治三十四年一月二十五日監獄局長通牒司法省監甲第三二號）

在監人逃走ノ場合ニ就テハ明治二十七年六月内務省訓第四四九號同年八月監獄發第五二號ニ依リ報告可相成之處警察署ヨリ逃走シタルモノノ如キハ報告洩モ有之哉ニ被存候爾來無漏御報告相成樣致度此段及通牒候也

●拘留囚移監通知方ノ件

（明治四十年五月二日通達警第五一七二號）

爾今（違警）罪犯人拘留中餘罪發覺シ犯罪事件ヲ身柄ト共ニ所轄檢事ヘ送致スル場合ハ明治三十八年七月本縣訓第七十一號ノ拘留名籍簿用紙ニ各項記入移監ノ通知書ニ添付被告人ト共ニ檢事局所在地ノ監獄（其アラサル地ハ其地ノ警察官署）ニ通知セラルヘシ追テ移監通知書ハ封筒表面宛名ノ左傍ニ移監通知書ト朱書シ執務時間中ハ檢事局ニ退廳後ハ監獄其アラサル地ハ其地ノ警察官署ニ被告人ト共ニ引渡サルヘシ

●刑死者及死亡者遺骸解剖ニ關スル件

（明治十八年七月二十一日内務省達甲第二十五號）

（監獄則）ニ揭クル所ノ刑死者及死亡者ニシテ親屬故爲其遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキトキハ官公立醫學校若クハ病院ニ於テ該遺骸ヲ解剖實驗ノ用ニ供スルヲ得此旨相達候事但屍體解剖ノ後ハ縫理シテ原體ニ復シ不都合無之樣取計ハシムヘシ

●留置人取扱規程

（明治三十四年四月三十日）
（指示第二三號）

沿革　大正七年指示警第七號改正

第一章　通則

第一條　新ニ留置スル者アルトキハ令狀宣告書執行指揮書其ノ他法定ノ文書ヲ査閲シタル後通身檢査ヲ爲シ第一樣式ノ留置人名簿ニ登錄スヘシ

第二條　留置人ノ所持金品ハ取扱巡査ヲ定メ本人ノ面前ニ於テ精査シ留置人名簿ニ記入シ署名捺印セシムヘシ若シ自署スルコト能ハサルモノハ取扱巡査ヲシテ代書セシメ其旨ヲ附記セシムヘシ

第三條　前條ノ金品ヲ領置シタルトキハ直ニ保管主務巡査ニ引繼カシメ其主務巡査ヲシテ留置人名簿ニ受領ノ證印ヲ爲サシムヘシ

第四條　留置中外人ヨリ差入タル貨物ニシテ領置スルモノハ前二條ノ例ニ依ルヘシ

第五條　領置金品ヲ下附シタルトキハ受領證ヲ收受スヘシ

第六條　留置人ハ男女ハ勿論刑事被告人ニ囚人及逃傳人ヲ分割シ尙刑事被告人ノ共犯者ハ嚴ニ別異スヘシ

第七條　換刑又ハ拘留刑ニ處セラレタル者ハ其放免期日ヲ本人ニ告知シ尙其氏名放免月日時等ヲ見易キ場所ニ掲示シ置クヘシ

第八條　留置人ニ書信接見及貨物ノ差入又ハ下付ヲ請フモノアルトキハ其書信貨物ハ之ヲ精檢シ接見ニ就テハ其事由ヲ調査許否スヘシ

第九條　留置人ノ食物ハ檢査ノ上看守巡査ヲシテ交付セシムヘシ

第十條　留置場ノ鎖鑰及戒具ハ一定ノ場所ニ集メ保管スヘシ

第二章　戒護

第十一條　留置人ノ戒護ハ擔當巡査ヲ定メ又ハ署當直及內勤特務刑事巡査ヲ以テ之ニ充テ三十分乃至一時毎間ニ留置場ノ周圍及留置人ノ動作ヲ視察セシムヘシ但特ニ注意ヲ要スルモノハ本條ノ時間ニ拘ラス嚴ニ視察セシムヘシ

第十二條　看守巡査ハ左ノ事項ニ從ヒ留置人ノ出入房內ノ取締ヲ爲シ若シ異狀アルトキハ直ニ署長ニ報告スヘシ

一　留置人ヲ房外ニ出ストキハ特ニ看守ヲ嚴ニシテ戒具ヲ施スヘシ

二　夜間止ヲ得サル場合ニ於テ場外ニ出ストキハ詰合巡査ノ立會ヲ要ス

三　第六號ノ分割ニ注意シ談話通聲ヲ嚴禁スヘシ

第十三條　看守巡査交代ノ際ニハ氏名點呼ノ上引繼ヲ爲シ鎖鑰ノ檢査ヲ爲スヘシ

第十四條　留置場內ハ留置人ヲシテ淸潔ニ掃除セシメ臥具ハ每朝場外ニ出シ且ツ時々日光ニ曝スヘシ

第十五條　署長ハ時々房ノ內外ヲ精査スルノ外看守巡査ヲシテ一週一回以上房內ヲ檢査セシムヘシ

第十六條　看守巡査ハ水火風震等非常ノ災害アルトキハ速ニ避難ノ準備ヲナシ署長ノ指揮ヲ待ツニヘシ但事急遽ニ出テ指揮ヲ待ツ遑ナキトキハ直ニ避難ノ處置ヲ爲スコトヲ得

第三章　疾病

第十七條　留置人疾病ニ罹リタルトキハ看守巡査ハ直ニ署長ニ報告スヘシ

第十八條　留置人ノ病症危篤ナルトキハ直ニ親屬ニ通知スヘシ

第十九條　留置人傳染性ノ疾病ニ罹リタルトキハ他ノ留置人ト隔離シ其消毒ヲ嚴ニスヘシ但病症ニヨリ必要ト認メタルトキハ厠圊其他患者ノ使用若ハ接觸シタル器具ノ消毒ヲ爲スヘシ

第四章　死亡逃走

第二十條　留置人死亡シタルトキハ其種別ニ依リ監獄則第三十七條同施行細則第七十三條及囚人刑事被告人押送規則第八條同細則第十一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條　留置人逃走シタルトキハ瞬速逮捕ノ手配ヲ爲シ且ツ理由ヲ警部長ニ報告スヘシ但押送中ニ係ルトキハ囚人及

刑事被告人押送細則第十二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第一樣式　用紙半紙

第　號

留置出監			
署長決裁	取扱者	署長決裁	取扱者

留置事由	留置日時	出監日時
	月　日　午　時　分	月　日　午　時　分

警戒事項	賄		
	朝	晝	夕
	初日		
	二日		
	三日		
	四日		
	五日		
	六日		
	七日		
	八日		
	九日		
	十日		

留置人族籍所	住業	職名	氏號	年齡	綽號

人相着衣			
丈	目	鼻	口	齒	眉
肉	面	色	聲	特徵	弊

保管取扱者	領置金品	度數 朝	晝	夕	度數 朝	晝	夕
		二十一日			十一日		
		二十二日			十二日		
		二十三日			十三日		
		二十四日			十四日		
		二十五日			十五日		
		二十六日			十六日		
		二十七日			十七日		
		二十八日			十八日		
		二十九日			十九日		
		三十日			二十日		

●典獄留置場巡視ノ件

（明治三十六年四月司法省訓令第二號）

沿革　明治三七年六月司訓第四號、三八年三月第二號、大正一一年一〇月第五號、一二年三月第三號改正
刑務所豐多摩、三池刑務所及少年刑務所ヲ除ク

刑務所長ハ其刑務所所在廳府縣ノ留置場ヲ巡視シ其狀況ヲ報告スヘシ

●留置場設備標準

（明治三十二年八月内務大臣訓第七六一號）

警察署附屬留置場ノ設備ハ大體左ノ標準ヲ參酌シ漸次改良ノ計畫ヲ立テラルヘシ

一　留置場ハ警察署ニ在テハ三房以上ヲ設備スヘシ

二　留置場ノ位置ハ警察署構内ニシテ隣地ヨリノ交通及觀望ヲ遮斷シ且事務所尋問所小使部屋人民控所等ニ於ケル普通ノ音聲ヲ聽受ル能ハサラシムヘキ位置構造ヲ撰ムヲ要ス

三　女ハ男ト嚴重別異シ幼年者ト成年者トハ可成別異シ得ルノ設備アルヲ要ス

四　留置場ノ前面ナル廊下ノ幅ハ六尺以上タルヲ要ス

五　留置場ハ可成南位ニ向ハシムルヲ要ス

六　留置場ノ分房ハ三疊以上トシ雜居房ヲ設クルトキハ四疊半以上八疊以下トス

七　留置場ノ地盤ハ石疊又ハ漆喰敲ヲ以テ地平面ヨリ高ク築造シ其他盤面ト床トノ間ニハ凡ソ五寸以上一尺以下ノ空處ヲ置キ空氣ノ流通ヲ良クスヘキ裝置ヲ爲スヘシ

八　留置場ノ天井ハ床上ヨリ一丈以上トシ内面ハ柱ヲ露ハサス板壁ハペンキ塗トシ床ハ板張ト爲スヘシ

九　留置場ノ境壁ハ通聲ヲ防遏スルノ構造ト爲スヘシ

十　留置場ノ房戸ハ高サ五尺乃至六尺幅凡二尺五寸ノ外開キ戸ニシテ錠ヲ付スヘシ

十一　留置場ノ鍵ハ各房共通シ得ルモノナルヲ要ス

十二　留置場ニハ床ヨリ六尺以上ニ於テ窓ヲ設クヘシ

十三　前項ノ窓ハ縱及横ノ鐵棒格子トシ鐵棒相互ノ間ハ三寸五分以下トシ格子ノ外部ニハ開閉自在ノ硝子障子ヲ付スヘシ其硝子ハ不透明ノモノトス

十四　空氣孔ハ適當ノ位置ニ設ケ常ニ空氣ヲ流通交換セシムルヲ要ス

十五　留置場ノ視察孔ハ漏斗形ニシテ孔蓋ハ回轉自在ノ圓板ヲ付シ又ハ開キ戸ヲ爲シ分房ハ一箇雜居房ハ二箇ハ設ケ房内全部ヲ觀望シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ

十六　留置場房外側面ノ壁ニハ幅一尺以内ノ腰掛ヲ取付スヘシ

十七　危險ノ虞ナキ裝置ヲ以テ房内ヲ照スヘキ點燈器ヲ備フルヲ要ス

十八　留置場ニハ便所ヲ設ケス別ニ便器ヲ用ユヘキモノトス

十九　便器ハ金屬若クハ磁製等不淨物ヲ吸收セサル物質ナルヲ要ス

二十　極寒ノ季節必要ナルトキハ暖房ノ設備ヲ爲シ又ハ湯タンポノ類ヲ用ユヘシ

二十一　必要ノ地ニ於テハ留置場ノ外泥醉者其他一時ノ保護ヲ要スヘキモノノ爲ニ成ルヘク別室ヲ設クヘシ

●拘留名籍簿設備ノ件

（明治三十八年七月四日岐阜縣訓第七一號）

本年六月司法省訓令第三號ヲ以テ拘留名簿設定ノ件監獄ニ訓令相成候ニ付テハ其署ニ於テモ別紙樣式ノ名籍簿ヲ備ヘ整理スヘシ

（用紙美濃半片定刻）

收監番號	入監年月日	明治年月日修結

署長	巡査部長	取扱巡査	符號番號
㊞	㊞	㊞	

犯罪地	最終居住地	罪名犯數刑期	宣告年月日及宣告廳	相貌	父母妻子又ハ兄弟姉妹ノ存亡	本籍	職業	備考
		罪拘留日三犯	明治年月日	身長	妻某存	府郡市町村	屋外窃盗	
		前科	何警察署	瘢痕	長男某存	縣	賭博重禁錮一月十五日	
		刑期起算及滿期日	起算明治年月日	刺文	次男某存	職業	重禁錮二月	
		滿期明治年月日		異徴	兄某存	氏名年齢	罰金五圓	
				體量	弟某存	何某		
						明治年月日生		
					健康ノ狀態			

一　犯罪地ハ府縣郡市町村（屋内ヲ犯罪ハ何某方）ヲ記載スルモノトス

一　收監番號ハ拘留囚人ノ入監ノ順序ニ依リ記入スルモノトス

一　終結ハ滿期放免押送死亡逃走等ノ事故ニ依リ監獄ノ主管ヲ離レタル日ヲ記載スルモノトス

一　備考ハ押送、死亡、逃走其他正式裁判ニ係ルモノ若クハ科料換刑ニ係ルモノハ科料額其他ノ事項ヲ記入スルモノトス

一　符合番號トアルハ違警罪即決言渡書ノ進行番號ヲ記入スルモノトス

●警察署留置場ニ關スル件

（明治四十一年十月二日　保管六一六號通牒）

別紙ノ通リ司法省監獄局長ヨリ同答及通牒有之候趣ヲ以テ警保局長ヨリ通牒相成候條依命及通牒候也

（別紙）

司法省監丙第一〇七八號

九月十二日附警甲第二五號並ニ二十二日附司乙第二五〇號ヲ以テ御照會ノ趣了承懲役囚禁錮囚並ニ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ハ何レモ原則トシテ監獄ニ拘禁シ若ハ留置スヘキコト勿論ノ儀ニ候ヘ共已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ一時警察官署附屬ノ留置場ヘ拘禁シ若ハ留置スル豫定ニ有之候殊ニ勞役場留置ノ言渡ヲ受タケル者ニ付テハ亟ニ合議ニ及ヒ候通護送ノ途中留置期限終了スヘキ場合ノ如キ又ハ移監後日ナラス滿期ニ至ル場合ノ如キハ警察官署附屬ノ留置場ニ留置スルヲ相當ト思考致候尤警察官署附屬ノ留置場ニ懲役囚又ハ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ拘禁若ハ留置スルニ於テハ實際作業ヲ課スルコト能ハサル場合多々可有之候ヘ共斯ル場合ニ於テ作業ヲ課セサルハ事實上已ムコトヲ得サルモノト謂フノ外ナカルヘシト思考致候次ニ警察官署附屬ノ留置場ニ於テ作業ヲ課シタル場合ノ縣費ハ固ヨリ國費ニ屬スヘク又勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ノ留置ニ關スル費用ハ明治三十五年法律第十一號同年司法省令第四號ニ依リ支辨スル筈ニ有之候此段及回答候也

明治四十一年九月二十八日　　司法省監獄局長　小山温

内務省警保局長有松英義殿

司法省監甲第六八五號

新刑法ニ依リ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ハ明治三十年勅令第四百十五號囚人及刑事被告人押送規則ニ所謂囚人ニ該當スヘク從テ新法施行後勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ押送スル場合ハ都テ右勅令ノ規定ニ依ルヘキモノト思考致候條爲念此段及御通牒候也

明治四十一年九月三十日　　司法省監獄局長　小山温

内務省警保局長有松英義殿

●警察官署附屬ノ留置場ニ於ケル留置人取扱ニ關スル件

（明治四十一年十月八日　保第七三六號）

警察官署附屬ノ留置場ニ於ケル拘禁若クハ留置スル犯人取扱方ニ付テハ去ル二日保第六一六號ヲ以テ通牒置候得共尚ホ別紙寫ノ通リ司法省監獄局長竝ニ内務省警保局長ヨリ通牒有之候條右ノ主趣ニ依リ御取扱相成度依命此段及通牒候也

（別紙）

司法省監甲第六二五號

監獄法第一條末項ニ依リ警察官署ニ附屬スル留置場ハ監獄ニ代用シ得ルコトト相成候處右留置場ハ概シテ諸般ノ設備完全ナラス且ツ常ニ狹隘ヲ感シ居候ニ付懲役禁錮若クハ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ハ監獄ニ押送前又ハ押送後間モナク其刑期又ハ留置期ノ終了スルモノ若クハ身體ノ狀況ニ依リ監獄ニ押送シ得サル場合ノ外總テ監獄ニ押送セシメ警察官署ニ附屬スル留置場ニハ拘禁留置セサル樣御取計相成度此段及通牒候也

明治四十一年十月六日　　司法省獄監局長　小山温

内務省警保局長　有松英義

●警察官署ニ附屬スル留置場ヲ監獄ニ代用スル件

（明治四十一年十一月十三日　保第一二〇二號）

警察官署ニ附屬スル留置場ヲ監獄ニ代用スル件ニ付岐阜監獄典獄ト協定セシ事項其他特ニ注意ヲ要スル事項左ノ通ニ有之候條依命此段及通牒候也

一　拘留囚竝ニ勞役場留置ヲナスヘキモノニシテ監獄ニ到著ノ翌日ヨリ起算シ七日ニ滿タサルモノハ警察官署ニ附屬スル留置場ニ於テ執行ス但シ身體ノ狀況ニ由リ監獄ニ押送シ得サル旨又ハ留置中餘罪取調其ノ他必要止ムヲ得サルモノハ十五日以内ニ限リ警察官署ニ於テ拘留ノ執行ヲナスコトヲ得

二　監獄所在地ノ警察官署ニ於テモ七日未滿ノ受刑者ハ其ノ附屬留置場ニ於テ執行ス但シ留置人多數ナルカ其他異常ノ場合ニ於テハ豫メ典獄ニ協議シ七日未滿ノ受刑者ヲ監獄ニ送致スルコトヲ得

三　拘留七日以上ノ即決言渡ヲ爲シ保證金ヲ差出ササル爲メ留置ヲ命シ其言渡確定シタル拘留囚ニシテ尚監獄ニ到著後七日以上ノ拘禁ヲ執行スヘキ者ハ確定ノ日又ハ其翌日監獄ニ送致スルコト

四　科料ヲ假納セサル爲メ留置ヲ爲シタル者ハ言渡確定後尚七日以上ノ留置ヲナスヘキ者ト雖モ附屬留置場ニ於テ留置ヲ繼續スルコト

五　拘留囚及勞役場留置人ヲ監獄ニ送致スルトキハ即決言渡書命令書ノ謄本ニ執行通知書ヲ添ヘ巡査ヲシテ身柄ヲ護送セシムルコト

●換刑者留置日數制限

（明治二十八年一月十五日　指示第四號）

罰金ヲ輕禁錮ニ換フルモノハ警察官署附屬ノ留置場ニ於テ拘禁シ得ルハ監獄則ノ規定スル處ナルモ換刑日數甚長キモノヲ右留置場ニ於テ執行スルトキハ爲メニ監獄ノ目的ニ反スルノ嫌アルヲ以テ爾今其ノ日數十五日以上ノモノハ監獄署ニ送致スル樣取扱フヘシ

●留置場已未決囚區畫ノ件

（明治二十年四月　指示第三七號）

警察署分署ニ屬スル留置場ニ於テハ往往拘留者未決又ハ換刑禁錮者等ヲ混同雜居セシメ或ハ適宜ノ法ヲ以テ之ヲ遇スルカ如キ向モ有之不都合ニ付爾今未已決ノ區域ヲ嚴畫シ夫夫成規ニ從ヒ取扱フヘキ旨內務大臣ノ訓令アリタリ但現在ノ留置場ニテ區割ヲ設ケ得ヘキ場所ハ其見込ヲ申請スヘシ若シ增築セサレハ區割ヲ設ケ難キ場所ハ其旨申出スヘシ

●拘留狀ヲ執行セシ刑事被告人傳染病ナルトキ取扱方ノ件

（明治三十八年七月二十六日　岐阜縣訓第八七號）

拘留狀ヲ執行シタル刑事被告人ハ裁判所所在地ニ監獄ナキ場合ニ於テノミ之ヲ警察官署內ノ留置場ニ拘禁スルコトヲ得ルト雖モ監獄アル場合ニ於テ其健康者タルト疾病者タルト問ハス之ヲ監獄ニ送致セサルヘカラス從テ刑事被告人ニシテ傳染病患者タルトキモ亦之ヲ監獄ニ送致セサルヘカラサルハ勿論ナルモ或ハ監獄ニ於テ患者收容ノ設備ナク臨時監外ニ設備スル場合モ可有之ニ付其都度豫メ收容セラルヘキ場所ヲ打合セタル後送致スル等傳染病患者取扱上遺憾ナキヲ期セラルヘク且監獄外ニ臨時收容ノ場所ヲ設備スルニ當リ典獄ヨリ請求アルニ於テハ市町村ニ協議シテ傳染病院若ハ隔離病舍ヲ借入ルル等充分便宜ヲ與フヘク尙監獄所在地ニ在ラサル警察官署內ノ留置場ヲ拘置監ニ代用シ刑事被告人ヲ拘禁スル場合ニ於テ傳染病患者發生シタルトキハ警察署長分署長ハ市町村ト協議シ其傳染病院若ハ隔離病舍ニ收容シ若ハ此等ノ設備ナキトキハ適宜ノ場所ニ隔離治療ヲ施スヘシ而シテ右隔離ニ要スル借家料若ハ小屋掛料ハ警察費ヨリ支辨シ醫療手當藥價賄費等該被告人一身ニ係ルモノ及設置ノ器具並臥具費ハ監獄費ノ負擔ニ屬スヘク而シテ其他警察官署內ノ留置場ニ拘禁又ハ留置中ノ者ニシテ傳染病ニ罹リタルトキモ亦同樣措置シ其ノ費用ハ總テ警察費ヨリ支辨スヘシ但シ拘留狀若ハ逮捕狀ヲ執行セラレタル者ニ限リテハ明治三十五年法律第十一號ニ依リ處理スル義ト心得ヘシ

右訓令ス

●傳染病ニ罹リタル囚人及刑事被告人取扱方ニ關スル件

（大正四年四月五日　保第二三五號）

警察署留置場ニ拘禁又ハ留置中ノ在監者ニシテ傳染病ニ罹リ病院ヘ移送ノ際ニ於ケル取扱方ニ關シテハ監獄法施行規則第百十四條ニ準據スヘキハ勿論ノ義ニ候處其ノ病症ニ依リ防疫上寸時モ猶豫シ難キ場合ニ於テハ電報ヲ以テ指揮ヲ仰キ又ハ事後承認ヲ求メラルルモ支障無之旨其ノ筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條取扱上相當御注意相成度依命此旨及通牒候

追テ本件處分ノ結果ハ警察部長及典獄ニ即報可相成尙令狀又ハ逮捕狀ノ執行若ハ檢事ノ指揮ニ依ル勞役場留置執行ノ爲メ拘置セラレタル者ニ係ルトキハ當該檢事ニモ即報可有之此旨申添候

●警察官署ノ留置場海軍監獄代用ノ件

（明治四十一年十月一日　內務省警甲第二三號ノ內）

今回勅令第三百三十五號ヲ以テ海軍監獄令公布セラレ其ノ第五條ニ於テ警察官署ノ留置場ヲ海軍監獄ニ代用シ得ルコトト

相成候處右ハ萬止ムヲ得サル場合ノ外之レヲ使用セサル義ニ有之候且留置ノ費用ハ全部海軍ニ於テ負擔スルコトニ相成居候條御了知相成度依命此段及通牒候也

明治四十一年十月一日

岐阜縣知事薄定吉殿

内務省警保局長　有松英義

●警察留置場ヲ海軍監獄ニ代用スル場合ニ關スル件

（明治四十一年十二月十七日　内務省警甲第三九號ノ内）

警察留置場ヲ海軍監獄ニ代用スル場合ニ關シテハ本年十月一日附警甲第二三號ノ内ヲ以テ及通牒置候處尚左記ノ事項御承知相成度内命及通牒候也

明治四十一年十二月七日

岐阜縣知事薄定吉殿

内務省警保局長　有松英義

一　警察留置場ニハ押送前ノ一時ノ留置ニ係ル場合ノ外ハ其ノ刑名ノ何タルヲ問ハス海軍監獄ニ押送中又ハ押送後間モナク其ノ刑期ノ終了スルモノ若ハ身體ノ狀況ニ依リ監獄ニ押送シ得サル者ニ限リ拘禁シ他ハ總テ監獄ニ送致執行スルコト

二　右留置費額ハ明治三十五年司法省令第四號ニ準シ一人一日ニ付金十五錢ノ割合トシ留置日數ノ計算ハ初日ハ一日ニ計算シ出監ノ日ハ之ニ算入セサルコト

三　右留置ノ費用ハ當該警察官署ヨリ令狀又ハ刑ノ執行ニ關スル文書ヲ發シタル海軍軍法會議ヲ管轄スル長官ノ下ニ屬スル海軍省經理局又ハ海軍經理部ニ要求スルコト

●在獄犯人取調ニ關スル手續方ノ件

（大正六年六月十八日　保第五四九七號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

從來巡査等ニシテ在監犯罪取調等ニ際シ自己ノ名刺等ヲ司獄官ニ差出シテ在監人ニ面會ヲ求メ來リ候處爾今警察官署ノ照會書ヲ持參セシムル樣相成ル可ク岐阜監獄ヨリ照會ノ次第モ有之候條此旨及通牒候也

第十四章　刑ノ執行

●收入印紙ヲ以テ違警罪科料金納付ノ件

（明治三十八年十二月二十七日
岐阜縣令第五十八號）

沿革　明治三九年七月縣令第二七號改正

本縣ノ警察官署ニ納ムヘキ違警罪科料金ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ左記樣式ノ納付書ニ貼用シテ納付スヘシ

前項ノ印紙ハ警察官署ニ於テ消印ヲ爲スヘシ

○樣式（用紙半紙）

印紙	印紙

納付書

一金何圓何拾錢　但何々金

右納付候也

年　月　日　　住所

宛　　氏名㊞

●科料納付方ノ件

（明治三十八年十二月二十七日　岐阜縣訓令第九十四號）

沿革　明治四〇年一二月縣訓令第八二號改正

本年十二月岐阜縣令第五十八號ヲ以テ科料納付方相定メ候ニ付テハ左ノ各項ニ依リ取扱ヘシ

一　納付ヲ受ケタルトキハ確定ノモノハ直ニ未確定ノモノハ確定ヲ待テ消印スヘシ

二　納付書ハ別冊トシ其ノ爲ニ保存シ他ノ囑托ニ係ルモノハ其ノ該當官衙ニ送付スヘシ

三　納付ヲ受ケタルトキハ違警罪事件簿中相當欄ニ其ノ旨記入整理スヘシ但シ他ノ囑托ニ係ルモノハ囑托簿中納付ノ欄ニ記入シ置クヘシ

四　消印ハ左ノ雛形ノモノヲ用フヘシ

徑九分

●刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル犯人取扱内規

（明治三十八年四月十八日　警保第二〇一二號）

第一條　警察官署ハ裁判所檢事局ヨリ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル犯人ニ關シ通知ヲ受ケタルトキハ第一號樣式ノ刑ノ執行猶豫人名簿二葉ヲ製シ通知ノ年月日、氏名、年齡、住所、罪名、刑期、猶豫期間、死亡、猶豫ノ取消、執行免除、其ノ他必要ナル事項ノ記入ヲ爲シ一葉ハ警察官署ニ保存シ一葉ハ受持巡査ニ交付シテ保存セシムヘシ

刑ノ執行猶豫人名簿ニハ第二號樣式ノ索引ヲ付スヘシ

第二條　刑ノ執行猶豫人猶豫期間内住所ヲ轉シタルトキハ第四號樣式ニ依リ檢事局ニ即報シ且ツ名簿ニ轉住月日竝ニ轉住地ヲ記入シ名簿寫ヲ轉住地ノ所轄警察官署ニ送付スヘシ

第三條　刑ノ執行猶豫人ニ對シテハ一面遷善改悟ノ實ヲ擧ケシメ之レヲ正道ニ導クト共ニ一面ニハ常ニ受持巡査ヲシテ被監視人ト同一ノ程度ヲ以テ視察ヲ加ヘシメ再犯ヲ豫防スルコトニ注意スヘシ故ニ其視察方法ニ付テハ專ラ裏面ヨリ之レヲ行ヒ犯人ノ改悛ヲ妨クルカ如キコトアルヘカラス

刑ノ執行猶豫人ノ動靜ニ付テハ名簿相當欄内ニ記入スヘシ

第四條　刑ノ執行猶豫人ノ異動竝動靜ニ付テハ毎月末日マテノ分ヲ翌月五日マテニ警察部ニ報告スヘシ

第五條　刑ノ執行猶豫人逃亡、死亡、犯罪ノ嫌疑其ノ他動靜上異常アルトキハ第四號樣式ニ依リ檢事局ニ報告スヘシ

法第六條第三號ニ該當スルコトヲ發見シタルトキハ詳細ノ事實ヲ檢事局ニ即報スヘシ

○第一號樣式

刑ノ執行猶豫人名簿

第　號

明治　年　月　日裁判所檢事局ヨリ通知

(一)本籍	(二)住所	(三)姓名	(四)年齢	(五)罪名	(六)刑期	(七)猶豫期間	(八)猶豫ノ取消	(九)執行免除	(十)異動竝動靜
廳府縣 郡市 町村大字 番地	廳府縣 郡市 町村大字 番地	男女				始期 明治 年 月 日 終期 明治 年 月 日			

○第二號樣式

刑ノ執行猶豫人名簿索引

索引番號	事項摘要	町村名	犯人・氏名

○第三號樣式

刑ノ執行猶豫人　月分異動竝動靜報告表

警察署長㊞

罪名	猶豫期間 滿期日	事項摘要	町村名	犯人氏名

○第四號樣式

刑ノ執行猶豫人異動動靜報告

明治　年　月　日　　警察署長官氏　　名㊞

裁判所檢事局御中　　住所　氏　名

罪名　刑期

事由

●刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル犯人名簿調製其他取扱心得

（明治三十八年四月十八日通達第二〇一三號）

今般警保第二〇一二號ヲ以テ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル犯人ニ關スル取扱內規制定セラレタルニ付テハ名簿調製其ノ他取扱上左ノ通心得ラルヘシ

一　第一號樣式ノ名簿用紙ハ警察部ニ於テ調製配付ス

二　第二號、第三號樣式用紙ハ普通ノ罫紙ヲ用ヒ第四號樣式用紙ハ謄寫版等ヲ用ヰ其署ニ於テ調製スヘシ

三　執行免除取消ノ通知ヲ受ケタルトキハ明治二十五年十二月指示第一二五號犯罪人名簿ニ記入シ置クヘシ

四　轉住、死亡、移轉等ノ分ハ名簿ヨリ取外シ別ニ保存シ置クヘシ

五　第一條ノ名簿二葉ヲ調製スルハ派出所駐在所ニ備置クモノニ限リ署在地受持巡査ニハ交付スルニ及ハス且派出所駐在所ノ分ニハ索引ヲ付スルヲ要セス

六　名簿ハ索引番號ノ順序ニ依リ相當ノ箱ニ納レ保存シ置クヘシ

七　取扱內規ニ檢事局トアルハ所屬區裁判所ノ檢事局ヲ云フ

●刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル犯人ニ關シ取扱方ノ件

（明治四十一年九月二十四日岐阜縣訓令乙第十四號）

一　檢事局ヨリ刑ノ執行猶豫ノ通知ヲ受ケタルトキハ第一號樣式ノ名簿ヲ作製シ之ニ登錄ノ上其ノ謄本一葉ヲ犯人居住地ノ受持巡査ニ交付スヘシ本名簿ニハ第四號樣式ノ索引ヲ交付スヘシ

二　刑ノ執行猶豫人ニ對シテハ專ラ改過遷善ノ實ヲ擧ケシメ之ヲ正道ニ導クコトニ努メ受持巡査ヲシテ少クモ一ケ月二回以上ノ視察ヲナサシメ再犯ヲ豫防スルコトニ注意スヘシ

其ノ視察上犯人ノ吹悛ヲ妨クルカ如キ措置ニ出テサル樣注意スヘシ

三　刑ノ執行猶豫人猶豫期間內住所ヲ轉シタルトキ若クハ逃亡死亡犯罪ノ嫌疑其ノ他動靜上ノ異狀アルトキ又ハ執行猶豫ノ裁判ヲ取消スヘキ原因ノ存在シタルトキハ第三號樣式ニ依リ檢事局ニ即報スヘシ

但住所ヲ轉シタルトキハ其ノ轉住年月日竝ニ轉住地ヲ名簿ニ記入シ轉住地所轄警察官署ニ名簿謄本ヲ送付スヘシ

四　刑ノ執行猶豫人員ハ毎年六月十二月末現在ニ依リ調査シ第四號樣式ニ記載シ翌月十日マテニ警察部ニ報告スヘシ

第一號樣式

住所族稱 職業氏名 生年月日	通知ヲ受ケタル 年月日	檢事局名	贈本送付ヲ受ケタル警察官署名	判決ヲ受ケタル 年月日	裁判所名	罪名	刑期	刑ノ執行猶豫期間 始期	終期	猶豫取消	執行免除	視察事項

第二號樣式

刑ノ執行猶豫人名簿索引

番號	住所	氏名	番號	住所	氏名

刑ノ執行猶豫人名簿記載例

一　動靜視察事項欄ニハ犯罪嫌疑者視察名簿視察事項欄ニ詳記スルヲ以テ之ヲ複記スルノ必要ナシト雖モ視察上知得シタル動靜ヲ具體的ニ明記スヘシ

但改悛ノ情アルモノノ如シ又ハ異狀ナシトスルカ如キ記載ヲナスヘカラス

第三號樣式

何檢事局宛

警察官署名

番號　明治　年　月　日

刑ノ執行猶豫人異動（動靜）轉住報告書

一罪名刑名刑期

一何々、、、　事由　住所　氏名

第四號樣式

刑ノ執行猶豫人員表　　明治　年自　月　至　月分　　何警察(分)署

罪名	前期越高	本期間猶豫セラレタルモノ	本期間猶豫ニ付執行免除トナリタル者	本期間管外ヘ轉住セシモノ	本期間猶豫ヲ取消サレタルモノ	本期間逃亡セシモノ	本期間死亡セシモノ	本期末現在人員
計								

備考

一　管内他ノ警察官署部内ヨリ轉住シ來リタルモノハ本期間新ニ猶豫セラレタルモノノ欄左傍ニ其ノ員數ヲ朱記スヘシ

二　管内他ノ警察官署部内ヘ轉住セシモノハ本期間管外ヘ轉住セシモノノ欄左傍ニ其員數ヲ朱記スヘシ

●執行猶豫少年ニ關スル件

（大正十二年七月九日記第一五〇八號）

檢事正ヨリ各警察官署長宛

刑執行猶豫者ニ對シテハ從來年齡ノ如何ヲ問ハス總テ警察官ニ於テ其ノ行動ヲ視察シ來リタル處少年法實施ノ結果少年ニ對シテハ少年保護司ノ視察ニ付スルコトト相成候ニ付爾今警察署ニ對スル通知ハソヲ爲ササルコトニ致候條了知可相成尚目下視察中ノモノト雖之ニ該當スルモノハ此際警察官署ニ於ケル視察ヲ解除シ其氏名住居竝今後視察上必要ト認ムル事項ヲ具シ當局ヘ報告有之度候

追テ現時既ニ十八歲以上ノ者ト雖モ少年ノ時執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ハ總テ右ニ包含スル儀ニ付爲念申添候

●軍法會議ニ於テ言渡ヲ受ケタル刑執行猶豫者取扱ノ件

（明治四十一年十月二日岐阜縣訓令乙第二十五號）

軍法會議ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ陸軍刑法第八條第一號乃至第三號第五號第九條第一項第一號第二號又ハ海軍刑法第八條第一號第二號第九條第一項第一號第二號ニ記載シタル身分ヲ失ヒタル者ニ對シテハ本年訓令乙第一四號訓令ニ依ルノ外左ノ取扱ヲ爲スヘシ

一　警察官署ニ於テ行先不明又ハ外國旅行等本人ニ對シ視察ヲ加フル能ハサル事故ノ生シタルコト又ハ死亡シタルコトヲ覺知シタルトキハ其旨所轄地方裁判所檢事局ニ通報スルコト

一　刑ノ執行猶豫人名簿ニハ口別ヲ爲シ普通裁判所ニ於テ宣告ヲ受ケタル者ト各別ニ記入スルコト

●刑法施行法實施ノ場合刑ノ扱行停止ニ關シ取執方ノ件

（明治四十一年九月二十四日岐阜縣訓令乙第十五號）

一　檢事局ヨリ刑ノ執行停止ノ通知ヲ受ケタルトキ若クハ他ノ警察官署ヨリ該名簿寫ノ送付ヲ受ケタルトキハ別紙樣式ノ名簿ニ登錄シ其ノ謄本一通ヲ停止者居住地受持巡査ニ交付スヘシ

二　前項ノ登錄ヲナシタルトキハ受持巡査ヲシテ停止ノ事故止ムマテ毎月二回以上視察ヲナサシメ其ノ結果ヲ報告セシメ名簿相當欄ニ記入スヘシ

三　刑ノ執行停止者住所ヲ轉シタルトキハ受持巡査ヲシテ直チニ報告セシメ其ノ旨通知ヲ受ケタル檢事局ニ報告シ轉住地所轄ノ警察官署ニ名簿謄本ヲ送付スヘシ

四　停止ノ事故止ミタルトキ若クハ停止者死亡シタルトキハ受持巡査ヲシテ直ニ報告セシメ其ノ旨通知ヲ受ケタル檢事局ヘ報告スヘシ

（半紙半片）

住所 職業 生年月日	族稱 氏名	通知ヲ受タルタ		判決ヲ受タルタ		停止事由	終局	謄本送付ヲ受ケタル警察官署名	罪名 刑期	視察事項
		檢局名事	年月日	裁判所名	年月日		年月日			
							事由			

備考

視察事項欄ニハ執行停止ノ事故ノ存續スルヤ否ヤヲ視察シ視察セシ年月日及其ノ當時ノ實況ヲ記載スヘシ

第十五章　假出獄、假出場

●假出獄取締規則

（明治四十一年九月十日司法省令第二十五號）

第一條　假出獄ヲ許サレタル者ハ住居ノ地ヲ管轄スル警察官署ノ監督ヲ受ク

第二條　假出獄ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ監獄ハ住居ノ地ニ到著スヘキ日ヲ定メ之ヲ證票ニ記載ス可シ

假出獄ヲ許サレタル者ハ前項ニ依リ證票ニ記載セラレタル日ニ監督警察官署ニ出頭シ證票ニ認印ヲ受ク可シ若シ旅行數日ニ渉ルトキハ警察官署所在ノ地ニ宿泊シ其警察官署ニ出頭シ認印ヲ受ク可シ

第三條　假出獄ヲ許サレタル者天災、疾病其他ノ事故ニ由リ前條ノ規定ニ從フコト能ハサルトキ又ハ其虞アルトキハ遲滯ナク其事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受ク可シ

前項ノ證明書ハ監督警察官署ニ提出シテ認印ヲ受ク可シ

第四條　監獄ノ長證票ヲ交付シタルトキハ其旨ヲ假出獄ヲ許サレタル者ノ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事、刑ノ言渡ヲ爲シタル檢判所ノ檢事及ヒ監督警察官署ニ通報ス可シ

第五條　假出獄ヲ許サレタル者三日以上十日未滿ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ監督警察官署ニ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ屆出ツ可シ

第六條　假出獄ヲ許サレタル者住居ヲ轉移シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ記載シテ監督警察官署ノ許可ヲ請フ可シ

住居ノ轉移又ハ十日以上ノ旅行ヲ許可シタルトキハ監督警察官署ハ旅券ヲ交付ス可シ但監督警察官署ノ管轄區域內ニ住居ヲ轉移スル場合ハ此限ニ在ラス

第二條及ヒ第三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條　住居ノ轉移ヲ許可シタルトキハ監督警察官署ハ其旨ヲ第四條ノ檢事、監獄竝ニ新ナル住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及ヒ警察官署ニ通報ス可シ

前項ノ場合ニハ關係書類ヲ新ナル監督警察官署ニ送致ス可シ

第八條　假出獄ヲ許サレタル者帝國外ニ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ記載シ監督警察官署及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ヲ經由シテ司法大臣ノ許可ヲ請フ可シ

監督警察官署及監獄ハ事實ヲ調査シ意見ヲ付ス可シ

第六條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ旅行ヲ許可セラレタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條　假出獄ヲ許サレタル者帝國外ノ旅行ヲ許可セラレタルトキハ監督警察官署ハ其旨ヲ第四條ノ檢事ニ通報ス可シ

第十條　假出獄ヲ許サレタル者旅行ヲ爲シタル場合ニ於テ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滯ナク監督警察官署ニ出頭シ旅券ヲ還納ス可シ

第十一條　假出獄ヲ許サレタル者ハ遲滯ナク監督警察官署ニ職業其他生計ニ關スル見込ヲ立テ之ヲ屆出ツ可シ

假出獄ヲ許サレタル者ノ保護ヲ引受タル者アルトキハ前項ノ屆出ニハ連署ヲ要ス

第十二條　假出獄ヲ許サレタル者ハ毎月一回監督警察官署ニ出頭シテ前條ノ事項ニ付其結果ヲ申述ス可シ

旅行ヲ許可セラレタル者同一ノ場所ニ一月以上滯在スルトキハ滯在地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭シテ前項ノ申述ヲ爲ス可シ此場合ニ於テハ其警察官署ハ監督警察官署ニ申述ノ要旨ヲ通報ス可シ

第十三條　監督警察官署ハ假出獄ヲ許サレタル者ヲシテ正業ニ就キ善行ヲ保タシムル爲メ必要ナル訓示ヲ爲シ又ハ之カ爲メ必要ナル行爲ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ヲ發シタルトキハ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ニ通報ス可シ

第十四條　監督警察官署ハ六月毎ニ假出獄ヲ許サレタル者ノ行狀ノ良否、職業ノ種別及ヒ勉否、生活ノ狀況、親族トノ關係其他ノ事項ニ付調査書ヲ作リ之ヲ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ニ通報ス可シ

第十五條　假出獄ヲ許サレタル者ノ監督ハ證票ヲ交付シタル監獄ノ長ノ意見ヲ聽キ之ヲ託スルニ適當ナル親族、故舊、出獄人保護事業ニ從事スル者、神官、僧侶、教師又ハ德望アル者ニ委任スルコトヲ得

前項ニ依リ委任ヲ受ケタル者ハ毎月末日第十四條ニ揭ケタル事項ヲ監督警察官署ニ通報ス可シ

第十六條　檢事及ヒ警察官署ハ假出獄ヲ許サレタル者刑法第二十九條第一項ニ該ルコトヲ知リタルトキハ意見ヲ具シ大臣ニ申報ス可シ

警察官署ノ爲ス申報ハ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ヲ經由ス可シ

第十七條　司法大臣假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ假出獄ヲ許サレタル者ノ所在ノ地若クハ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事又ハ其在監スル監獄ニ通報シテ其執行ヲ爲サシム

前項ノ場合ニ於テハ證票ヲ還納セシム可シ

第十八條　假出獄ヲ取消サレタル者在監者ニ非ルトキハ檢事ハ刑事訴訟法第三百十九條第二項ニ依リ逮捕狀ヲ發ス可シ

第十九條　第十七條ノ執行ヲ爲シタル檢事又ハ監獄ハ其旨ヲ第四條ノ檢事、監督警察官署及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ニ通報ス可シ

第二十條　假出獄ヲ許サレタル者死亡シタルトキハ監督警察官署ハ之ヲ第四條ノ檢事及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ニ通報ス可シ

前項ノ通報ヲ受ケタル監獄ハ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續

（明治四十一年九月十八日
司法省訓令第七號）

沿革　明治四三年一二月司訓第四號、一二年六月第五號改正

第一條　假出獄ノ具申書ニハ假出獄ヲ許ス可キ者ノ住所、氏名、年齢、罪名、犯數、刑名、刑期、刑期ノ起算竝ニ終了日、假出獄條件期間經過ノ日、假出獄ヲ許ス事由、出獄後ニ於ケル保護者ノ住所、氏名、職業、生活ノ狀態及ヒ保護者ト本人トノ關係ヲ記載ス可シ

第二條　假出場ノ具申書ニハ假出場ヲ許ス可キ者ノ住所、氏名、年齢、罪名、犯數、刑名、刑期者クハ金額、刑期ノ起算及ヒ終了日、假出場ヲ許ス事由ヲ記載ス可ス

第三條　監獄法施行規則第百七十二條ニ依リ假出獄ノ具申書ニ添附ス可キ行狀錄ハ身分帳簿乙號行狀錄最近一年六月分ノ寫ヲ以テ之ニ充テ、身上調査書類ハ身上票及ヒ公務所其他ノ回答書ニシテ特ニ參考ト爲ル可キモノノ寫ヲ以テ之ニ充ツ可シ

第四條　刑期三分ノ一ヲ算出スルニハ左ノ例ニ依リ暦ニ從ヒ計算ス可シ

一　刑期三年以下ニシテ年ノミニ係ルトキハ年ヲ月ニ換算シテ之ヲ三分シ其商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

二　刑期三年以上ニシテ年ノミニ係ル場合ニ於テ其儘三分スルコト能ハサルトキハ先ツ年ヲ三分シテ其商ヲ得、年ノ端數ハ之ヲ月ニ換算シテ之ヲ三分シ月ノ商ヲ得、年ト月トノ商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

三　刑期三年以下ニシテ年ト月トニ跨ルトキハ先ツ年ヲ月ニ換算シ之ニ刑期ノ月ヲ加ヘテ其和ヲ三分シ因テ得タル商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

四　刑期三年以上ニシテ年ト月トニ跨ル場合ニ於テ其儘三分スルコト能ハサルトキハ先ツ年ヲ三分シテ年ノ商ヲ得、年ノ端數ハ月ニ換算シ之ニ刑期ノ月ヲ加ヘテ其和ヲ三分シテ月ノ商ヲ得、月ノ端數ハ次ノ方法ニ依リ計算ス

（イ）先ツ刑期起算日ヨリ年ト月トノ商ニ相當スル期間ヲ暦ニ從ヒ計算シ其期間ノ最終日ヲ定ム

（ロ）次ニ（イ）號ノ最終日ノ翌日ヲ起算點トシテ月ノ端數ヲ暦ニ從ヒ計算シ其期間ニ相當スル日數ヲ算出ス

（ハ）（ロ）號ニ依リ算出シタル日數ヲ三分シテ日ノ商ヲ得、更ニ（イ）號ノ最終日ヲ起算點トシテ日ノ商ニ相當スル期間ヲ計算シ其最終日ヲ定ム但日ノ端數ヲ生スルトキハ商ヲ一日繰上クルモノトス

五　年ト月ト日トニ跨リ其儘三分スルコト能ハサルトキハ四號（イ）（ロ）ノ例ニ準シ日數ヲ算出シタル數ニ刑期ノ日ヲ加ヘ之ヲ三分シテ日ノ商ヲ得、四號（ハ）ノ例ニ依リ計算ス

六　月ト日トニ跨リ又ハ日ノミニ係ル場合ニ於テ其儘三分スルコト能ハサルトキハ前數號ノ例ニ準シ計算ス

七　刑期ニ算入ス可キ日數アルトキハ先ツ全刑期ノ最終日ヨリ遡テ算入ス可キ日數ヲ控除シ其殘期ノ三分ノ一ヲ計算ス

第五條　假出獄ノ證票ハ別記第一號書式及ヒ第二號書式ニ依リ之ヲ作成シ假出場ノ證票ハ別記第三號書式ニ依リ之ヲ作成ス可シ

第六條　假出獄又ハ假出場ニ因リ釋放シタルトキハ許可書到達ノ年月日時及ヒ釋放シタル年月日時ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

少年法第十一條ノ適用ヲ受ク可キ者ニ付テハ前項ノ外尙ホ同條ニ依リ刑ノ執行終ル可キ日ヲ申報ス可シ

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年司法省訓令第二號假出獄證票ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（別記）

（第一號書式）（用紙厚紙、紙質適宜）

（表面）

假出獄證票

府縣郡市區町村番地（本籍地並ニ假出獄後住居ノ地）

氏名

年月日生

罪名

刑名刑期

明治　年　月　日ヨリ執行

明治　年　月　日刑期終了

假出獄期間　年　月　日自明治　年　月　日至明治　年　月　日

明治　年　月　日ニ住居ノ地ニ到著ス可シ

假出獄ヲ許サレタルヲ以テ此證票ヲ附與ス

明治　年　月　日

某監獄典獄氏名印

記事及警察官吏ノ認印

尺一　分五寸六

（裏面）

假出獄者心得事項

一　監獄ヨリ指定セラレタル日限ニ居住ノ地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭シ此證票ニ認印ヲ受ク可シ若シ旅行ノ數日ニ渉ルトキハ警察官署所在地ニ宿泊シ其警察官署ニ出頭シ認印ヲ受ク可シ

二　天災、疾病其他ノ事故ニヨリ前項ノ規定ニ從フコト能ハサルトキ又ハ其虞アルトキハ遲滯ナク其事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受ク可シ此證明書ハ監督警察官署ニ提出シテ認印ヲ受ク可シ

三　正業ニ就キ善行ヲ保ツ可シ

四　假出獄中ハ住居ノ地ヲ管轄スル警察官署ノ監督ヲ受ケ其指揮命令ニ從フ可シ

五　遲滯ナク監督警察官署ニ職業其他生計ニ關スル見込ヲ立テ之ヲ届出ツ可シ保證者アルトキハ連署ヲ要ス

六　每月一回監督警察官署ニ出頭シテ前項ノ事項ニ付其結果ヲ申述ス可シ旅行ノ許可ヲ得テ同一ノ場所ニ一月以上滯在スルトキハ滯在地ヲ管轄スル警察官署ニ對シ此申述ヲ爲ス可シ

七　三日以上十日未滿ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ監督警察官署ニ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ届出ツ可シ

八　住居ヲ轉移シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及旅行日數ヲ記載シテ監督警察官署ノ許可ヲ請ヒ旅券ヲ受ク可シ第一第二ノ規定ハ此場合ニ之ヲ準用ス

九　帝國外ニ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ記載シ監督警察官署及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ヲ經由シテ司法大臣ノ許可ヲ請フ可シ第八ノ規定ハ旅行ヲ許可セラレタル場合ニ之ヲ準用ス

十　旅行ヲ爲シタル場合ニ於テ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滯ナク監督警察官署ニ出頭シ旅券ヲ還納ス可シ

右假出獄者心得事項ニ違背シタルトキ又ハ左ニ掲クル事由アルトキハ假出獄ノ處分ヲ取消サルルコトアル可シ

一　假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ

假出獄ノ處分ヲ取消サレタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサルモノトス

（第三號書式）（用紙厚紙、紙質適宜）

少年假釋放證票

府縣郡市區町村番地（本籍地竝ニ假出獄後住居ノ地）

氏　名

年月日生

罪　名

刑名刑期〔短期〕〔長期〕

大正　年　月　日ヨリ執行

大正　年　月　日期間滿了

假釋放期間　年　月　日自大正　年　月　日至大正　年　月　日

大正　年　月　日ニ住居ノ地ニ到着ス可シ

假釋放ヲ許サレタルヲ以テ此證票ヲ附與ス

大正　年　月　日

何刑務所長　氏　名印

記事及少年保護司又ハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ノ認印

（表　面）

一　尺　六寸五分

（裏　面）

一　少年假釋放者心得

表面ニ記載セラレタル住居ノ地ニ到著ノ後遲滯ナク證票ヲ少年保護司、少年保護司ナキ地ニ在リテハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ニ呈示シテ認印ヲ受ク可シ

二　天災、疾病其他ノ事故ニ因リ前項ノ規定ニ從フコト能ハサルトキ又ハ其慮アルトキハ速ニ其事由ヲ少年保護司、少年保護司ナキ地ニ在リテハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ニ開示シテ證票ニ認印ヲ受ク可シ

三　正業ニ就キ善行ヲ保ツ可シ

四　假釋放中ハ住居ノ地ノ少年保護司、少年保護司ナキ地ニ在リテハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ノ觀察ヲ受ケ其指揮命令ニ從フ可シ

五　住居ヲ變更シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ明カニシテ少年保護司、少年保護司ナキ地ニ在リテハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ノ許可ヲ受ク可シ

六　外國ニ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ記載シ少年審判所、少年審判所ノ管轄區域外ニ於テハ住居ノ地ノ少年刑務所、少年刑務所ナキ地ニ在リテハ住居ノ地ノ普通刑務所ヲ經由シテ司法大臣ノ許可ヲ受ク可シ

七　旅行地ヨリ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ速ニ少年保護司、少年保護司ナキ地ニ在リテハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ニ屆出ツ可シ

右心得事項ニ違反シタルトキ又ハ左ニ揭クル事由アルトキハ假釋放處分ヲ取消サルルコトアル可シ

一　假釋放中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　假釋放前ニ犯シタル他ノ罪ニ付罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　假釋放中他ノ罪ニ付罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ

假釋放ノ處分ヲ取消サレタルトキハ釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサルモノトス

假釋放ヲ許サレタル後其處分ヲ取消サルルコトナクシテ表記ノ假釋放期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ執行終リタルモノトス

（第三號樣式）（用紙厚紙、紫寶色）

●假出獄取締細則ニ關スル取扱手續

（明治四十一年九月三十日岐阜縣訓令乙第二十四號）

一　警察署警察分署ニ第一號樣式ノ名簿ヲ作製シ假出獄人アルトキハ之ニ登錄ノ上其謄本一葉ヲ假出獄人居住地ノ受特巡査ニ交付スヘシ

二　細則第十三條一項ノ訓示及行爲命令ヲ爲シタルトキハ速ニ警察部長ニ報告スヘシ

三　細則第十四條ノ調査書ハ第二號樣式ニ據ルヘシ

第一號樣式

住所 職業 生年月日	族稱 氏名	罪名	刑名 刑期	假出獄期間	監督事項
			明治　年　月　日ヨリ刑期終了	年　月　日自明治　年　月　日至明治　年　月　日	

宣告裁判所名	監獄名

記載例

一　監督事項ノ欄ニハ假出獄人出頭月日、旅行、移轉ノ許可、證明書ノ認容、保護引受人、申述、訓示、命令、監督ノ委託、通報等ノ如キ外形ニ現ハルル事故ハ勿論細則第十四條ノ視察ニ係ル內容ハ最モ詳密ニ記載シ置クヲ要ス故ニ若シ定刻用紙ノ狹隘ナル場合ニハ普通罫紙ノ增綴ヲ妨ケス

（第三號書式）（用紙厚紙、縦實適宜）

（面　表）

假釋放期間	大正　年　月　日	假釋放ヲ許サレタルヲ以テ此證票ヲ附與ス	大正　年　月　日	假釋放ヲ許サレタル	大正　年　月　日
假釋放期間滿了	大正　年　月　日	日ニ住居ノ地ニ到着ス可シ	大正　年　月　日	假釋放期間	大正　年　月　日
日ヨリ執行	何刑務所長　氏	名圍		刑名	罪名
				刑期	〔領置〕長期

（裏）

府縣郡市區町村番地	少年假釋放證票	年月日生	名
獄後本籍地居住地	氏		

（假出場）

保護司認印	訴訟代理人保護團體ノ代表者又ハ保護司	訴訟代理人保護團體ノ代表者又ハ保護司	訴訟代理人保護團體ノ代表者又ハ保護司
六十五分			

（面　表）

假釋放ヲ許サレタル處分ヲ取消ス可シ	假釋放中他ノ犯罪ヲ爲シタル後其處分ヲ取消サレタルトキハ刑ノ執行終リタルモノトナシテ其記ノ	假釋放ノ處分ヲ取消サレタルモノハ假釋放期間ヲ經過シタルトキハ刑期ニ算入セラレタルモノトス	假釋放ノ處分ヲ取消サレタル後ニ犯シタル他ノ罪ニ付テハ假釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレタルモノトス	假釋放中更ニ罪ヲ犯シタルトキハ其事由ヲ記載シ爲サント欲スル處分ヲ執行ス可シ	假釋放中ニ逃亡シタルトキハ其事由ヲ記載シ爲サント欲スル處分ヲ執行ス可シ
假釋放ノ處分ヲ取消サレタル後ニ犯シタル他ノ罪ニ付テハ假釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレタルモノトス	假釋放中更ニ罪ヲ犯シタルトキハ其事由ヲ記載シ爲サント欲スル處分ヲ執行ス可シ	假釋放中ニ逃亡シタルトキハ其事由ヲ記載シ爲サント欲スル處分ヲ執行ス可シ	假釋放中ニ逃亡シタルトキハ其事由ヲ記載シ爲サント欲スル處分ヲ執行ス可シ	假釋放ノ處分ヲ取消サレタル後ニ犯シタル他ノ罪ニ付テハ假釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレタルモノトス	假釋放ノ處分ヲ取消サレタル後ニ犯シタル他ノ罪ニ付テハ假釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレタルモノトス

（裏）

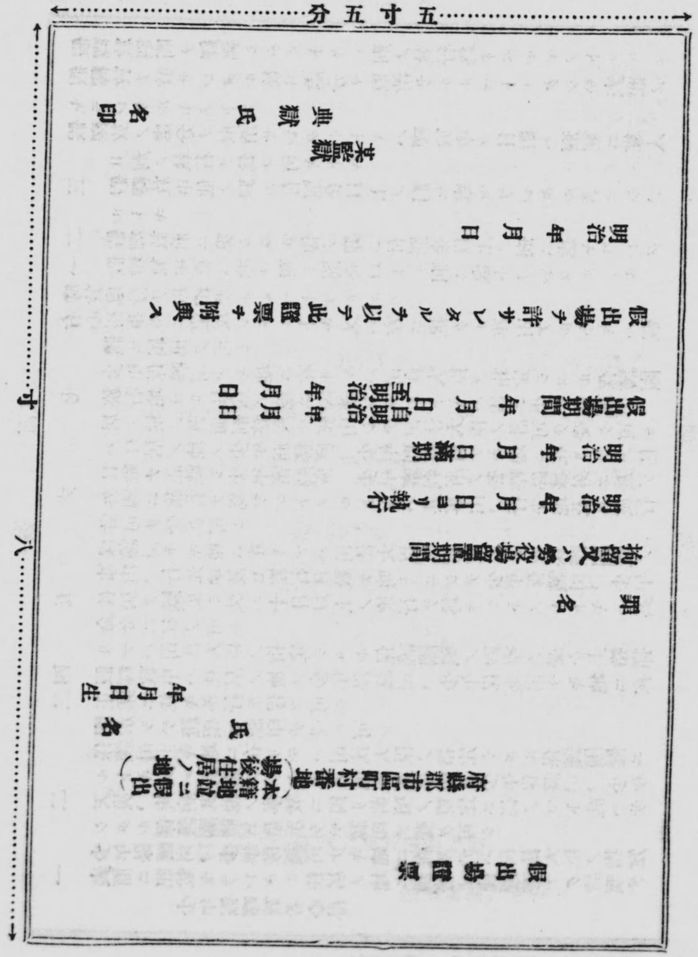
假釋放ノ處分ヲ取消サレタル後ニ犯シタル他ノ罪ニ付テハ假釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレタルモノトス	假釋放ノ處分ヲ取消サレタル後ニ犯シタル他ノ罪ニ付テハ假釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレタルモノトス	假釋放ノ處分ヲ取消サレタル後ニ犯シタル他ノ罪ニ付テハ假釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレタルモノトス	假釋放ノ處分ヲ取消サレタル後ニ犯シタル他ノ罪ニ付テハ假釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレタルモノトス

（面）

右心得ベシ	假釋放ノ處分ヲ取消サレタル後ニ犯シタル他ノ罪ニ付テハ假釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレタルモノトス	假釋放ノ處分ヲ取消サレタル後ニ犯シタル他ノ罪ニ付テハ假釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレタルモノトス	假釋放ノ處分ヲ取消サレタル後ニ犯シタル他ノ罪ニ付テハ假釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレタルモノトス	假釋放ノ處分ヲ取消サレタル後ニ犯シタル他ノ罪ニ付テハ假釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレタルモノトス	假釋放ノ處分ヲ取消サレタル後ニ犯シタル他ノ罪ニ付テハ假釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレタルモノトス

（裏）

假釋放ノ處分ヲ取消サレタル後ニ犯シタル他ノ罪ニ付テハ假釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレタルモノトス	假釋放ノ處分ヲ取消サレタル後ニ犯シタル他ノ罪ニ付テハ假釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレタルモノトス	假釋放ノ處分ヲ取消サレタル後ニ犯シタル他ノ罪ニ付テハ假釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレタルモノトス	假釋放ノ處分ヲ取消サレタル後ニ犯シタル他ノ罪ニ付テハ假釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレタルモノトス



（第三號樣式）（用紙美濃紙、寸法縱長）

●假出獄取締細則ニ關スル取扱手續

（明治四十一年九月三十日岐阜縣訓令乙第二十四號）

一　警察署警察分署ニ第一號樣式ノ名簿ヲ作製シ假出獄人アルトキハ之ニ登錄ノ上其謄本一葉ヲ假出獄人居住地ノ受特巡査ニ交付スヘシ

二　細則第十三條一項ノ訓示及行爲命令ヲ爲シタルトキハ速ニ警察部長ニ報告スヘシ

三　細則第十四條ノ調査書ハ第二號樣式ニ據ルヘシ

第一號樣式

住所 職業 族稱 生年月日 氏名	罪名	刑名 刑期	假出獄期間	監督事項
		明治　年　月　日ヨリ明治　年　月　日ニ刑期終了	年　月　日自明治　年　月　日至明治　年　月　日	

宣告裁判所名　監獄名

記載例

一　監督事項ノ欄ニハ假出獄人出頭月日、旅行、移轉ノ許可、證明書ノ認容、保護引受人、申述、訓示、命令、監督ノ委託、通報等ノ如キ外形ニ現ハルル事故ハ勿論細則第十四條ノ視察ニ係ル內容ハ最モ詳密ニ記載シ置クヲ要ス故ニ若シ定刻用紙ノ狹隘ナル場合ニハ普通罫紙ノ增綴ヲ妨ケス

第二號樣式

裁判所（監獄）官氏名殿

發第　號

假出獄人身上調査通報書

住所

氏名

罪名刑名
刑名刑期
明治　年　月　日ヨリ施行
明治　年　月　日執行終了

假出獄期間　年　月　日自明治　年　月　日至明治　年　月　日

岐阜縣警察署長官氏名

明治　年　月　日

行狀ノ良否	生活ノ狀況	親族間ノ關係	職業ノ種類及勉否	身體ノ健否	宗教心ノ有無	其他ノ事項

記載例

（一）行狀ノ項ニハ本人現時ノ行動ヲ詳細記入スルモノトス

（二）職業ノ項ニハ其本業ハ素ヨリ傍ラ他ノ職業ニ從事スルモノアレハ之ヲ記載シ且ツ業務ニ勉勵スルヤ否及其發達ノ狀況將來ノ見込等

（三）生活ノ項ニハ富饒普通貧困ノ區別ヲナシ儉儉ヲ旨トスルカ或ハ得ル所ハ總テ之ヲ費消シ貯蓄ノ念更ニナキカ他ヨリ救助ヲ受クルヤ否將來生活ヲ遂ケ得ヘキヤ否等

（四）親族間ノ項ニハ一家和合シ何レモ正業ニ從事シ品行方正ナリヤ或ハ家族間排斥ノ傾向アリヤ否（若シアリトセハ其原因）之ニ對スル本人ノ感情及親戚間ニ於ケル親否等詳細記入スルモノトス

（五）身體ノ項ニハ病氣ノ有無其他健康ノ狀態

（六）宗教心ノ項ニハ眞摯ニ宗教心アリヤ否及其宗派又ハ神社佛閣ニ參拜スルコトアリヤ否等

（七）其他ノ事項ニハ監督上參考トナルヘキ細大ノ事項及監督警察官署長ノ意見等ヲ記ス

●假出獄取締細則ニ依リ交付スヘキ旅券及證明書雛形

（明治四十一年九月三十日内務省訓令第九號）

假出獄取締細則ニ依リ交附スヘキ旅券及證明書ハ左ノ雛形ニ依ルヘシ

第一編形（住居移轉者ニ交附スルモノ）　用紙烏ノ子竪五寸横七寸

假出獄者旅券

一　題名
一　刑名刑期
一　假出獄期間　年　月　日自明治　年　月　日至明治　年　月　日
一　旅行許可　年　月　日
一　移轉先地名
明治　年　月　日迄ニ移轉先ニ到著スヘシ
假出獄取締細則第六條ニ此旅券ヲ交付ス

（表）

府縣郡市區町村番地（本籍地竝ニ假出獄後住居ノ地）
族籍　氏　名
年　月　日生

（裏）

年　月　日
警察署（分）署長
官　氏　名　印

注意事項

一旅行途中宿泊セントスルトキハ警察官署ニ出頭シ認印ヲ受クヘシ
一途中天災疾病其ノ他ノ事故ニ依リ豫定ノ旅行ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受ケ行先地ニ到著シタルトキハ警察官署ニ提出スヘシ
一旅行中同一場所ニ一月以上滯在スルトキハ其ノ地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭スヘシ
一旅行ヲ止メ又行先地ニ到著シタルトキハ遲滯ナク此ノ旅券ヲ還納スヘシ
一此ノ旅券ヲ毀損亡失シタルトキハ速ニ所在警察官署ニ出頭具申スヘシ

認印表

警察署（分）署	同	同					
明治　年　月　日 府縣郡市區町村番地某方ニ宿泊 印							

第二號形（旅行者ニ交付スルモノ）　用紙寸法同上

假出獄者旅券

府縣郡市區町村番地（本籍地竝ニ假出獄後住居ノ地）
族籍　氏　名
年月日生

（表）

一罪名
一刑名刑期
一假出獄期間　年　月　日自明治　年　月　日至明治　年　月　日
一旅行許可　年　月　日
一旅行ノ事由
一行先地
一出發　年　月　日

（裏）

明治　年　月　日迄ニ（行先地）ニ到著シ同　年　月　日迄ニ歸著スヘシ
假出獄取締細則第六條ニ依リ此旅券ヲ交附ス

年　月　日

警察署（分署）長
官　氏　名　印

注意事項

一旅行途中宿泊セントスルトキハ警察官署ニ出頭シ認印ヲ受クヘシ
一途中天災疾病其ノ他事故ニ依リ豫定ノ旅行ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ其虞アルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受ケ歸著シタルトキハ警察官署ニ提出スヘシ
一旅行中同一場所ニ一月以上滯在スルトキハ其ノ地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭スヘシ
一旅行ヲ止メ又ハ歸著シタルトキハ遲滯ナク此ノ旅券ヲ還納スヘシ
一此ノ旅券ヲ毀損亡失シタルトキハ速ニ所在警察官署ニ出頭具申スヘシ

（裏面）

認印表

警察署（分署）	同	同				
明治　年　月　日 府縣郡市區町村番地某 方ニ宿泊 印						

第三雛形（帝國外旅行者ニ交附スルモノ）用紙寸法同上

假出獄者旅券（本旅券ノ效力ハ帝國內ニ限ルモノトス）

府縣郡市區町村番地（本籍地竝ニ假出獄後住居ノ地）

族籍　氏　名

年月日生

（表面）

一跟名

一刑名刑期

一假出獄期間　年　月　日自明治　年　月　日至明治　年　月　日

一旅行許可　年　月　日

一旅行ノ事由

一渡航先

一出發　年　月　日

一出發港

明治　年　月　日迄ニ（出發港）ニ到著スヘシ

假出獄取締細則第八條ニ依リ此旅券ヲ交附ス

年　月　日

警察署（分署）長

官　氏　名　印

注意事項

一旅行途中宿泊セントスルトキハ警察官署ニ出頭シ認印ヲ受クヘシ

一途中天災疾病其ノ他ノ事故ニ依リ豫定ノ旅行ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ其ノ處アルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受ケ出發港ニ歸著シタルトキハ警察官署ニ提出スヘシ

一旅行中同一場所ニ一月以上滯在スルトキハ其ノ地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭スヘシ

一旅行ヲ止メ又ハ出發港ニ歸著シタルトキハ遲滯ナク此ノ旅券ヲ其ノ地ノ警察官署ニ納附スヘシ

一此ノ旅券ヲ毀損亡失シタルトキハ速ニ所在地警察官署ニ出頭具申スヘシ

（裏面）

認印表

警察署（分署）	同	同				
明治　年　月　日 府縣郡市區町村番地某 方ニ宿泊 印						

第四雛形（用紙寸法適宜）

假出獄者滯在證明書

府縣郡市區町村番地（本籍地竝假出獄後住居ノ地）

族籍　氏　名

年　月　日生

一滯在ノ事由

一滯在ノ場所

一滯在地ニ到著シタル　年　月　日

一滯在期間

假出獄取締細則第三條ニ依リ此ノ證明書ヲ交附ス

年　月　日

警察署（分署）長

官　氏　名　印

●假出獄人取締標準ニ關スル件

（明治四十一年十月二十二日　保第三八六號ノ二）

假出獄人取締方ニ付テハ本年九月司法省令第二十五號假出獄取締細則及同年同月岐阜縣訓令乙第二十四號同乙第二十六號ヲ以テ規定セラレ居候處右ハ舊取締方ノ如ク酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルノ禁ヲ設ケス其旅行移轉又ハ警察官署ニ出頭スヘキ度數ニ付テモ大ニ之レカ制限ヲ寛メラレタルニ付テハ警察ノ視察ハ益嚴密ヲ要スルモノ可有之加該規定ノ内容中ニ於テ帝國外旅行ノ出願、監督委任者ノ選定、警察官署ノ必要訓示命令、生活狀態調査書ノ作成假出獄取消原因ノ注意ノ如キハ事體最モ重要ニ屬シ候ニ付左記標準ニ依リ取締上遺策ナキヲ期セラルヘク依命及通牒候也

一　假出獄人ノ取締ハ舊法特別監視ノ如ク表面上ヨリ形式的ノ制限ヲ加ヘ改悛ノ妨ケトナルヘキ監督方法ハ努メテ之ヲ避ケサルヘカラスト雖モ間接ノ方法ヲ用イテ一擧一動ヲ緻密ニ視察シ置キ正業ニ就キ善行ヲ保タシムヘキ訓示及命令ノ資料ニ供スヘシ

二　酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルハ正業ニ就キ善行ヲ保ツノ妨ケトナルヘキヲ以テ法ニ禁條ナシト雖モ自ラ之ヲ抑制スヘク戒飭シ營業上已ムヲ得サルカ近親故舊ノ情誼上辭シ難キ場合ノ外ハ之ヲ避ケシムヘシ

三　旅行移轉ノ制限ハ可成寛容ナルヲ要スルモ其出願事由ハ表裏ヨリ精密ニ取調ヘ苟モ不良ニ陷イルノ傾向アラハ嚴ニ之レカ監察ヲナスヘシ

四　毎月一回警察官署ニ出頭スルトキハ舊法監視ノ如ク徒ラニ出頭ノ認印ヲナスニ重キヲ置カス本人正業ノ經過計畫等ニ關シ誠實ナル陳述ヲナサシメ其言責ヲ重ンセシムル如ク指導スヘシ

五　帝國外旅行ノ出願アリタルトキハ特ニ嚴密ナル取調ヲナスヘキハ勿論尚移民保護法及外國旅行規則ニ依ル取調ヲモ爲シ右ニ關スル意見ヲ具シ進達スヘシ

（但シ北米合衆國ノ如キハ現ニ其移民定例ニ於テ刑餘ノ者ノ入國ヲ絶對的ニ拒絶スルヲ以テ特ニ注意ヲ要ス）

六　監督委任者ノ選定ハ其人格、資産、閲歴等ヲ精査シ充分之ヲ信託スルニ足ルヘシト認メタルモノニ限ルヘシ

七　警察官署ノ必要訓示命令ハ監督上察知セル事實ニ鑑ミ本人ノ怠慢ヲ戒メ非行ヲ矯メ以テ正業善行ヲ促スニ最モ的切ナラサルヘカラス故ニ其訓示ハ懇篤周到ニシテ其命令ハ嚴正著實ナルヲ要ス且ツ可成適當ナル親族、故舊又ハ德望アルモノノ立會ヲナサシムル等機宜ノ措置ヲナスヘシ

八　生活狀態調査書ハ檢事及監獄長ニ於テ改過遷善ノ程度ヲ察知シ社會ト監獄トノ連絡ヲ保ツニ便ナルノミナラス其效果ニヨリ治獄並ニ一般犯罪ノ豫防政策上極メテ重要ナル參考トナルヘキモノナレハ其作成ハ別載例ニ依リ最モ鮮明ナルヘク且ツ進捗時期ヲ遲滯スルカ如キコトナキヲ要ス

九　假出獄取消原因アルコトヲ知リタルトキハ其事實並ニ監督上察知セル素行ヲ詳記シ假出獄ヲ取消スヘキ必要アリヤ否ヤニ關シ意見ヲ付シ檢事ヲ經テ司法大臣ニ申報スヘシ

●假出獄又ハ假出場ニ關スル件

（大正二年六月十六日）
（保第五〇三五號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

警察官署ノ留置場ニ在ル受刑者又ハ勞役場留置者ニ對スル假出獄又ハ假出場具申ノ件ニ關シ別紙寫ノ通リ司法省監獄局長ヨリ通牒有之候旨岐阜監獄典獄ヨリ照會越候條留今右通牒ノ趣旨ニ依リ御取扱相成度依命此旨及通牒候也

別紙

（大正二年五月二十九日）
（司法省監甲第四一〇號）

監獄局長ヨリノ通牒

典獄ハ警察官署附屬ノ留置場ニ在ル受刑者又ハ勞役場留置者ニ付テモ情狀ニ因リ假出獄又ハ假出場ノ具申ヲ爲シ得ヘキ事勿論ナルモ爾今右樣ノ場合ニ於テハ當該警察官署ノ長モ亦直接司法大臣ニ對シ假出獄又ハ假出場ノ具申ヲ爲シ差支ナキ事ニ決定相成候條右樣御承知相成度此段及通牒候也

●刑務所釋放ノ受通知者取扱方ニ關スル件

（大正十二年六月十七日）
（保刑第一一五五號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

標記ノ件ニ關シ警保局長ヨリ別紙寫ノ通リ通牒ノ次第モ有之候條刑務所ヨリ受刑者釋放ノ通知ヲ受ケタル場合ハ右通牒ニ基キ適當ノ保護觀察ヲ爲シ一面指導誘掖ニ努ムル等社會同化ノ實績ヲ擧ケラルヘク此ノ旨及通牒候也

寫

內務省警警第三六號
大正十二年六月十三日

警保局長ヨリ知事宛

豫防警察上ノ參考ニ資スル目的ヲ以テ全國刑務所ニ於テ行刑ヲ終リ釋放セラルルニ當リ猶改悛ノ情認メ難キ者ニ關シ通報方司法省ニ交涉致居候處今般同省ヨリ別書ノ通リ回答有之候條釋放通知ヲ受ケタル者ニ對シテハ左記要項ニ基キ視察保護ヲ加フルト共ニ相互ニ聯絡ヲ確實ニシ刑事警察上ノ目的ヲ達成スルコトニ努メラレ候樣御配意相煩度右申進候

左　記

一　刑事要視察人釋放通知取扱方
(一)　刑務所ヨリ釋放通知書ヲ受ケタル警察官署ハ該通知書ヲ釋放者歸住地所轄警察官署ニ送付スルコト
(二)　釋放者歸住地所轄警察官署ハ刑事要視察人名簿ニ釋放通知書記載事項ヲ記入シタル上刑事要視察人トシテ視察保護ヲ加フルコト
(三)　(二)ノ第二項及(四)ノ場合ニ付キ亦同シ
(三)　釋放者歸住地ニ歸還セサルトキハ原籍地及關係者所在地所轄警察官署等ニ照會シ所在發見ニ努ムルコト

釋放者ノ所在ヲ發見シタルトキハ其ノ所在地所轄警察官署ニ該名簿ヲ送付スルコト

釋放者ノ所在不明ナルトキハ警察部ニ報告シ警察部ハ關係アル府縣ニ對シ捜査方ノ措置ヲ構スルコト

(四)　釋放者刑事要視察人名簿ニ記入後轉出シタルトキハ轉出先所轄警察官署ニ通報スルト共ニ其ノ名簿ノ寫ヲ送付スルコト

(五)　刑事要視察人ノ行動ニ付注意ヲ要スル事項ヲ發見シタル時ハ關係警察官署ニ聯絡ヲ採リ適當ノ措置ヲ講スルコト

(六)　刑事要視察人ノ身分關係ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ再ヒ罪ヲ犯シ檢擧セラレタルトキハ其旨ヲ關係警察官署ニ通報スルコト

二　刑事要視察人ノ視察方ニ關スル注意

(一)　釋放者中改悛ノ情認メ難キ者ハ通例職業的犯人、旅行的犯人タルヲ常トスルカ故ニ行刑當局ヨリ其ノ釋放ノ通知ヲ受ケタルトキハ豫防警察上相當ノ視察ヲ爲スト共ニ之ニ對シ必要ナル保護ヲ加ヘ是等ノ者ヲ社會ニ同化シ得ル樣指導誘掖ニ努ムルト共ニ若シ再ヒ社會ヲ侵害スル等ノ事實アルニ際シテハ其ノ害惡ノ未タ甚シカラサルニ先チ之ヲ防制スルコトニ努ムルコト

(二)　視察及保護方ニ就テハ別紙司法次官回答ノ二ノ(ロ)及大正六年十二月二十一日付內務省司警第三號出獄者視察ニ關スル依命通牒ヲ參照スルノ外地方ニ於ケル免囚保護事業者ト十分ノ連絡ヲ採ルコト

(三)　上級警察官吏ハ直接視察保護ノ任ニ當ル下級警察官ノ視察方ニ付十分ノ指導ト監督トヲ加フルコト

（大正十一年九月二十八日
司法省行刑局行甲第一四二四號）

司法次官ヨリ內務次官宛

受刑者釋放通知書送付ノ件

大正十一年三月三十日內務省發警第二八號ヲ以テ御照會ニ係ル首題ノ件ハ左記ノ通實施可致候

イ　釋放者中再ヒ罪ヲ犯ス危險性アリテ警察視察ヲ必要トスル者ニ限リ通知シ其ノ他ノ者ニ付テハ通知セサルコト但シ寫眞ハ目下撮影ノ設備整ハサルヲ以テ交付シ難シ

ロ　一般ニ釋放者ノ視察方法ニ付テハ從來往々遺憾ノ點有之例ヘハ巡査カ制服ニテ釋放者ノ所在訪問ヲ爲シ又ハ他人ノ前ニ於テ刑餘者タルヲ曝露スルコトアリ其結果折角改悛正業ニ從事セル者ヲシテ自暴自棄ニ陷ラシムル事例アリ仍テ前項以外ノ釋放者ニ付テハ從來ノ警察視察ノ方針ヲ改メ本人ノ社會同化ヲ害セサル程度ニ於テ間接ニ視察ヲ爲スハ格別表面ヨリ前科者トシテ特別視察ヲ爲ササル樣篤ト地方長官ニ對シ訓達相成タキコト

（大正十一年九月二十八日
司法省行刑局行甲第一四二四號）

司法大臣ヨリ監獄ヘノ訓令

禁錮以上ノ受刑者釋放ノ際ハ過去ノ經歷ト在監中ノ狀況ニ鑑ミ將來視察ノ必要アリト認メタル者ニ付テハ左記樣式ニ依リ之ヲ所在地ノ警察官署ニ通報スヘシ

(左記)

第　號

大正　年　月　日

警察(分)署御中

監獄(分監)
(出張所)

受刑者釋放通知

指紋番號		釋放ノ年月日	大正　年　月　日	本籍
罪名		犯罪及入監度數	犯度	出生地
刑名刑期		前科		歸住地
				氏名

身体ノ特徴		改悛ノ程度	生年月日
犯罪ノ常用手段			

記載例

一　前科欄ニハ前科ノ罪名及其ノ度數ヲ記載スヘシ

例ヘハ窃盗三、詐欺一トスルカ如シ

二　改悛ノ程度欄ニハ兇惡不良若ハ改悛ノ狀無シ又ハ改悛ノ狀稍有ルモ適當ノ保護者ナク罪ヲ犯スノ危險アリ等ノ類ヲ記載スヘシ

三　犯罪常用手段欄ニハ成ル可ク具体的ニ其ノ常用手段ヲ詳記スヘシ

●陸海軍監獄ニ於テ假出獄ヲ許サレタル者ニ關スル件

（明治四十一年十月二日　岐阜縣訓令乙第二十六號）

陸海軍監獄ニ於テ假出獄ヲ許サレ陸軍監獄令第二條又ハ海軍監獄令第二條ニ記載シタル身分ヲ失ヒタル旨ノ取締ニ關シテハ左ノ取扱ヲ爲スヘシ

第一　陸海軍監獄ニ於テ假出獄ヲ許サレ陸軍監獄令第二條又ハ海軍監獄令第二條ニ記載シタル身分ヲ失ヒタル者ハ其住所地ヲ管轄スル警察官署ニ於テ之ヲ監督スヘシ

第二　監督警察官署ニ於テ住所ノ移轉又ハ十日以上ノ旅行ヲ許可シタルトキハ旅券ヲ交付スヘシ但其ノ警察官署區域内ニ於ケル移轉ノ場合ハ此ノ限リニ在ラス

第三　監督警察官署ニ於テ旅券ヲ交付シタルトキハ移轉又ハ旅行ノ許可ヲ與ヘタルコトヲ證票ヲ交付シタル陸海軍ノ監獄長所轄地方裁判所檢事及移轉地ヲ管轄スル地方裁判所檢事ニ通報スヘシ

前項移轉ノ場合ニハ關係書類ヲ新ナル監督警察官署ニ送致スヘシ

第四　帝國外ニ旅行ノ許可ヲ請フ者アルトキハ監督警察官署ニ於テ事實ヲ調査シ意見ヲ付シ證票ヲ交付シタル陸海軍ノ監獄長ニ申請書ヲ回付スヘシ

第五　監督警察官署ノ管轄地外ニ在ル者ニ對シテハ所在地ノ警察官署ニ於テ注意シ取締上必要ノ事項ハ之ヲ監督警察官署ニ通報スヘシ

前項ノ警察官署ハ本人ノ申請ニ依リ證票ニ認印シ又ハ證明書ヲ交付スヘシ

第六　監督警察官署ハ本人ヲシテ正業ニ就キ善行ヲ保タシムル爲必要ナル訓示ヲ爲シ又ハ必要ナル行爲ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ヲ爲シタルトキハ證票ヲ交付シタル陸海軍人ノ監獄長ニ通報スヘシ

第七　監督警察官署ハ六月毎ニ本人ノ行狀ノ良否職業ノ種別及勉否生活ノ狀況親族トノ關係其他ノ事項ニ付調査書ヲ作リ之ヲ證票ヲ交付シタル陸海軍ノ監獄長及管轄地方裁判所檢事ニ通報スヘシ

第八　監督警察官署ニ於テハ本人ノ監督ヲ適當ナル親族故舊出獄人保護事業ニ從事スル者神官僧侶教師又ハ德望アル者ニ委任スルコト

第九　警察官署ニ於テ本人刑法第二十九條第一項ニ該當スルコトヲ知リタルトキハ意見ヲ具シ所轄地方裁判所檢事及證票ヲ交付シタル陸海軍ノ監獄長ヲ經由シテ陸軍大臣ニ申報スヘシ

第十　本人死亡シタルトキハ監督警察官署ハ證票ヲ交付シタル陸海軍ノ監獄長及所轄地方裁判所檢事ニ通報スヘシ

第十一　本規程ニ依リ交付スヘキ旅券及證明書ハ明治四十一年九月内務省訓令第九號假出獄取締細則ニ依リ交付スヘキ旅券及證明書ノ雛形ニ準スヘシ

第十二　證票ヲ交付シタル監獄長ハ海軍ニ在リテハ證票ニ旅行ニ關スル記載ヲ爲シタル監獄長トス

第十三　本規程ニ依ル假出獄者ノ名簿及身上調査書ノ樣式ハ本年訓令乙第二十四號ニ依リ名簿ハ尊通ノ假出獄者トロ別ケ

ヲ爲スヘシ

●假出獄少年取締規則

（大正十一年十二月十八日　司法省令第三十二號）

第一條　少年ノ假出獄ニ付テハ本令ニ定ムルモノノ外一般ノ例ニ依ル

第二條　假出獄ノ許可アリタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ少年審判所ニ通知スヘシ

第三條　假出獄少年ヲ釋放スル場合ニ於テハ其ノ觀察ヲ爲スヘキ少年保護司又ハ保護ヲ引受ケタル者ニ本人ヲ引渡スヘシ

第四條　假出獄少年ハ證票ニ記載セラレタル住居ノ地ニ到着ノ日ニ於テ證票ヲ少年保護司ニ呈示シテ認印ヲ受クヘシ

天災疾病其他ノ事故ニ因リ前項ノ規定ニ從フコト能ハサリシトキハ其ノ事由ヲ開示スヘシ

第五條　少年保護司前項ノ開示ヲ正當ナリト認メタルトキハ之ヲ證票ニ記載シテ認印ヲ爲スヘシ

第六條　假出獄少年住居ヲ變更シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サムトスルトキハ其事由、行先地及旅行ノ日數ヲ明ニシ少年保護司ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　假出獄少年外國ニ旅行ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由、行先地及旅行日數ヲ記載シ少年審判所ヲ經由シテ司法大臣ノ許可ヲ受クヘシ

少年審判所ハ事實ヲ調査シ意見ヲ附スヘシ

第八條　假出獄少年旅行地ヨリ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ速ニ少年保護司ニ屆出ツヘシ

第九條　假出獄ノ取消アリタルトキハ其ノ執行ヲ爲シタル刑務所ノ長ハ其ノ旨ヲ少年審判所ニ通知スヘシ

第十條　假出獄少年死亡シタルトキハ少年審判所ハ其ノ旨ヲ司法大臣ニ申報シ且證票ヲ交付シタル刑務所ニ通知スヘシ

附則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

少年審判所ノ管轄區域外ニ於テハ本令ニ定ムル少年審判所又ハ少年保護司ノ事務ハ刑務所又ハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

●假出獄少年取締規則附則第二項ニ依ル保護團體指定

（大正十二年二月二十二日　司法省告示第六號）

沿革　大正一三年一月司告第一號、一四年七月第二七號、一五年五月第一七號改正

假出獄少年取締規則附則第二項ニ依リ左記ノ保護團體ヲ指定ス

埼玉自疆會
千葉縣歸性會
栃木縣中央保護會
靜岡縣聯合保護會
長野縣佛教聯合會
奈良縣聯合保護會
埼正會
德島縣勸成協會
高知慈善協會
愛知自啓會
岐阜縣保護會
川越就實園
茨城縣聯合保護會
群馬縣佛教聯合保護會
山梨以德會
新潟縣聯合保護會
滋賀縣聯合保護協會
積善會
讃岐修齊會
海南救濟會
三重縣保護會
福井縣福田會

石川更新會
廣島縣聯合保護會
岡山縣保護聯合會
和光會
愛媛保護會
福岡縣聯合保護會
肥後慈惠會
鹿兒島縣保護協會
沖繩自警會
福島縣聯合保護會
米澤自覺會
秋田至仁會
北海道授産場
函館助成會
十勝自警會
樺太保護會
富山養得園
山口縣聯合保護會
鳥取縣給産會
島根縣授産會
佐賀縣恒産會
大分縣保護會
熊本自警協會
日州保護會
宮城縣聯合保護會
山形縣保護聯合會
巖手縣聯合保護會
青森縣佛教慈晃會
札幌大化院
網走慈惠院
釧路慈德會

（大正十二年七月五日司法省告示第十二號）

假出獄少年取締規則附則第二項ニ依リ左記ノ保護團體ヲ指定ス
旭川保護會

（大正十五年五月十三日司法省告示第十七號）

假出獄少年取締規則附則第二項ニ依リ左記ノ保護團體ヲ指定ス
長野縣佛教社會事業協會

第十六章　贓物、沒收品

●犯罪ノ用ニ供シタル物件及犯罪ニ因テ得タル物件ノ公告及保存還付方

（明治十五年五月十一日司法省達丙第二十號）

大審院裁判所
警視廳　府縣（東京府ヲ除ク）

犯罪ノ用ニ供シタル物件及犯罪ニ因テ得タル物件ハ本案ノ裁判ヲ言渡ス迄ニ所有主ヲ發見セサル時ハ刑法（第四十三條第四十四條）ニ從ヒ其本案ノ裁判ト共ニ沒收ノ言渡ヲ爲スヘシト雖モ右ノ物件ハ之ヲ其裁判所所在ノ地及犯罪ノ地ニ公告シ一年間公告シタル日ヨリ起算スニ所有主ヲ發見シタル時ハ檢察官ヨリ直ニ之ヲ還付スヘシ此旨爲心得相達候事

但檢察官ニ於テ保存スヘカラサル物件又ハ保存スルニ付費用ヲ要スヘキ者ト思料スル時ハ公賣ノ處分ヲ爲シタル上其代金ヲ保存シ置クヘシ

●質屋古物商ヨリ物品徵收ニ關スル件

（明治四十二年七月二十一日保親第二六號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

質屋取締法第十六條及古物商取締法第十七條ニ依リ警察官ニ於テ物品徵收上ノ弊害排除ニ關シ別紙寫ノ通リ內務省警保局長ヨリ通牒有之候條右之主旨ニ依リ措置相成度依命此段及通牒候也

質屋取締法第十六條及古物商取締法第十七條ニ依リ警察官ニ於テ徵收ヲ爲スニ際シテハ愼重ノ調査ヲ遂ケ實行相成居候儀ト存候處動モスレハ刑事巡査カ質商古物商ヲ壓迫スルノ利器ト爲リ爲ニ當業者ハ刑事巡査ニ贈賄シテ之カ迫害ヲ免ルルノ弊アルヤニ唱フル者有之流説信ヲ措クニ足ラサルハ勿論ニ有之候得共近頃刑事巡査ノ弊害ニ付テハ世間往々ノ非難モ有之多數巡査中是等不都合ノ行動ヲ敢テスル者有之ニ於テハ延ヒテ警察上各般ニ及ホスノ影響尠カラサルヘク憂慮致居候旁々事ノ愼重ヲ期スル爲本件徵收處分ヲ爲スニ當リテハ警察署長又ハ分署長自ラ調査ヲ爲シ不在等事情全ク已ムヲ得サル場合ニ於テ始メテ其ノ代理者ヲシテ之ニ當ラシメ巡査特ニ刑事巡査ニ放任スルカ爲事實上殆ント其ノ獨斷ヲ以テ臨機處分スルカ如キコトナク尙ホ營業者ト被害者トノ間ニ於テ物品ノ授受ヲ爲サシムル場合ニ於テモ其ノ間ニ刑事巡査ヲ關與セシムルコトナキ樣致度又盜品以外ノ贓品ハ盜品ト關リ比較的犯罪事件複雜ニ涉リ居候爲贓品ナルヤ否ヤ之ヲ判別スルコト容易ニ無之其ノ單ニ犯罪ノ嫌疑アルモノニシテ贓品タルコトヲ確認スル能ハサル物品ニ對シテハ別ニ質屋取締法第十五條古物商取締法第十三條ニ於テ必要ニ應スルノ規定ニ有之候間徵收還付ノ處分ヲ行フハ警察官ニ於テ贓品トシテ確實ナル場合ニ於テノミ之ヲ爲シ得ルモノニ有之將又徵收還付ハ司法上ノ假下ケ處分ト異ニシテ本還付ニ屬スルモノナルヲ以テ一旦處分ヲ爲シタル物品ハ他日判決言渡ノ爲變更ヲ生シ候樣ノコト無之ヲ要スル義ト存候間處分上誤ナカラシムル爲盜品ニシテ確認シ難キモノ及盜品以外ノ贓品ハ判決確定後ニ於テ徵收還付ノ處分ヲ爲スヲ得セシメラレ度尙盜品遺失物ニシテ民法第百九十四條ニ該當スル場合ハ公ケノ市場又ハ同種ノモノヲ販賣スル商人ヨリ正當ノ方法ニヨリ善意ニ之ヲ買取リケルモノニ有之假令取締法上民法ノ規定ニ關セス徵收シ得ルトスルモ商取引ノ安全ヲ沮害スルコト不少儀ト被存候ニ付便宜警察官ニ於テ被害者ニ通知ノ方法ヲ採リ占有者トノ間ニ相當措置ヲ了セシメ候事ニ致度依命此段及通牒候也

（明治四十二年七月十七日　内務省秘甲第七四號）

警保局長ヨリ知事宛

●犯罪用物件及贓物假ニ所有主ニ交付ノ件

（明治十五年六月二十六日　司法省達第二十四號）

大審院　裁判所　警視廳
府縣（東京府ヲ除ク）（東京憲兵本部）

犯罪ノ用ニ供シ又ハ犯罪ニ因リ得タル物件ハ轉轉シテ他人ノ手ニ在リ及ヒ没收スヘキモノ若クハ證憑ノ爲メ官ニ保存シ置クヲ必要トスルモノヲ除クノ外ハ裁判官（檢察官）司法警察官ニ於テ實際ノ便宜ニ因リ裁判言渡アルマテ其ノ所有主ヘ假ニ之ヲ下渡シ置クコトヲ得ヘシ此旨爲心得相達候事

●明治四十二年法律第三十九號第五條ノ官没ノ件

（明治四十二年四月二十八日　内務省令第十三號）

明治四十二年法律第三十九號第五條ノ官没ハ警察署長若ハ警察分署長ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ
（前項警察署長若ハ警察分署長ノ職務ハ樺太ニ在テハ樺太廳支廳長若ハ支廳出張所長之ヲ行フ）

●僞造變造ノ印紙等ノ官没處分取扱ノ件

（明治四十二年五月五日　岐阜縣訓乙第百三十六號）

明治四十二年四月法律第三十九號第五條及同年四月内務省令第十三號ニ依リ僞造變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章又ハ消印ヲ除去シタル印紙ノ官没ヲ爲ストキハ左記樣式ノ命令書ヲ作製交付シ官没セシ物件ハ之ヲ警察部ヘ送致スヘシ

（様式）

命令書

一何々　何枚

住所
氏名
生年月日

右明治四十二年法律第三十九號第五條ニ依リ官没スルモノ也

何警察（分）署長
官氏　名印

明治　年　月　日

●賍物等官ニ於テ領置中遺失及盗難ニ係リタルトキ賠償處分方

（明治十四年三月四日司法省達丙第六號）

賍物等官ニ於テ送致中途又ハ領置中遺失及ヒ盗難ニ罹リタルトキ賠償處分ノ義ニ付甲號ノ通岩手縣ヨリ伺出太政官ヘ伺ノ上乙號ノ通及指令候條之レニ牴觸スル從前ノ指令ハ取消候爲心得此旨相達候事

（甲號）

領置中ノ金品盗難ニ罹リタル處分方ノ義ニ付伺

一　竊盗等ノ贓金及罪囚ノ所持金ヲ官廳ニテ領置中盗難ニ罹リ其盗犯捕ニ就クモ資力ナキ時ハ固ヨリ事主ノ損失ニ歸スヘキ筋無之ニ付官之ヲ辨償スヘキ哉

二　前條盗難ニ罹リタル形跡明瞭ニシテ盗犯未タ捕ニ就カス又ハ該金品ヲ送置途中遺失シタルニ其證據顯然シテ未タ得者ノ無之如キハ其監守者ハ相當ノ處分ニ及ヒ事主ヘハ官ヨリ之ヲ辨償ス可キ哉

右處分方ニ疑義ヲ生シ候ニ付至急御指令有之度此段相伺候也

（乙號）

爾條共伺之通

●官没物件破毀ノ件

（明治三十八年三月二十日内務大臣訓令第一九四號）

明治三十八年法律第六十六號第十條ノ官没ニ關シ今般第二號ヲ以テ�major令發布候處右官没ニ係ル物件ヲ破毀セントスルトキハ證據物件湮滅ノ虞アルヲ以テ豫メ檢事ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

参照

本日省令第十三號ヲ以テ明治四十二年法律第三十九號第五條ノ官没手續ノ件發布候處右官没ニ係ル物件ヲ破毀セントスルトキハ明治三十八年三月訓第一九四號ニ準據シ取扱ヲ爲サシムヘシ

（明治四十二年四月二十八日内務省訓令第二二〇號）

第十七章　報告、通知

●犯罪事件報告ニ關スル件

（大正十年八月一日
保第七七四八號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

爾今左記罪質ニ該當スル犯罪中世ノ視聽ヲ聳動スルニ足ル重要異例ト認ムヘキ事件ニ付テハ犯人逮捕ト同時ニ其顛末別紙ニ記入報告相成度及通牒候也

追テ事件久シキニ亘ル場合ハ遺忘若クハ主任者交迭等ノ爲メ後日報告用紙記入上支障ヲ來ス懼ナキヲ保シ難キニ付キ犯罪事實ノ概要、犯罪事實ノ端緒、及當初ニ於ケル捜査方針、本件ニ於ケル犯罪捜査ノ基礎資料竝ニ其ノ調査ノ狀況等ノ各欄ニシテ事件發生ト同時ニ記入シ得ル事項ハ其都度記入シ置キ犯人逮捕後其他ノ諸欄ヲ調査記入ノ上進達シ處分結果ハ追報スル樣御取扱相成度申添候

左記

一　騷擾罪
二　放火罪
三　殺人罪
四　强盜罪
五　强姦罪
六　其他

（別紙）

（表）

年　廳府縣　事件

犯罪人氏名	身分	綽名又ハ異名	罪名	號番類分

本籍		出生地	
住所		生年月日	

教育程度		生育	重ナル親族關係
素行		特技	職業ノ經歷
嗜好			現在生計ノ基礎
信仰			

前科	其他ノ特徴	身體容貌長格髭髯色 頭髮面眼口鼻耳音聲語 習慣調 歩 肥中痩
		指紋番號 No.＿＿＿＿

人相書

注意（一）上欄…年…廳府縣…事件ハ索出ノ便宜ニ供スルモノナルカ故ニ發生廳府縣及ヒ廣ク世ノ視聽ニ觸レタル名稱ヲ附セラレタシ例ヘハ大正九年大阪府六反池首無事件

（二）犯罪人複數ノ場合ニハ各自ニ付キ本紙一枚ヲ作成シ足ラサル分ハ補充報告用紙ヲ用ヒ一綴リトナシテ送付セラレタシ

（裏）

犯罪事實ノ概要	犯人常用手段
犯罪事實認知ノ端緒	當初ニ於ケル捜査方針及犯人逮捕迄ノ經過
本件ニ於ケル犯罪捜査ノ基礎資料竝其ノ調査ノ狀況	金錢費消ノ用途及贓物ノ處分
	本件檢擧ノ殊勲者及其殊勲ト認メラレタル要點
犯罪動機	
寫眞筆蹟其他ノ有無及其所在	
備考	處分結果

大正　年　月　日　係署ニ於テ作成　事件取扱主任者官氏名

（表）

廳府縣	犯罪ノ種類

告報罪犯例異要重

事件發生ノ日時	事件發見ノ日時	事件發生ノ場所	犯罪事件ノ大要

（裏）

特徴アル被害金品ノ概要	搜査ノ基礎資料竝ニ搜査方針	特徴ナキ被害金品ノ大要	其他ノ參考事項	所轄警察官署	此報告作成年月日及ヒ作成者	受命刑事警察官

即報例

一 職業的旅行的犯人ノ所爲ト認メラルル犯罪（强盜、竊盜、詐欺、橫領贓物ニ關スル罪ニ付キ）

二 手段巧妙ナル犯罪及模倣者ノ續出ス新ニシテ模倣ア犯罪

三 重要ト認ムル犯罪

刑法第二編罪

皇室ニ對スル罪

內亂ニ關スル罪

外患ニ關スル罪

國交ニ關スル罪

公務ノ執行ヲ妨害スル罪

騷擾ノ罪

放火ノ罪

通貨僞造ノ罪

有價證券僞造ノ罪

殺人ノ罪

傷害（除輕微）ノ罪

其他重要ト認ムルモノ

（表）

補充報告用紙（原報告用紙ニ記入シ能ハサル部分ニ付キ事項欄ヲ便宜ニ割シ記入スルコト）

關スル事件															

（裏）

補充報告用紙（原報告用紙ニ記入シ能ハサル部分ニ付キ事項欄ヲ便宜ニ割シ記入スルコト）

關スル事件															

●刑事ニ關スル要視察人報告方ノ件

（明治四十二年三月十九日　指示第三號）

刑事ニ關スル要視察人ニシテ臺灣ヘ移住又ハ旅行ヲ爲シタル者アルトキハ左ノ區別ニ從ヒ即時報告セラルヘシ

一　素行視察簿謄本添付移住先移轉ノ目的出發月日家族其他同行者氏名住所年齢等（移住セシトキ）

一　住所本籍氏名年齢人相特徴旅行先ノ目的出發月日同行者住所氏名年齢及犯罪特技其他視察上必要事項ノ概要等（旅行セシトキ）

●有爵位帶勳者犯罪具申方

（明治三十五年四月　司法省民刑第八〇五號）

內閣總理大臣ヨリ別紙之通リ通達アリタルニ付キ勅任官有爵者從四位勳三等又ハ功三級以上ノ者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタルトキハ當該檢事局ノ長ハ該通達ノ趣旨ニ從ヒ犯人ノ身分氏名及犯罪ノ事實ヲ當省ニ具申スヘシ

明治十五年當省丙第十一號達同十六年丙第二號達及明治二十八年民刑乙第五六九號訓令ハ之ヲ廢止ス

右訓令ス

（別紙）

勅任官有爵者從四位勳三等功三級以上ノ者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタルトキニ限リ奏聞シタル後起訴シ其現行犯罪ニ係ルモノハ起訴シタル後奏聞スヘシ

明治三十五年四月十一日　　內閣總理大臣伯爵　桂　太郎

●敍功者犯罪取扱方

（明治二十八年十月　訓第二六八號）

敍功者犯罪取扱方ハ勳六等以上ノ者ト同一ニスヘシ

●醫師犯罪等通知ニ關スル件

（明治四十年四月十六日　通達衞第二二四九號）

醫師犯罪等通知ノ件ニ付司法大臣ヨリ左記ノ通リ各裁判所ヘ訓令相成タル旨其筋ヨリ通牒有之候條此旨心得ラルヘシ

衞發第三六號之內

醫師犯罪等通知之件ニ付司法省ト協議ノ末司法大臣ヨリ別紙之通各裁判所ヘ訓令相成候ニ付右御了知相成度此段及通牒候也

明治四十年四月十五日　　內務省衞生局長　窪田靜太郎

別紙

司法省民刑甲第二二號　　裁判所

明治二十四年二月刑甲第五二號ヲ以テ醫師ノ業務ニ關スル犯罪通知之件及訓令置候處今般內務大臣ヨリ協議ノ次第モ有之候ニ付爾今醫師ニシテ左記各號ニ該當スル場合ニ於テハ裁判確定ノ上宣告書謄本相添直接犯人住居地ノ地方長官ヘ通知ス可シ

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者

三　禁治產準禁治產ノ宣告ヲ受ケタル者又ハ其取消ノ宣告ヲ受ケタル者

右訓令ス

明治四十年四月八日　　司法大臣　松田正久

●醫師、齒科醫師及藥劑師犯罪アリタルトキハ左記事項ヲ具シ報告ノ件

（明治四十五年三月指示第二號）

明治三十八年十月指示第三十四號ハ之ヲ廢止ス

一　住所氏名年齢
二　罪名竝犯罪事實ノ要領
三　檢事ヘ送付ノ月日若ハ即決言渡ノ月日
四　行政處分ヲ要スル事由及意見（若シ行政處分ヲ要セサル意見ナルトキハ其事由）
五　其處爲ノ動機（假令ハ一定ノ報酬ヲ得ンカ爲メナルカ又ハ情義ノ結果ナルカ）
六　其處爲ノ影響（主トシテ公衆衞生ノ上ニ及ホシタル影響ヲ云フ假令ハ傳染病ヲ隱蔽シタル爲メ一部落ニ傳播シタルカ如キヲ記スコト）
七　素行
八　附近同業者ノ有無多少等
九　其他必要ナル事項

●醫師ノ犯罪ニ關スル報告ノ件

（明治三十年九月十日指示第三九號）

醫師其業務ニ關スル犯罪即決例ニ依リ處斷シタルトキ報告方ニ付明治二十七年四月指示警發第一四三號同二十八年八月指示第十四號ヲ以テ及指示置タル處自今其罰金以上ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ニシテ司法處分ニ付シタルトキハ其罪名竝犯罪名竝犯罪事實ノ要領檢事ヘ送付月日等ヲ詳記シ報告スヘシ

●軍人（違警罪）處分通報ニ關スル件

（明治十六年八月七日司法省達丙第六號）

陸軍常備下士卒服役中ノ者（違警罪）ヲ犯シ其處分ヲ爲シタル節ハ其人名罰科ヲ詳記シ其都度本人所管（隊附ナレハ該隊長）ヘ速ニ通報可致此旨相達候事

●鐵道妨害事故報告方ニ關スル件

（大正十五年六月九日警保局警發甲第八七號）

警保局長ヨリ各廳府縣長官宛

本件ニ付テハ大正十三年三月十七日警發乙第四五八號通牒ニ依リ時々御報告相成居候處今回ハ其ノ事故ノ比較的重大ニシテ交通上保安上又ハ搜査留意ヲ要スルト認メラルモノニ止メラレ度極メテ輕微ノ事件例ハ惡戲ニ出テタル列車ノ投石又ハ醉漢カ線路内ニ立塞リ居タルモノノ如キ事故ニ付テハ御報告ニ不及廳府縣間ノ通報ニ付テモ同樣ノ事項ニ付特ニ必要ナキ限リ之ヲ爲ササル樣致度右申進候

●既決犯罪通知取扱規程

（大正十四年二月二十五日日記第四五四號）

檢事正ヨリ檢事局各警察官署長宛

既決犯罪通知取扱規程別紙ノ通改正ス

第一條　地方裁判所檢事局ニ於ケル其ノ管内在籍者ニ對スル既決犯罪ノ通知ハ本籍地役場（市ニ付テハ市役所又ハ區役所以下同シ）宛ノ通知書一通ヲ作成シ之ヲ所轄區裁判所檢事局ニ送付スヘシ

犯人ノ本籍地其ノ管轄區域外ナルトキハ通知書二通ヲ作成シ一通ハ本籍地役場ニ直送シ一通ハ之ヲ所轄地方裁判所檢事局ニ送付スヘシ

第二條　區裁判所檢事局ニ於ケル其ノ所屬地方裁判所管内在籍者ノ既決犯罪通知ハ通知書二通ヲ作成シ一通ヲ地方裁判所

檢事局ニ送付シ一通ハ之ヲ本籍地役場宛トナシ所轄區裁判所檢事局ニ送付スヘシ但シ自廳ノ管内在籍者ナルトキハ直チニ之ヲ所轄警察署(警察分署ヲ含ム以下同シ)ニ送付スヘシ

受刑者所屬地方裁判所管轄區域外ノ在籍者ナルトキハ前條第二項ニ準シ通知ヲ爲ス外尚所屬地方裁判所檢事局ニモ通知ヲ爲スヘシ

第三條　區裁判所檢事局ヨリ所屬地方裁判所檢事局ニ既決犯罪通知ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其ノ犯罪カ初犯ナルトキ又ハ受刑者カ所屬地方裁判所若ハ其ノ管内區裁判所(支部ヲ含ム)以外ノ裁判所ニ於テ受刑シタル前科者ナルトキハ通知書ニ代ヘ犯罪人名簿ノ寫ヲ送付スヘシ

第四條　少年ニ對シ死刑又ハ無期刑以外ノ刑ノ言渡確定シタル場合ニ於テモ本籍地役場ヲ除ク外前三條ニ準シ其ノ通知ヲ爲スヘシ

第五條　法人ニ付テハ其ノ事務所々在地ヲ又本籍詳ナラサル受刑者ニシテ住所アルモノニ付テハ住所地ヲ各其ノ本籍地ト看做シ前數條ニ依リ通知ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ役場ニ對スル通知ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第六條　外國人又ハ本籍、住所詳ナラサルモノニ對シ區裁判所ニ於テ言渡シタル刑ノ既決犯罪通知ヲ所屬地方裁判所檢事局ニ對シテノミ之ヲ爲スヘシ

第七條　檢事局ニ於テ他ノ檢事局ヨリ既決犯罪ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク犯罪人名簿ニ登錄ノ手續ヲ爲シ遲クモ三日以内ニ地方裁判所檢事局ハ區裁判所檢事局ヘ區裁判所檢事局ニ於テ管内區裁判所檢事局ヨリ受ケタル通知書ハ之ヲ同送スルコトヲ要セス

第八條　警察署ニ於テ檢事局ヨリ既決犯罪通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク犯罪人名簿ニ登錄ノ手續ヲ爲シ三日以内ニ其ノ通知書ヲ本籍役場ニ送付スヘシ

本籍地役場宛ニアラサル通知書ハ之ヲ警察署ニ保存スヘシ

第九條　警察署ニ於テ管内前科者ノ死亡、轉籍、改名其ノ他前科者名簿ノ變更抹消ヲ要スヘキ事項アルコトヲ認知シタルトキハ所轄區裁判所檢事局ヲ經由シテ之ヲ地方裁判所檢事局ニ通報スヘシ

第十條　第七條、第八條ノ規定ハ恩赦ノ通知書ノ取扱ニ之ヲ準用ス

第十一條　受刑ニ因リ公權ヲ停止若ハ剝奪セラレ又ハ恩赦ニ因リ公權ヲ回復シタル場合ニ於テ特ニ急演其ノ事實ヲ本籍役場ニ通知ヲ要スル事情アルトキハ本規定ニ依ラス機宜ノ方法ニ依リ速ニ其ノ通知ヲ爲スヘシ

附　則

第十二條　明治二十九年八月七日日記第四、八七六號岐阜縣地方裁判所管内處刑手續ハ之ヲ廢止ス

●家出人手配方報告ニ關スル件

(大正九年八月十八日　保第八二三號通牒)

警察部長ヨリ各警察官署長宛

從來家出人ノ手配方ニ關シテハ各署ノ報告或ハ他府縣ノ通知ニ基キ通牒致來リ候處之レカ爲メ發見スルモノ極メテ稀ニシテ事務多端ノ折柄反ツテ繁雜ヲ來シ候條將來各署ヨリノ報告ハ最初所在捜査方願出ノ際大体其立廻リ先ヲ問ヒ其署ヨリ直接先方ノ警察官署ニ照會シ其立廻リ先カ數ケ所ニ跨ル場合ニ限リ報告スルニ止メラレ度此段通牒候也

追而報告ノ際ハ大体ノ立廻リ先ヲ記載相成度申添候

●觀光人員調査ノ件

(明治四十年七月二十六日　通達警第八六一五號)

警務長ヨリ岐阜、高田署長宛

毎年五月十日(高田署ハ七月一日)ヨリ拾月十五日(高田署ハ十月三十一日)ニ至ル間其署部内長良川鵜飼、養老ノ瀑布觀光ノ爲メ來遊スル人員一旬毎ニ調査ヲ遂ケ左記表式ニ據リ報告セラルヘシ

追テ本通達發令前ニ於ケル人員ハ此際取調ヲ爲シ旬別ニ記入シ一表トシテ報告セラルヘシ

自明治　年　月　日
至同　年　月　日　觀光人員調査表

署

名印

所名 ＼ 種目	皇族		華族		外國人		其他		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女

備考

一　皇族華族竝ニ內外知名紳士ニ限リ其氏名及團名等備考欄ニ記入スルコト

一　外國人ハ凡テ其國籍別ヲ併セ備考欄ニ記入スヘシ假令ハ英國何人獨乙國何人米國何人等ト記スカ如シ

一　一ヶ月三十一日ノ月ニ限リ其下旬ノ報告ハ末日トス

●觀光人員報告方ノ件

（明治四十一年六月五日
通達警第六六二一號
警務長ヨリ岐阜、高田兩署長宛）

客年七月二十六日附通達警第八六一五號ヲ以テ毎年五月十日（高田署ハ七月一日）ヨリ十月十五日（高田署ハ十月三十一日）ニ至ル間其管部內鵜飼（高田署ハ養老瀑布）ノ觀覽ノ爲メ來遊スル人員一旬毎ニ報告セラルヘク通達致置候處自今月別調査報告セラルヘシ

●觀光人員調査報告方ノ件

（大正十二年八月十三日
保第五五五四號通牒）
警察部長ヨリ岐阜、高田兩署長宛

明治四十年七月二十六日附警第八六一五號ヲ以テ通達ニ係ル觀光人員ハ同四十一年六月六日附警第六、六二一號通達ニ依リ爾來毎月報告相成居候ヘ共該調査表ハ今後毎翌月十日迄ニ當部着ノ見込ヲ以テ報告相成度此段及通牒候也

第十八章　雜

●學校盜難豫防警戒ニ關スル件

（大正六年六月十二日
保第五四二七號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

縣下各學校ニ於ケル盜難被害事件ハ漸次增加ノ傾向ヲ來シ之レカ檢擧ハ漸ク困難ヲ感スルニ至レリ今試ミニ前三年間ノ實況ヲ見ルニ大正三年中ハ被害七件ニ對シ檢擧六件大正四年中ハ被害二十五件ニ對シ檢擧十一件大正五年中ハ被害三十三件ニ對シ檢擧七件ノ不成績ニ有之本年ハ一層被害增加ノ傾向ヲ示シ甚タ憂慮スヘキ狀況ニ有之候本件ニ付テハ客年六月二十日附保第五八〇〇號通牒ノ次第モ有之豫防警戒上相當措置セラレツツアルコトハ相信シ候處猶前記ノ實況ニ鑑ミ各關係者ト夫々協議ヲ遂ケ一面寄宿舍等ニ多額ノ金員又ハ貴重ノ物品ヲ置カサル樣注意スルト同時ニ宿直等ヲ嚴密ナラシメ一面豫防檢擧上一層努力シ被害ヲ減少シ檢擧ノ實効ヲ奏スヘク相當措置相成樣致度此旨及通牒候也

●徵兵令違反者取締ニ關スル件

（大正八年六月二十三日
保第四五八二號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

徵兵令違反者ノ檢擧ヲ一層便ナラシムル爲メ左記ノ所爲アリタル場合ハ何レモ現行犯トシテ取扱度旨ヲ以テ金澤憲兵隊長ヨリ協議ノ次第有之其筋トモ打合セノ結果異存無之旨回答致置候處右ハ機宜ヲ得タル取扱ト認メラルルヲ以テ前記金澤憲兵隊ノ所管飛驒三郡ハ勿論縣下一般ニ將來右方針ニ基キ取扱候樣致度此旨及通牒候也

追テ本件ニ付テハ當該檢事正ヨリ管內各檢事ヘモ夫々通牒セラレタル筈ニ付相當打合セヲ遂ケ違算ナキヲ期セラルヘク爲念申添候

記

一　徵兵適令者檢査場ニ於テ徵兵令第三十一條ノ徵兵ヲ免ルル目的ヲ以テセラレタル身體毀傷、疾病ノ作爲、其他詐欺ノ所爲カ現ニ行ハレタル場合ハ勿論、身體毀傷、疾病ノ作爲、其他ノ詐欺行爲カ徵兵檢査ヲ受クル以前ニ於テ行ハレタル場合ト雖該行爲ヲ手段トシテ之ヲ以テ恰モ他ノ原因ニ基キタル如ク裝ヒ現ニ檢査ニ當リ徵兵官ノ合否裁決上判定ヲ誤認セシメントスル意志ノ下ニ行ハレタル詐欺的行爲アリタル場合但シ徵兵ヲ免ルル目的ヲ以テ爲サレタル身體毀傷、疾病ノ作爲、其他詐欺ノ所爲カ徵兵檢査ヲ受クル以前ニ於テ既ニ行ハレタルモノニシテ且繼續意志ノ實行ナキモノ例ヘハ檢査當日受檢前自首シタルカ如キモノハ之ヲ除外ス

參照

徵兵令第三十一條　兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヰタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

●森林火災取締ノ件

（大正八年十月十三日日記第三九八七號通牒）

岐阜北方裁判所檢事正ヨリ警察部長宛

森林火災ハ通常其災害ノ及フ處廣大ナルヲ以テ放火又ハ失火ノ事犯アル場合ニ於テハ嚴重處罰ノ必要有之候處放火ニ付テハ森林法ニ特別規定アルモ失火ニ付テハ其規定ナキヲ以テ刑法ニ依ルノ外ナク而テ公共危險ノ點ニ付テハ接續セル他人ノ山林ニ延燒ノ虞アリ消防夫ノ出動アリタル場合ノ如キハ其條件存スルモノト認ムヘキ儀ト思考致候ニ付將來右ニ據リ處置相成度候

●書類代書ノ件

（大正八年十二月二十七日日記第五二〇四號通牒）

岐阜地方裁判所檢事正ヨリ各警察官署長宛

本年四月法律第四八號司法代書人法去九月十五日ヨリ施行セラレ候ニ付テハ警察署ヲ經由シ裁判所又ハ檢事局ヘ宛テ提出スヘキ書類ノ代書ニ付テモ同法ニ依據スル樣御取計相成度候

昭和一年六月二十九日印刷
昭和二年七月三十日發行

不許複製

編纂者　岐阜縣警察部

發行兼印刷者　岐阜縣本巢郡北方町
株式會社啓文社
代表者　村田憲治

印刷所　大阪市南區東賑町
株式會社啓文社工場

發行所　（本社）岐阜縣本巢郡北方町
電話二六、振替東京二一五一
（工場）大阪市南區東賑町一八
電話東四〇七番
株式會社　啓文社

非賣品

加除自在

岐阜縣警察法規類聚

編別一覽表

第一編　警務
第二編　會計
第三編　保安
第四編　高等
第五編　刑事
第六編　工場
第七編　衛生

加除自在

岐阜縣警察法規類聚

岐阜縣警察部編纂

株式會社　啓文社發行

第六編

工場

目次

第六編　工場

○工場法……明四四　法律　四六　一
○改正工場法施行期日ニ關スル件……大一五　勅令　一五二　五
○工場法施行令……大五　勅令　一九三　五
○工場法施行規則……大一五　農商令　一九　一八
○工場法施行細則……大一五　鑛令　四〇　三五
○工場法規適用ニ關スル件……大一七　鑛告　一〇五　五七
○工業主指導ノ件……大一五　工[illegible]　五〇〇五　五八
○職工交替休日取締ノ件……昭二　工令　一七六二　五九
○工場附屬寄宿舍規則……昭二　內令　二六　六〇
○工業勞働者最低年齡法……大一二　法律[illegible]　三四　六二
○工業勞働者最低年齡施行規則……大一五　內令　一四　六五

○工業勞働者最低年齡法實施ニ關スル件……大一五　勅令　四一　六七
○工場法及工業勞働者最低年齡法施行心得……大一五　勅訓甲　八八　六七
○工場法規（及工業勞働者最低年齡法）解釋例規……　七一
○工業場並原動機取締規則……大一五　勅令　一五〇　一六九
○工業場並原動機取締規則施行心得……大一五　勅訓甲　一五八　一八四
○勞働者募集取締令……大一三　內令　三六　一九〇
○勞働者募集取締令施行細則……大一四　勅令　七　一九九
○勞働者募集取締令執行心得……大一四　勅訓甲　九　二〇一

第六編　工場

●工場法

（明治四十四年三月二十九日法律第四十六號）

沿革　大正一二年法律第三三號改正

第一條　本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル工場ニ之ヲ適用ス

一　常時十人以上ノ職工ヲ使用スルモノ

二　事業ノ性質危險ナルモノ又ハ衞生上有害ノ虞アルモノ

本法ノ適用ヲ必要トセサル工場ハ勅令ヲ以テ之ヲ除外スルコトヲ得

第二條　（削除）

第三條　工業主ハ十六歲未滿ノ者及女子ニシテ一日ニ付十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ノ主務大臣ハ業務ノ種類ニ依リ本法施行後十五年間ヲ限リ前項ノ就業時間ヲ二時間以內延長スルコトヲ得

就業時間ハ工場ヲ異ニスル場合ト雖前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ通算ス

第四條　工業主ハ十六歲未滿ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ午後十一時迄就業セシムルコトヲ得

第五條及第六條（削除）

第七條　工業主ハ十六歲未滿ノ者及女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ、一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ於テ設クヘシ

前項ノ休憩時間ハ一齊ニ之ヲ與フヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

夏季ニ於テ二時間ヲ超ユル休憩時間ヲ設クル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ超ユル時間以內就業時間

ヲ延長スルコトヲ得但シ其ノ延長時間ハ一時間ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條　天災事變ノ爲又ハ事變ノ虞アル爲必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ事業ノ種類及地域ヲ限リ第三條、第四條及前條ノ規定ノ適用ヲ停止スルコトヲ得

避クヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ期間ヲ限リ第三條ノ規定ニ拘ラス就業時間ヲ延長シ、第四條ノ規定ニ拘ラス十六歳以上ノ女子職工ヲ就業セシメ又ハ前條ノ休日ヲ廢スルコトヲ得

臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ都度豫メ行政官廳ニ屆出テ一月ニ付七日ヲ超エサル期間就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得

季節ニ依リ繁忙ナル事業ニ付テハ工業主ハ一定ノ期間ニ付豫メ行政官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ期間中一年ニ付百二十日ノ割合ヲ超エサル限リ就業時間ヲ一時間以内延長スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ認可ヲ受ケタル期間内ハ前項ノ規定ヲ適用セス但シ急速ニ腐敗シ又ハ變質スル虞アル原料又ハ材料ノ損害ヲ防ク爲必要ナル場合ニ於テハ繼續四日以上ニ亙ラス且一月ニ付七日ヲ超エサル限リ行政官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

第九條　工業主ハ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危險ナル部分ノ掃除、注油、檢査若ハ修繕ヲ爲サシメ又ハ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取附ケ若ハ取外シヲ爲サシメ其ノ他危險ナル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十條　工業主ハ十六歳未滿ノ者ヲシテ毒藥、劇藥其ノ他有害料品又ハ爆發性發火性若ハ引火性ノ料品ヲ取扱フ業務及著シク塵埃、粉末ヲ飛散シ又ハ有害瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務其ノ他危險又ハ衞生上有害ナル場所ニ於ケル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十一條　前二條ニ掲ケタル業務ノ範圍ハ主務大臣之ヲ定ム

前條ノ規定ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ十六歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用スルコトヲ得

第十二條　主務大臣ハ病者又ハ産前産後若ハ生兒哺育中ノ女子ノ就業ニ付制限又ハ禁止ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條　行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工場及附屬建設物竝設備カ危害ヲ生シ又ハ衞生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ工業主ニ命シタル事項ニ付必要ナル事項ヲ職工又ハ徒弟ニ對シ命スルコトヲ得

第十四條　當該官吏ハ工場若ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢シ又ハ就業ノ禁止制限ヲ爲スヘキ疾病若ハ傳染ノ虞アル疾病ニ罹レル疑アル職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

第十五條　工業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ職工カ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ

第十六條　職工徒弟、職工徒弟タラムトスル者若ハ工業主又ハ其ノ法定代理人若ハ工場管理人ハ職工徒弟又ハ職工徒弟タラムトスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代表者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第十七條　職工ノ雇入、解雇、周旋ノ取締及徒弟ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　工業主ハ工場ニ付一切ノ權限ヲ有スル工場管理人ヲ選任スルコトヲ得

工業主本法施行區域内ニ居住セサルトキハ工場管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

工場管理人ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ法人ノ理事、會社ノ業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者及支配人ノ中ヨリ選任スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　前條ノ工場管理人ハ本法及本法ニ基キテ發スル命令ノ適用ニ付テハ工業主ニ代ルモノトス但シ第十五條ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

工業主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ工場管理人ナキトキハ其ノ法定代理人又ハ理事、業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他ノ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ付亦前項ニ同シ

第二十條　工業主又ハ前條ニ依リ工業主ニ代ル者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス但シ工業ノ管理ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ職工ノ年齡ヲ知ラサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス但シ工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者及取扱者ニ過失ナカリシ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　本法ニ依ル行政官廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十四條　主務大臣ハ第一條ニ該當セサル工場ニシテ原動力ヲ用フルモノニ付テハ第九條、第十一條、第十三條、第十四條、第十六條及第十八條乃至第二十三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第二十五條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ハ工場管理人ニ關スル規定及罰則ヲ除クノ外官立又ハ公立ノ工場ニ之ヲ適用ス

官立工場ニ關シテハ所轄官廳ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政官廳ニ屬スル職務ヲ行フ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正五年一月二十二日勅令第八號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行ノ所同年五月三十一日勅令第百五十六號ヲ以テ同年九月一日ト變更ス）

附　則（大正十二年法律第三十三號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十五年勅令第百五十二號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

本法中十六歲トアルハ本法施行後三年間ハ之ヲ十五歲トス

職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ本法施行後三年間ハ第四條ノ規定ヲ適用セス

前項ノ規定ニ依リ十五歲未滿ノ者及女子ヲシテ就業セシムル場合ニ於テハ毎月少クトモ四回ノ休日ヲ設ケ十日ヲ超エサル期間毎ニ其ノ就業時ヲ轉換スヘシ

●改正工場法施行期日ニ關スル件

（大正十五年六月五日勅令第百五十二號）

工業勞働者最低年齡法及大正十二年法律第三十三號工場法中改正法律ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●工場法施行令

（大正五年八月三日勅令第百九十三號改正）

沿革　大正一一年一一月勅令第四七一號、一五年六月第一五三號改正

第一章　通則

第一條　左ニ掲クル事業ノミヲ營ム工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外ス但シ內務大臣ノ定ムル原動機ヲ用フルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　寒天、凍蒟蒻、凍豆腐、湯葉、麵類又ハ麩ノ製造

二　行李、簾、籠、和傘骨其ノ他ノ杞柳、篠、竹、竹ノ皮、經木、蔓、莖又ハ藁ノ手工品ノ製造

三　經木眞田又ハ麥稈眞田ノ編製

四　「アタン」、「パナマ」又ハ之ニ類スルモノヲ以テスル帽子其ノ他ノモノノ編製

五　扇子、團扇、和傘又ハ提燈ノ製造

六　紙、絲、棉、竹又ハ布帛ヲ主タル材料トスル玩具又ハ造花ノ製造

七　形紙、紙國、元結又ハ水引ノ製造
八　手工ニ依ル被服、足袋其ノ他ノ布帛類ノ裁縫
九　手工ニ依ル組紐ノ編製
一〇　刺繍、「レース」、「バテンレース」又ハ「ドローンウォーク」ノ業

第二條　鑛業法ノ適用ヲ受クル工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外ス

第三條　左ニ掲クル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項第二號ニ該當スルモノトス
一　毒劇物又ハ毒劇藥ノ製造
二　動物ノ剝製
三　水銀ヲ用フル計器ノ製造
四　水銀喞筒ヲ用フル寫法罐ノ製造
五　鉛ヲ用フル罐ノ製造
六　珐瑯鐵器又ハ珐瑯藥ノ製造
七　塗料、顏料、印刷用インキ又ハ繪具ノ製造
八　亞硫酸瓦斯、「クロール」瓦斯又ハ水素瓦斯ヲ用フル事業
九　硫黃ノ精製
一〇　「チアン」加里又ハ硝酸鹽ヲ用フル金屬ノ熱處理
一一　「ファクチス」ノ製造
一二　脂肪油ノ精製
一三　「ボイル」油ノ製造
一四　乾燥油又ハ溶劑ヲ用フル擬革紙布又ハ防水紙布ノ製造

一五　溶劑ヲ用フル護謨製品ノ製造
一六　溶劑又ハ「ラバーセメント」ヲ用フル護謨製品ノ貼合
一七　溶劑ヲ用フル油脂ノ採取
一八　溶劑ヲ用フル芳香油ノ製造
一九　溶劑ヲ用フル野草莚ノ捺染
二〇　溶劑ヲ用フル模造眞珠ノ製造
二一　溶劑ヲ用フル「ドライクリーニング」(單ニ拂拭スルモノヲ除ク)
二二　溶劑ヲ用フル紳創膏ノ製造
二三　「タンニン」酸ノ製造
二四　合成染料又ハ其ノ中間物ノ製造
二五　「セルロイド」ノ製造、加熱加工又ハ鋸機ヲ用フル加工
二六　硝化綿ノ製造
二七　「コロヂウム」ヲ用フル紙擦製品ノ製造
二八　「エーテル」ノ製造
二九　酒精ノ製造又ハ變性
三〇　「ヴイスコーズ」ノ製造
三一　「テレピン」油ノ蒸溜又ハ精製
三二　鑛油ノ蒸溜、精製又ハ罐詰
三三　「アスファルト」ノ精製
三四　瀝青物ヲ用フル建築用ノ「フェルト」又ハ紙ノ製造